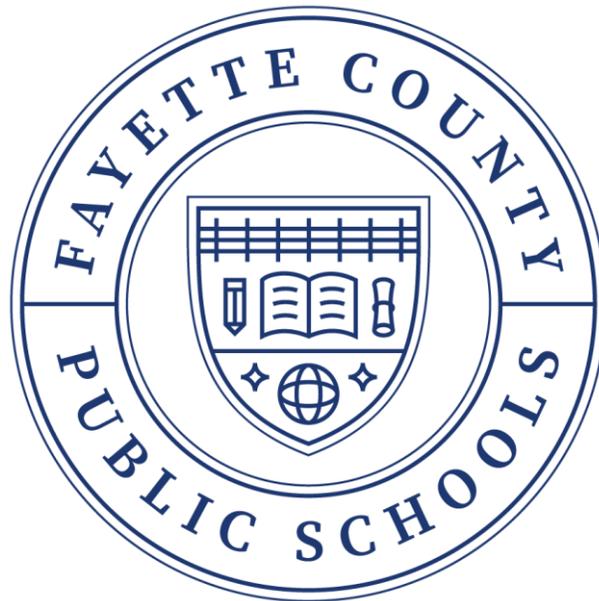


2022-23

期待と責任に関する記述:

生徒行動規範 ガイド



私たちの使命は、すべての生徒が高いレベルで達成し、グローバル社会で卓越する準備ができた卒業を保証する協力的なコミュニティを作成することです。

目次

1.0	<u>前書き</u>	3
1.01	<u>最高責任者からのメッセージ</u>	3
1.02	<u>公平性記述と行動管理理念</u>	4
2.0	<u>生徒の行動の期待</u>	6
2.01	<u>地区レベル</u>	6
2.02	<u>学校とその他の場所レベル</u>	7
2.03	<u>地区レベルバスでの期待</u>	7
3.0	<u>行動管理(要約)</u>	8
3.01	<u>責任(管理者)</u>	8
3.02	<u>責任(その他学校スタッフ)</u>	8
3.03	<u>責任(スクールポリス)</u>	9
3.04	<u>責任(両親/保護者)</u>	9
3.05	<u>期待要約(両親/保護者)</u>	9
3.06	<u>期待要約(生徒)</u>	10
3.07	<u>オフィス懲罰紹介</u>	11
4.0	<u>生徒行動規範違反</u>	12
4.01	<u>定義と例</u>	12
	<u>クラス I 規範違反</u>	12
	<u>クラス II 規範違反</u>	14
	<u>クラス III 規範違反</u>	16
	<u>クラス IV 規範違反</u>	23
4.02	<u>関連警告(ポリシー違反)</u>	30
	<u>出席</u>	
	<u>バス騒ぎ</u>	30
	<u>閉校キャンパス</u>	30
	<u>薬品投与</u>	30
	<u>個人電子機器</u>	31
	<u>遅刻,早退,と欠席</u>	31
	<u>テクノロジーポリシー違反</u>	33
	<u>おもちゃ武器とレーザーポインター機器</u>	33
	<u>不登校と習慣的不登校</u>	33
4.03	<u>関連警告(法律違反)</u>	35
	<u>犯罪行為</u>	35
	<u>アルコール,ドラッグ,合成ドラッグ,と中毒性物質</u>	35
	<u>いじめ</u>	37
	<u>ハラスメント/差別</u>	37
	<u>学校職員に対する犯罪</u>	38
	<u>暴力、暴行、テロの脅威</u>	38
	<u>致命的な武器と危険な器具</u>	39
5.0	<u>行動管理オプション</u>	41
5.01	<u>定義と例</u>	41
	<u>支援的対応(非公式;設定または学校レベル)</u>	41
	<u>支援的対応(公式;地区レベル)</u>	43
	<u>伝統的対応(非公式;設定または学校レベル)</u>	43
	<u>伝統的対応(公式;学校レベル)</u>	44
	<u>伝統的対応(公式;地区レベル)</u>	45

5.02	関連警告	45
	体罰	45
	I.S.S. ルーム/S.A.F.E.ルーム	45
	スポーツ活動への参加条件	45
	運転免許証の取り消し	47
	プリスクール生徒	47
5.03	行動管理チャート	49
6.0	行動管理プロセス	59
6.01	プロセス (非公式アクション)	59
6.02	プロセス (停学)	59
6.03	プロセス (退学)	60
6.04	関連警告	61
	両親コンファレンス	61
	障害のある生徒の停学/退学	61
	弁護士の特権	61
7.0	苦情及び懇願	62
7.01	生徒の苦情	62
7.02	停学の懇願	62
8.0	その他インフォメーション	63
8.01	電子監視	63
8.02	保護者/非保護者による入学	63
8.03	地域外アサインメント	64
8.04	物理的な拘束及び隔離	64
8.05	認可スポーツと非認可スポーツ	65
8.06	財産と人物の捜査	65
8.07	生徒退学要件	66
9.0	年次報告書及び通知	67
9.01	FERPA/KFERPA	67
9.02	児童の権利修正の保護	69
9.03	無差別	70
9.04	特別教育と子どもの発見	70
9.05	パブリックベネフィット又は保険の利用(メディケイド)	71
10.0	フォーム	72
10.01	FERPA ディレクトリーインフォメーション拒否	72
10.02	メディアカバー拒否	73
10.03	ミリタリーリクルート拒否	74
	スクールプログラム コンタクトインフォメーション	75

1.0 前書き

1.01 最高責任者からのメッセージ

FCPS のご家族と生徒の皆様:

フェアアットカウンティパブリックスクールでは、子どもたち全員を教えることに力を入れており、学業面での成功と社会的感情面での成功は密接に関係していることを認識しています。誰もが歓迎され、尊重されていると感じる安全で尊敬される学習環境を確保するには、学校でお互いにどのように接するかを明確に期待することから始まります。

行動上の問題が教育や学習のプロセスを妨げると、誰も勝利を得ることはできません。よく考えられた計画、コミュニケーション、協力があれば、今と将来に子どもたちを助けることができます。

教師が生徒の学習に対する教室での明確な期待を設定しているように、フェアアットカウンティ教育委員会は地区全体の期待を設定する政策を採用しています。学生行動規範の目的は、生徒の行動に関連するすべての地区の方針を1つの文書で伝えることです。生徒、家族、教師、管理者の意見を取り入れて作成されたこのガイドラインは、法律と政策を順守し、生徒に対する高い基準を伝え、問題が発生した場合にスタッフが従うプロセスを説明し、不正行為の結果を概説しています。

今年度から FCPS では、地区内の中学・高校レベルにおいて、RESET と呼ばれる行動規範を導入します。この取り組みでは、懲罰的な措置の代わりに、問題の根本的な原因に対処し、生徒を成功への道に戻すために、修復的で支援的な方法を用います。

家族と教育者は、生徒が無限の可能性を発揮できるように指導し、サポートする責任を共有しています。生徒行動規範は、FCPS の全生徒に配布される Chromebook のデスクトップで、誰もが利用できるよう、多言語で用意されています。また、[こちら](#)からリクエストするか、859-381-4100 に電話で、紙のコピーを入手することもできます。

素晴らしい1年になるよう、皆さんと協力できることを楽しみにしています！

敬具,



デミトラス・リギンズ, PhD

フェアアットカウンティパブリックスクール最高責任者

1.0 前書き (続き)

1.02 公平性と行動管理の理念の表明

公平性記述

すべての生徒に世界水準の教育を提供するため、フェイアットカウンティパブリックスクールは、機会格差を是正し、排他的な慣行や制度を排除し、バリアフリーの学習環境を作るために、適時、計画的、かつ統一的に行動することを約束します。そのためには、社会正義を推進し、不平等を廃墟し、生徒が最高の可能性を発揮するのを妨げる歴史的、社会的障壁を取り除くために、政策とガバナンスの両面から戦略的な意思決定を行う必要があると認識しています。

地区として、私たちは真の教育的公平性が重要だと考えています：

- **一体性:**生徒、スタッフ、家族、コミュニティの多様性を称賛し、様々なバックグラウンドを持つ人々を理解し、効果的に関与することを生徒に教えることで、すべての学習者が歓迎され、受け入れられ、学校での嫌がらせや差別から保護される。
- **アクセス:**すべての学習者は、すべての学問および課外の機会に積極的に参加する機会を平等に持つものとする。
- **プロセス:**すべての学習者は、生徒の多様性を反映した質の高いコースワークや、生徒のニーズを満たすために準備され、サポートされている質の高い教師を含め、公平かつ公正であるが、同一ではない待遇とサポートを受けるものとする。
- **成果:**すべての学習者は、高い学問的及び社会的期待の達成を確保する教育経験を有するものとする。すべての生徒が成長と成果を発揮できるようにするため、私たちは、排他的な慣行を排除し、生徒が最高の潜在能力に到達するのを妨げる歴史的、社会的な障壁に対処するため、時宜を得た慎重かつ統一的な行動を取らなければなりません。

行動管理理念

生徒が効果的かつ積極的に学習に取り組み、生徒と学校職員との間に良好な関係が存在し、家族、地域社会、学校職員が協力して生徒の良好な成果を支援することにより、学校の安全と学業の成功が創出され、強化される。

フェイアットカウンティパブリックスクールは、積極的行動介入・支援 (PBIS) の利用を促進することにより、すべての生徒に質の高い教育を提供することに取り組んでいます。学校内に、生徒のニーズを満たし、期待を理解し、指導し、安全で秩序ある環境を維持するコミュニティを作ることが重要であると考えています。

PBISは、すべての生徒が社会的および学業的な成功を収めるように設計された多階層支援システム (MTSS) の行動構成要素です。MTSSのフレームワークは、質の高い証拠に基づく指導、介入、および評価の実践を活用して、すべての生徒に必要な合った指導とサポートのレベルを提供します。

MTSS/PBISフレームワークには、次の3段階の介入が含まれる。：

- 第1段階の介入は、すべての学生が学業および行動に関する指導の形で受けるサービスを指す。第1段階は、問題行動を予防し、社会性のある行動を奨励し、特定の学校の生徒に特有の学業的、行動的、社会的感情的ニーズに対応するために、すべての生徒が利用できる学校全体およびクラス全体の支援と介入を提供する。社会的情緒学習 (SEL) は、人間関係の強化、効果的なコミュニケーション、危害を認識し修復するスキルを教えることに焦点を当てた、しつけに対する統合的なアプローチです。SELについてもっと知りたい方は、www.casel.org。(アカデミック、ソーシャル、エモーショナル・ラーニングのための共同体--CASEL)

- 第2段階の介入は、より個別的な指導と支援を必要とする生徒に対して行われる。これらのサービスは、教室内または教室外の小グループで提供されることがある。第2段階の指導と支援の目標は、生徒の成績を向上させ、学習と社会的発達に対するさらなる悪影響を防ぐことである。
- 第3段階の介入は、個々の生徒の具体的なニーズに合わせた集中的な支援を提供する。これらのサービスは、個別または小グループで提供される。第3段階の指導の目的は、生徒が学校での成功に必要な学力や行動力を身につけるための大きな障害を克服できるようにすることである。

この規範は、学校がすべての生徒と学校関係者のために、安全で、前向きで、尊敬に満ちた学習環境を作るために、フェアアットカウンティ教育委員会によって採択されたものである。

1.0 前書き (続き)

1.02 公平性と行動管理の理念の表明 (続き)

私たちは、学校の学習環境と生徒の行動が改善されるのは、生徒が次のような場合であると認識しています:

- 学校で何が期待されているかを知る
- 自分は学問的、社会的なスキルをもっていると信じていることができる
- うまくできたり、適切な行動をとったりしたときに、認められたり、ほめられたりする。;そして
- 学校に、自分のことを気にかけてくれる人がいて、自分の成長を支え、励ましてくれると感じる。

フェアアットカウンティパブリックスクールに在籍する生徒は、他のすべての人の権利を観察し、尊重する責任がある。アメリカ合衆国最高裁判所は、生徒は正当な法律上の手続きによって確立された正当な理由なしに、公教育を受ける機会を否定されることはないとしている。他人の権利を責任を持って守るには、他人を脅したり、妨害したり、教育の機会を奪ったりしないような行動が必要である。

期待と責任に関する記述:生徒行動規範の第1版は、教育長によって任命された生徒、保護者、教師、管理職からなる委員会によって作成されました。同じメンバーで構成される常任委員会が、理事会の方針に基づき、この規範を見直し、改訂しています。

開発・検討プロセスには、上記のグループを代表する個人による委員会、ケンタッキー州教育省ガイドラインへの準拠、州規制への準拠、法律顧問による検討、FCPS教育委員会による検討と採択が含まれる。

この規範は、フェアアットカウンティ教育委員会によりいつでも改正される可能性がある。教育委員会の方針変更に関する標準的な手続きは、規範の改正に適用されるものとする。改正案は、理事会メンバー、教育長、校長、教員、生徒、および保護者が提出することができる。本規範と理事会の採択した方針および手続きとの間に矛盾がある場合、理事会の方針および手続きが適用されるものとする。

各校長は、毎年、教職員と生徒に対し、本規範のオリエンテーションを実施する。この規範は、保護者および全従業員にも提供される。本規範のコピーは、各学校およびFCPSウェブサイト (www.fcps.net) で入手できます。関連する方針と手続きは、www.Fcps.net/policies で入手できる。地区は、障害を持つ生徒や英語を話さない生徒および保護者とのコミュニケーションのための規定を設ける。本規定に関する問題、懸念、質問は、学校長に直接お問い合わせください。

生徒の行動に関する事柄にこの規範が適用されるのは、学校の建物や敷地内、あるいは生徒が登下校している時間に限られず、校内外の学校に関連する活動や学校主催の活動にも適用されます。また、この規範は、生徒や職員の安全や福利を脅かし、すべての生徒のために安全な学習環境を確保する学校の能力に直接影響を与えるような、学校の敷地外で発生した行動にも適用されます。この規範はすべてを網羅する文書ではなく、時には異常な状況から生じる問題に対処できないこともあります。そのような場合は、管理者の慎重な判断と裁量が優先されるものとします。

ケンタッキー州教育改革法では、学校単位的意思決定 (SBDM) を定めています。このモデルの一環として、学校評議会は、校長が実施する方針を採択することが求められている。学校は、生徒、保護者、教師、カウンセラー、校

長の責任を含む、規律や学級経営技術の選択と実施に関する特定の方針を持つことになるが、SBDM評議会の規律方針は、法（KRS 160.345）で定められた最小と最大のパラメータの範囲内に収まっていなければならない。

この文書は、生徒の積極的な行動を支援し、非行を正すための有用なガイドとなることを意図しています。すべての生徒が成功できる安全な学習環境を作るには、登校初日から最終日まで、生徒、保護者、教師、管理者の総力を結集する必要があります。

力を合わせて、安全で豊かな学校環境を作り上げましょう！

社会的情緒学習は、人間関係の強化、効果的なコミュニケーション、危害を認識し修復するスキルの指導に重点を置いた、しつけに対する統合的なアプローチである。(アカデミック、ソーシャル、エモーショナル・ラーニングのための共同体--CASEL)

2.0 生徒の行動に対する期待

2.01 地区レベル

地区は、安全で肯定的かつ秩序ある学習環境に貢献するだけでなく、生徒の高い学力達成を支援する行動と行動を選択できるよう、期待される行動を維持する権限と責任を有する [KRS 158.148, 158.440, 158.442, 158.645, 160.290 and 160.295; 704 KAR 7:050; FCPS 05.4 and 09.438]。生徒に対する行動上の期待は、地区レベル、学校レベル、および設定レベルで適用されるものとする。

地区レベルの行動規範は、常に学校の敷地内に適用されるものとする。本規定において、“学校敷地内”とは、以下のいずれかを意味する：

- 生徒が学校または学校主催の活動に行き来している間。
- 生徒が学校にいる間。
- 生徒が学校主催の活動（例：遠足やスポーツイベント）に参加している間。

生徒の行動や振る舞いが以下のいずれかに合理的な影響を与えることが証明される場合、地区レベルの行動規範が学校の敷地外でも適用されることがある。：

- 生徒の安全。
- 他者（他の生徒や学校関係者など）の安全。
- 地区の秩序ある運営。

規範において、“校外”とは、上記の“校内”に記載されている場所以外を指す。

一般的な期待

生徒であるあなたは、以下のように行動する責任がある：

安全
• 常に安全に行動する
• 学校のドアは常に閉め、適切なチェックイン手順に従う
• 学校の敷地内で脅威、武器や危険な道具、その他の安全に関する懸念や規範の違反に気づいた場合、すぐに学校関係者に知らせる
責任
• 学校とバスの交通に関するすべての規則と手続きを知り、それに従う
• 学校と授業に定期的に、時間通りに出席する
• 各授業に参加し、その要件を満たすためにベストを尽くす
• 不正や盗作をせず、公正に単位や成績を取得すること。
• 自分の持ち物*を守ること
* 持ち物の紛失や盗難は、生徒または保護者の責任であり、学区の保険ではカバーされません。

尊敬
• 個人または学校の所有物を尊重する
• 学区の職員および実習生からの合理的な要請を尊重する
• 混乱や無秩序を生じさせず、他人の権利を侵害しないよう行動する

2.0 生徒の行動に対する期待 (続き)

2.02 学校とその他の設定レベル

各学校、教室、その他の参加型の場において、生徒に追加の行動規範が適用される。これらは、学年の始めに、または生徒が入学したときに、学校関係者から生徒と両親/保護者に提供される。

場合によっては、取締役会の方針に従って、期待事項を掲示することがある

2.03 地区レベル バスの期待

生徒として期待されること:

バス停
• バス時刻の 5分前 には指定されたバス停に到着する。運転手は生徒を待つことはできません。
• すべての物品を車道から離し、交通の妨げにならないようにする
• 個人の所有物に敬意を払う
• 周囲の住民の迷惑にならないよう、騒音は控える
• バスが停まるまで待ち、バスドアまで整然と歩く
• 道路の反対側に住んでいる場合は、バスが到着し、運転手が横断の合図をするまで、道路の自分の側で待つ
• バスに乗るときは、事前に校長から書面で許可を得て、バス運転手に提供した場合を除き、自宅の最寄りの停留所のみを使用する。
• 自分や他人が怪我をするような危険な状態を作らない
• 生徒や大人に対して、常に尊敬の念を持って話し、行動する
バス
• バスの運転手やモニターの指示に常に従う
• 運転手が座席を指定した場合は、その座席に座る
• 運転手の指示で相席になる。
• 身体の一部やその他の物品をバスの中にとどめる
• 自分や他人が怪我をするような危険な状態を作らない
• 飲食物はバッグ、リュックサック、容器などに入れましょう (バス内での飲食は安全上のリスクがあります)
• 生徒や大人に対して、常に礼儀正しく話し、ふるまう
• 次のような禁止物をバスに持ち込まない: <ul style="list-style-type: none"> ○ タバコ、電子タバコ、水蒸気製品 ○ 武器、爆発物、その他危険物 ○ 麻薬、麻薬道具、またはアルコール類 ○ 動物や他の乗客が怖がったり、運転手の注意をそらすようなもの
降車
• バスから降りるときは、事前に校長先生の許可を得て、バス運転手に伝えた場合を除き、指定されたバス停でのみ降りる

<ul style="list-style-type: none"> バス停の反対側に住んでいる場合は、バスの約 10 フィート前方まで行き、運転手の合図を待って道路を渡ってください。バスから少なくとも 10 フィート離れてください 停車中のスクールバスの後方を横切らない
バス避難
<ul style="list-style-type: none"> 運転手またはその他権限者の指示がある場合を除き、後方の非常口は使用しない 窓から出ることは避ける バス運転手や学校関係者の指示に従い、避難訓練に参加する
<p>注:避難訓練は、毎年 4 回実施されます。各訓練は、バス内の利用可能な出口を順番に使用し、緊急時に従うべき適切な安全手順を生徒に周知させることを目的としています。</p>
運転
<ul style="list-style-type: none"> バスが近くにいるときは、必要なときに完全に停止してください。

3.0 行動管理の概要

フェアアットカウンティパブリックスクールは、停学や退学といった排他的な懲罰を制限することを約束する。私たちは、学校環境は、生徒間および生徒と職員との間の好ましい対人関係によって特徴づけられるべきであると考えています。

懲戒処分を行う前に、生徒はまず、好ましい学校環境を作り上げ、否定的な行動を避けるために必要なスキルを学ぶよう支援されなければならない。学校は、前向きな校則と社会的スキルを教え、生徒の適切な行動を積極的に強化し、非行への早期介入と支援策を提供し、修復的実践を含め、論理的で意味のある結果を用いるようにする。

学校関係者は、生徒が行動を自己制御できるように、また生徒の非行を可能な限り未然に防ぐために、さまざまな行動支援を用いることが奨励される。これらの支援では不適切な行動や容認できない行動を防ぐことができないことが明らかになった場合、ここに定義されているように、迅速な是正措置を取ることが不可欠である。

生徒と両親/保護者は、生徒の行動規範違反に対処するために学校関係者が行動を起こす場合、合理的かつ公平で、一貫した扱いを受けることを期待することができる。行動規範の残りの部分は、以下に要約される期待事項の根拠を詳述している。

3.01 責任 (管理者)

各学校レベルの管理者は、以下の責任を負う。:

- 安全で礼儀正しく、公平で尊敬に値する教室環境を実現するために、学校レベルで期待される行動を定義し、教え、強化し、模範とし、見直す。1) 学習に役立つ、2) 他人の権利を促進する。
- 学校関係者、保護者、生徒、地域機関（該当する場合）と以下のことについて連絡を取る。1) 学校レベルで期待される行動 2) 生徒の適切な行動に対する期待を教え、強化し、模範とし、見直す手順とプログラム 3) 目標とする行動能力の開発を通じて期待される生徒の行動を育成する証拠に基づく介入について、学校関係者、保護者、地域機関（該当する場合）と話し合う。
- すべての学校スタッフ、保護者、訪問者、およびボランティアに、生徒の好ましい行動を強化するよう奨励する。
- 生徒と職員の安全、健康、福祉を守るため、必要に応じて FCPS スクールポリスに通知する
- 障害者教育法 (IDEA)、セクション 504、および障害を持つ生徒の懲罰に適用されるケンタッキー州の手続き上の保護措置を遵守する。
- 両親/保護者と面談し、その意見を考慮するための合理的な努力をする
- 生徒の非行に対処するために取った行動を文書化する
- データを使って、行動管理戦略の進展と効果を監視・評価する。

3.02 責任 (その他学校スタッフ)

各教師は、以下の責任を負う:

- 安全で、礼儀正しく、公平で、尊敬に値する教室環境を実現するために、設定レベルの行動期待を定義し、教え、強化し、模範とし、見直す。1) 学習に役立つこと 2) 他人の権利を尊重すること。
- 適切な行動を奨励し、認めるための手順を開発する
- 不適切な行動や容認できない行動を生徒に説明する
- 不適切な行動や容認できない行動を阻止するための手順を開発する
- 不適切あるいは容認できない行動を正し、方向転換させ、解決するための行動をとる
- 学校のすべての方針と手続きに従う
- すべての生徒に対して、前向きでプロフェッショナルな態度を保つ
- 生徒の不正行為に対処するために取った行動を記録する
- 行動管理戦略の進展と効果を監視し、評価するためにデータを活用する

3.0 行動管理の概要 (続き)

3.03 責任 (FCPS スクールポリス)

FCPSの各スクールポリスは、以下の責任を負う:

- 生徒をサポートする健全な学校環境を促進するために、生徒とポジティブな関係を築く。
- 学校職員と協力し、学校の全施設における生徒、職員、家族、コミュニティ住民の安全を向上させる
- 地区レベルの安全対策と連動した学校レベルの安全対策、手順、および最良の慣行を開発する
- 生徒の全体的な成功に貢献する前向きな役割モデルとなる
- 学校環境において危害の差し迫った脅威に直面した場合、あるいは法律違反が発生した場合、適切な警察対応をする
- 詳細は、セクション [4.03 “関連通知 \(法律違反\)”](#) を参照

3.04 責任 (両親/保護者)

両親/保護者は以下の責任を負う:

- 教育や学習の重要性を子供に強調する
- 子供が毎日時間通りに登校していることを確認する
- 子供の親権者に変更があった場合は、学校に報告し、書類を提出する
- 子供が授業や宿題を完了するのを助けるためのリソースを提供する
- 学校行事に参加する
- 子供の進歩について、常に学校と連絡を取り合う
- 学校および地区の職員と礼儀正しくコミュニケーションをとる
- 子供の行動や学業成績に関して、両親/保護者/教師懇談会や学校から要請されたその他のミーティングに参加する
- 懲戒処分が必要な場合は、学校に協力する
- 子供や他の子供、学校関係者の安全を脅かすような状況や事情（健康問題、家庭問題、社会的な問題など）がある場合は、学校に通知する
- 規範、学区の方針と規則、学校の規則を熟知しておく

3.05 期待概要 (両親/保護者)

両親/保護者として、期待できること:

- 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性自認、性的指向、障害に関係なく、一人の人間として尊重されから
- 学校のすべての職員から礼儀正しく扱われる
- 学業上の要件、学校のプログラム、成績評価、昇進のポリシーについて知らされ、理事会および学校を基盤とした意思決定協議会のポリシーと運営手続きにアクセスする
- 両親/保護者/教師の懇談会に参加する

- 子供の累積記録、記述作品、生徒ポートフォリオへのアクセス、虚偽または誤解を招く情報の削除や訂正の要求、あるいは子供に関する情報の外部受信者の名前と住所の要求（[セクション 9.01](#)を参照）。
- 例外的な生徒のためのプログラムについての情報を得る、および該当する場合、子供の特別教育クラスへの編入に関する決定に参加する
- 子供の教育的な進歩や向上のために、利用できるあらゆる援助を受ける
- 教室の規律が維持されることを期待し、子供に適用される規律措置が文書化された場合、その内容を知らされる
- 子供について、迅速かつ適切な連絡を受ける
- 学校のポリシー、プログラムの開発、評価、情報発信を行う学校レベルのグループ（PTA、PTSA、SBDMなど）に参加する特権を持つ

3.0 行動管理の概要 (続き)

3.06 期待概要 (生徒)

生徒として、期待できること:

- 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性自認、性的指向、障害に関係なく、敬意を表して扱われる
- 他の生徒、フェイアットカウンティパブリックスクールの職員、学校ボランティア、学校訪問者によるいじめ、嫌がらせ、虐待（言葉、身体、性的性質）、またはそのような脅しから解放される
- 非行に対する処罰を反映したものではなく、学業成績のみに基づいた成績評価を受ける。また、各クラスでどのように成績が決定されるのか、説明を受ける権利がある
- すべての学校の規則、方針、手続きについて説明を受ける
- 自分の学業成績を（州法および連邦法に従って）閲覧し、疑問点を説明され、誤りを訂正される。あなたの学校の記録は機密です。学校の職員と連邦法で認められた特定の機関以外、あなたが 18 歳の場合は本人の同意なしに、あなたが 18 歳未満または保護者の扶養家族の場合は保護者の同意なしに、また適切に発行された裁判所命令や合法的に発行された召喚状（[セクション 9.01 項参照](#)）なしに、教育記録を点検、見直し、移譲することはできない。
- 免責された欠席から学校に戻った際に、作業を補う（[セクション 4.02](#)を参照）。補習を行う場合は計画期間中、または授業時間前後に、本人または保護者の責任において教師に連絡する。欠席から学校に戻った時、欠席した日数と同じ日数に加え、さらに1日、補習をすることができます。発表されたテスト、主要なプロジェクト、学期末レポートなど、十分な学習・準備期間があったものについては、復帰した日に補習を行う。
- 言論、集会、出演、出版、請願書の配布など表現の自由を行使する。ただし、これらの権利の行使が、学校の教育課程を乱したり、職員や他の生徒の健康や福祉を脅かしたりしない場合に限る
 - 学校管理者が同意し、学校の確立された方針に従う限り、集会プログラム、公開討論会、クラブ集会、およびその他の会合を組織したり、参加したりすることができる。グループやクラブは、理事会の確立した指針に従い、秩序ある教育過程を妨げず、人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、または障害のために生徒を差別してはならない
 - 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性自認、性的指向、障害などを理由に他人をあざけり、嘲り、卑下し、刺激しない限り、ボタンや記章を着用、表示、配布してもよい。ただし、この権利行使は、学校の教育課程を乱し、職員や他の生徒の健康や福祉を脅かすことがあってはならない。学校は、服装や身だしなみに関する規則を設けることができる。ただし、そのような規則は、健康、安全、授業や学校行事への完全参加、教育過程の阻害の防止など、特定の教育目的に関連したものでなければならない
 - 学校の敷地内や校内でビラや新聞、その他の文献を配布する権利があるが、そのような配布の手順を明確に記した学校の規則に従う限り、そのような配布ができる。そのような配布は、通常の学校活動を妨げてはならず、他者の権利を侵害してはならない。学校は、中傷的、破壊的、またはわいせつな内容の出版物に関する方針を含む、学校の公式出版物に関する方針を定めることができる。これらの方針は、支配的な法的基準に合致するものでなければならない、また理事会の規則と矛盾してはならない。学校出版物の生徒スタッフは、法的責任とポリシーに従わなかった場合の結果を認識する責任がある。

- 個人と所有物の不当な搜索、および所有物の不当な押収を受けない。学校職員は、あなたが校則違反や他人を危険にさらすようなものを所持しているのではないかという合理的な疑いがある場合、あなたやあなたの所有物を搜索する権利がある（[セクション8.06](#)を参照）
- あなたに対して何らかの請求や告発がなされた場合、適正な手続きを受ける。適正な手続きは、すべての市民の権利です。いかなる請求や告発がなされた場合でも、該当する場合は、手続き上の適正手続きの保護を受ける権利がある（[セクション6.0](#)を参照）。

3.0 行動管理の概要 (続き)

3.07 OFFICE DISCIPLINE REFERRALS

学校関係者は、学校レベルの管理者に紹介することができる。紹介は、次のとおり行う：

- 違法行為または安全上のリスクが疑われる場合；
- 生徒の非行に対処するために取られた措置が、不適切または容認できない行動を是正できなかった場合；または
- 関係する特定の行動が、他の助けを必要とする場合

オフィスへの紹介や懲戒処分に先立ち、生徒はまず、学校環境で機能するために必要なスキルを学び、否定的な社会的行動を回避するための支援を受けるべきである。明確な期待を設定する指導原則と、生徒のニーズに応じて強度を増す支援の段階（MTSS）の開発により、職員は生徒の非行をより効果的に評価し、対処することができるようになる。

すべての場合において、紹介者は両親/保護者に連絡し、学校の方針に従ってオフィス規律紹介フォームを提出しなければならない。違反行為とその結果としての行政処分に関する文書は、オフィス規律紹介フォームに記載された通り、担当の管理者が保管し、FCPS行動データベース（Infinite Campus）に入力され、FERPAおよびKFERPAの規定に従って、適切な教師、管理者、メンタルヘルスサポート専門家、生徒または保護者が要求に応じて利用できるようにするものとする。

小学校、中学校、高校の懲戒処分は、行動管理表（[セクション5.03](#)参照）で指定された選択肢に従って、校長または校長が指名した者が実施するものとする。

4.0 生徒行動規範違反

4.01 定義と例

生徒の行動規範の違反の定義と例は、次のページに記載されています。違反は、比較的軽微な非行であるクラスIから、比較的重大な非行であるクラスIVまで、4つのクラスに分けられています。

クラスI 規範違反
クラスIの規範違反には、地区外に影響を及ぼす可能性がほとんどない比較的軽微な非行が含まれます。
破壊的な行動: この違反は、学習環境の中断を引き起こすことを意味します。1) 授業や活動への行き帰りに、または2) 学校関係者の是正努力にもかかわらず、授業や活動中に。
例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:
<ul style="list-style-type: none">• 授業中や活動中に不適切なタイミングで話し続けること（例：教師が話している間や、他の生徒やグループと横で会話をしている時など）• 不適切な方法でコミュニケーションをとる（例：大声で話し続ける、怒鳴る、叫ぶ、口頭または教材で不適切な音を立てる、教師の言葉を真似る/繰り返す）• 他の生徒が作業しているときに、邪魔をする• 学校関係者の是正努力にもかかわらず、その他の継続的な“課題外”妨害行為に関与すること（例：持続的に席を外す、許可なく他人を呼び出すなど）。
服装規定違反: この違反は、以下のような服装をすることを意味します。1) 注意を散漫にする、2) 混乱を引き起こす、3) その他学校の服装規定に違反するような服装をすることを指す
例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:
<ul style="list-style-type: none">• 暴力団活動、暴力団との提携、違法または禁止されている活動を促進する組織/グループを参照、支持、象徴、または関与を示唆するあらゆるタイプの服装（“色”、バンダナ、旗、ヘアネット、特定のタイプのジュエリーなど）を含む、違法または禁止されている組織に関連するアイテムを着用すること。• 未成年者にとって違法または禁止されている活動を連想させるものを身につけること（例：薬物、アルコール、タバコの使用やその他の犯罪行為を助長するような衣服）• 暴力的、性的、または不快な言葉（例：言語、フレーズ、スローガン、写真、図、絵、または記号）を含むあらゆるタイプの服装を含め、コミュニティの基準で不快とみなされるメッセージを表示または促進するアイテムを身につけること。• 民族的背景、肌の色、人種、国籍、宗教的信条、性的指向、障害に基づく差別を擁護または容認するような言葉を含む、偏見のメッセージを表示するアイテムを身につけること• 過度に露出したもの、暗示的なもの、卑猥なもの、淫らなもの。これには、動くとき身体の一部が露出するようなもの、身体の輪郭や部位を露出するもの（例：チューブトップ、カットオフシャツ、たるんだパンツ、“腹部露出”トップス）、透明な素材でできたもの、不適切に手入れされたものなどが該当します• 建物内、教室内、バス内で生徒の状態や身分を隠す可能性のあるものを身につけること

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

指定された場所からの退出、授業のサボり、無断遅刻 この違反の意味は、1) 管理者、またはスタッフメンバーの知識および許可なく、キャンパス内にいながらエリア、クラス、または活動から離れたり、クラスまたは割り当てられた活動の一部または全部を欠席すること、または 2) 禁止されているエリアにいることです。

注: 遅刻やサボりについては、各校の方針を参照

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- すでに始まっているクラスや活動に遅刻する
- 活動の後、遅刻して教室に戻ってくる
- 授業や活動をすべて欠席する
- 許可なく教室を離れる
- 必要なときに適切なホールパスを所持していない
- スタッフの許可を必要とする“立ち入り禁止”の場所（または他の部屋やエリア）にいる
- 不適切な時間に、またはエリアスーパーバイザーの許可なく、教室、運動場、ランチルームから学校内の他のエリアに移動する
- 教師が知らないうちに、あるいは教師の許可なく、キャンパス内にいて、指定されたクラス、プログラム、あるいは活動に到着しない

パーソナルテレコムデバイス: この違反は、制限された時間内に、または設定を混乱させる方法で、可聴信号を発するデバイス、振動するデバイス、メッセージを表示するデバイス、またはその他の方法で所有者 [KRS 158.165 (2)] に通信を呼び出したり配信したりするデバイスを所有または使用 (オンにする) することを意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 携帯電話/スマートフォン、スマートウォッチ、デジタルタブレット、ラップトップ、電子書籍リーダー、ネットブック (例: クロムブック®)、またはペーजィングデバイスを許可なく使用する
- 該当機器用のワイヤレスアクセサリ (例: ブルートゥース®やその他のヘッドセット) を許可なく使用する
- 学校から提供されていない、または学校に関連して使用されていない携帯用電子機器 (ラップトップ、iPad®, iPod®, MP3 プレーヤー、CD プレーヤー、ラジオ、ポケットベル、“トランシーバー”など) を使用する
- カメラ (例: 35mm カメラ、ボックスカメラ、デジタルカメラ)、電子ゲーム機やゲーム (例: “ゲームボーイ®”、PSP)、その他いかなる種類の玩具を学校に持ち込む

公共の場での愛情表現: この違反は、公共の場での、カジュアルな接触を超えた、合意の上での接触、ハグ、キス、または愛撫を意味し、環境または学校の妨害を引き起こす、または引き起こす可能性があるものです

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 1人または複数の傍観者の視界内で、学習環境を乱すような親密な性質の合意された非言語的行為に関与すること (例: 他の生徒の膝の上に座る、他の生徒をマッサージする、他の生徒にキスをする等)
- 暗示的な方法で他の生徒に触れること (例: ダンス中の“グラインド”または“トワーキング”)

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

クラス II 規範違反

クラス II の規範違反には、時折、地区外にまで影響を及ぼす可能性のある比較的軽度の違法行為が含まれる

偽りのメモ／報告書、または不正行為: この違反は、1) 学校関係者に虚偽の情報を提供する、2) 非公式文書、メモ、署名を改ざん、変更、破棄すること、3) 他人の作品をコピー／盗用し、自分の作品として提出すること、を指す。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 携帯電話を使用して、テスト項目、テストの解答、またはその他の保護された情報を他人に送信したり、不正または承認されていない方法で教師や他の生徒から資料や作品を入手する
- 他の生徒の課題/宿題の回答をコピーする
- クイズ中に情報を要求したり、提供したり、与えたり、受け取る
- 他人の労働、言語、構造、概念を自分のオリジナル作品として発表する
- インターネットから未許可/未記載の資料を入手する
- 他人の著作物の知的財産を無断で流布、配布、コピー、印刷、または派生物を作成する
- 学校関係者から質問されたときに、正直に答えない
- 犯罪でない行為について、虚偽の告発をする
- プロGRESSレポートに両親/保護者の名前、または資格レポートに教師の名前を署名する
- ホールパスの有効期限を変更する

安全性の無視: この違反は、生徒または他人を傷つける可能性のある行動や言動を意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 自己危険行為
- 悪ふざけをすること (例: 押ししたり、つまずかせる)
- “大騒ぎ” や “乱暴な遊び” をする (例: 人通りの多い場所でレスリングしたり、走ったりする)
- 危険物 (マッチ、ライターなど) の所持
- 学校時間中に外側のドアを開けたままにする
- ロッカーに関する規定に違反して、ロッカーに禁止されている物品を保管する
- 校内でスケートボード、ローラーブレード、または “ローラーシューズ” を使用する
- 安全でない方法で、または指定された場所以外で、校内の道路や交通量の多い場所を徒歩で横断する
- 自転車、モペット、自動車を学校内の指定されていない場所に駐車したり、有効な運転免許証や許可証を持たずに駐車する
- 学校内のバスや車の “降車” レーンを塞ぐ
- 学校の安全に関するプロトコルや手順に従わない (例: マスクの着用、ソーシャルディスタンスなど)

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

<p>スタッフの指示に従わない: この違反は、口頭、身体、または象徴的に、1) 学校職員の合理的な要求に従うことを拒否する、2) 破壊的な行動を止めることを拒否する、3) 学校内での懲戒処分を受け入れないことを意味する。</p>
<p>例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:</p> <ul style="list-style-type: none">● 再教育の指示があった後も、教室の規則や学校関係者の指示を拒否し続ける● スクールバスの中で静かにするようにとの指示を無視する● 警告を無視し、その場から離れることを拒否する。たむろする● この規範に違反する方法で使用されている携帯電話やその他の機器を、職員が要求したときに手放さない● 指定されたレッスンやアクティビティに参加することを口頭で拒否する● 身分証明書または学校発行の ID の提示を拒否する● 州が義務付けるテストへの参加を拒否する● リセット/学校内保留 (ISS) に入ることを拒否する● 学校のヘルスプロトコルに従うことを継続的に拒否する (例: マスク着用、ソーシャルディスタンス)
<p>暴力団活動 (促進): この違反は、混乱や暴力を擁護したり、集団暴力や混乱の歴史を持つ組織的なギャング、グループ、または組織の提携や広告を示すサイン、シグナル、またはジェスチャーを表示することを意味する</p>
<p>不敬または下品: この違反は、人に向けられたものでなくとも、破壊や警告を引き起こすような方法で、悪態や下品または不適切な言葉、物、身振りを含む不敬な言葉を使うことを意味する</p>
<p>例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:</p> <ul style="list-style-type: none">● 他者に向けられたものではない攻撃的な (ただし非差別的/非脅迫的) 言葉 (例: 怒りや絶叫の爆発時に口頭または書面による悪態、汚い言葉、冒瀆、卑猥な言葉) を使用する● 象徴的な (しかし差別的でなく、脅威的でない) ジェスチャー (例えば、特定の意味合いを持つハンドサイン) を同様に使用する● ギャングの落書きおよび/またはアクセサリ (例: 既知のギャングの標識が付いた絵、帽子/バンダナ) を表示する
<p>タバコポリシー違反;所持,使用: 喫煙、噛みタバコ、ベイパー、またはその他の代替ニコチン製品を含むがこれに限定されない、ニコチンまたはタバコ製品の所持または使用。</p>
<p>タバコポリシー違反;頒布: 喫煙、噛みタバコ、ベイパー、またはその他の代替ニコチン製品を含むがこれに限定されない、ニコチンまたはタバコ製品の頒布</p>
<p>例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:</p> <ul style="list-style-type: none">● 煙の出るタバコ (例: タバコ、葉巻、パイプタバコ) を所持または使用する● 無煙たばこ (例: 代替ニコチン製品、噛みたばこ、“スナッフ”) を所持または使用する● 電子“タバコ” (例: E’シガレット、ベイパー製品) を所持または使用する● タバコの道具 (例: 巻き紙やタバコパイプ) を所持する

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

キャンパスを離れる/学校をさぼる: この違反は、在籍している学校のキャンパスを離れること、または校長の許可/学校の承認なしに学校を欠席することを意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 終業時間前に管理者の許可を得ずに校外に出る (例: 昼食時)
- 到着後、出席を届け出る前に離れる
- 適切なチェックアウトの手順を行わずに校外に出る
- 学校の登校を拒否する

クラスⅢ規範違反

クラスⅢの規範違反には、比較的重大な違法行為が含まれ、しばしば地区外にまで影響を及ぼす可能性がある

いじめ: この違反は、他人に対する力の不均衡を伴う望まない攻撃的な行動を意味し、その行動が繰り返されるか、繰り返される可能性がある (完全な定義は **KRS 158.148** に記載)

注: 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的所属、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由に起因する行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に出席したり学校活動に参加する権利に支障をきたす恐れがあり、容認されません。さらに、このような行為は 2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 他の生徒に対する「ネットいじめ」を繰り返すこと (例: ソーシャルメディア、ブログ、テキストメッセージの送信、写真の掲載など)。
- いじめの行為を撮影し、学校コミュニティの他のメンバーと共有する (例: テキスト、ソーシャルメディア、iPhone Airdrop など)。
- 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、障害を理由に、名前を呼んだり、話や冗談を言ったり、不快感を与える絵や物を使ったりする
- 残酷な方法でからかったり、脅したり、他の生徒を社会的に排除する
- 相手の心を傷つけたり、屈辱を与えたり、脅迫するような意味を持つ絵を描いたり、写真を撮ったり、メモを書いたり、ジェスチャーをすること)
- 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、その他生徒の個々の能力とは関係のない理由に基づき、他の生徒について、その健康、安全、福祉、あるいは学校に通う権利や学校行事に参加する権利を阻害するような発言をする
- 以下のような方法で、人を押したり、引っ張ったり、近くで殴ったり、殴ったりする。 1) 虐待の雰囲気を作り出す、 2) 精神的または肉体的な傷を負わせる、 3) 他人に暴力を行使する意図やその人の所持品を損壊する意図を感じさせるような方法
- つかむ、触る、叩く、髪を引っ張る (例: 気の進まない参加者を戦闘に引き込もうとする)
- 権力を誇示すること (例: 相手を壁に押し付ける、相手の動きを追い詰める/妨害する、パーソナルスペースを侵害する)
- 他人について否定的、有害、虚偽、または意地悪な内容を送信、投稿、または共有し、困惑や屈辱を与えるようなオンライン・コミュニケーション
- 障害のある生徒が、障害のためにその活動を十分に理解したり、同意したりすることができない場合に、反社会的、危険、または犯罪的な活動に障害のある生徒を巻き込もうとする

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

偽造/変造: この違反は、詐欺、欺瞞、または傷害を意図して、書面を偽って作成、完成、または変更することを意味する [KRS 516.020 から 516.040]。

詐欺: この違反は、(1) 他の人を欺こうとすること、典型的には業績や資質を不当に主張したり、信用失せさせる (2) 不正にまたは犯罪的に欺き、金銭的または個人的利益を得ることを意図する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 書面を作成、完成、または不正に変更する (例: 偽の身分証明書を作成する、または小切手に両親/保護者のサインをする)
- 偽って金銭または財産を取得する (例: 教師のクレジットカードを使用する、または“スキミング”装置を使用して通行人から個人識別番号を抜き取るなど)
- 公文書を不正に変更する (例: 出席簿の変更、成績表や成績証明書の変更/削除)
- 公的な手続きを妨害する (例: 証拠を隠す、証人を不正に変更する、その他調査を妨害する、学校関係者を買収しようとする)

無秩序な行為: この違反は、公共の場所において、公共の不便、迷惑、または警報を引き起こす意図で、または故意に危険を作り出すことを意味する [KRS 525.060(1)]。1) 喧嘩をしたり、暴力的、騒々しい、または脅迫的な行動をする 2) 不当な騒音を出す 3) 緊急事態に危険なほど接近して公共の安全を維持するために出された公式の解散命令に従わない 4) 正当な目的を持たない行為によって危険または身体的に不快な状態を作り出す

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 教育プロセスまたは学校運営を実質的に妨害する破壊的なイベントに参加すること (例: 廊下を走ったりドアを蹴ったりすること、ウォークアウト、座り込み、ピケッティングなど)
- 破壊的な出来事を引き起こす、またはそれに加担するよう、他者に助言、指導、あおりたてる
- 学校関係者または警察官から解散を求められたにもかかわらず、解散しない

他人を危険にさらす: この違反は、参加者または他の人を傷つけ、品位を下げ、または辱める行為に参加するよう助言し、相談し、または強制することを意味する

他人を危険にさらすこと: 故意の危険行為; この違反は、他人に物理的な損傷を与える実質的な危険を生じさせる行為に関与することを意味します [KRS 508.060(1)および、508.070(1)]

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 器具 (ブレンザー、ガラス器具、塗料用溶剤など) を使って危険な状況を作り出す
- 危険なもの (例: はさみなど) を持って他の生徒を追いかける
- 参加者や他人を危険にさらすような秘密、社会、クラブ、組織の結成、実施、参加
- 学校敷地内またはその付近で、安全でない方法で自動車やスクールバスを運転する
- 校内やスクールゾーンの速度制限を超える
- 学校のバスや車の“ドロップオフ”レーンを塞ぐ

4.0 生徒行動規範違反(続き)

4.01 定義と例(続き)

喧嘩: この違反は、何らかの傷害が発生する可能性のある身体的接触を伴う、相互に攻撃的な身体的行為に従事することを意味する

注: “自己防衛”は、生徒の行動が自己防衛を示すものか、喧嘩に参加する意思を示すものかどうかを考慮し、学校管理者のみが判断する。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 相互の戦闘に関与する(例: 殴る、ひっかく、蹴る、髪を引っ張る、力づくの格闘、拳の使用を伴う生徒間の身体的接触)、または“ファイトクラブ”に参加する
- 複数の生徒の間で口論をする、または誰が始めたかにかかわらず、2人以上の側が口頭または身体で口論に貢献した、差し迫ったまたは実際の身体的な暴力を伴うその他の行為をする

ギャンブル: この違反は、学校の敷地内または学校主催のイベントで、ある結果が出た場合に誰かが価値あるものを受け取るという合意または理解に基づいて、偶然の要素に基づくコンテスト、ゲーム、ゲーム方式、またはゲーム装置の結果に価値あるものを賭けるまたは危険にさらすことを指す。

注: この違反には、学校公認の偶然性のある活動は含まれません。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 正式に賭けが行われたか否かに関わらず、利益の可能性のために金銭または財産を危険にさらすことを参加者に求める、技能または偶然性に基づくあらゆるゲーム、活動、イベントまたはシミュレーションを組織し、またはそれに関与する
- スキルまたはチャンスに基づくゲーム(例: クラップスまたはポーカー)に従事する
- ゲームサイトへのアクセス(例: ウェブベースのポーカートーナメント)
- 参加者以外のイベントに賭けること(例: プロまたは大学レベルのスポーツ賭けやスコアリングプール)
- スポーツブックとして機能する(例: 勝者への支払いのためにイベントが終了するまで賭けを保持したり、後の決済のためにスコアを保持する)

ハラスメント(非性的): この違反は、他人を威嚇、嫌がらせ、迷惑、または警告する目的で以下のいずれかを行うことを意味する[KRS 525.070(1)]. 1) 人を殴る、突き飛ばす、蹴るなどして身体的接触を与える 2) 人を殴る、突き飛ばす、蹴るなどして身体的接触を与えようとする、または脅す 3) 公共の場にいる人に対して、不快に粗暴な発言、身振り、表示、罵倒語を含む言葉を言う 4) 公共の場において、またはその周辺において、人に付きまとう 5) 相手を驚かせたり、ひどく困らせるような、正当な目的を持たない行為を行ったり、繰り返し行う、または 6) 地元の学区に生徒として在籍し、学校の敷地内、学校主催の交通機関、または学校主催の行事に参加しているとき

- 所持品を損傷し、または窃盗を犯す;
- 学校の運営を大幅に妨害する;または
- 他の生徒に身体的危害、脅迫、屈辱、困惑の恐怖を与えることを、その状況下で合理的な人が知るべき身振り、文書によるコミュニケーション、口頭による発言、または物理的な行為により、敵対的な環境を作り出す。
- 保護されたクラスのいずれかに関連する軽蔑的なニックネーム、中傷、脅迫、名前呼び、嘲笑、侮辱、軽蔑する、ステレオタイプ、卑下する話、冗談、または絵

"注意: 年齢、肌の色、障害、性自認、国籍、政治的所属、人種、宗教、性別、性的指向、退役軍人の地位、または学生の個々の能力とは関係のないその他の理由に動機付けられた行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通ったり学校活動に参加する権利を阻害する恐れがあり、容認されません。さらに、このような行為は 1) 地区のハラスメント/差別の苦情手続きの対象となる。そして 2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。"

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 他の生徒を罵倒、脅迫、または威嚇する。
- 攻撃的な文章を作成すること (例: 手書きのメモや絵、タイプした手紙、新聞の社説、絵や落書き、電子メール、テキストメッセージ、ウェブページ、またはブログエントリなど)
- ハラスメント、いじめ、その他の学生行動規範の違反を報告または目撃した人を威嚇したり、何らかの形で報復したりすること。
- 自分の性別、性自認、性的指向を侮辱するような名前を呼んだり、話や冗談を言ったり、絵や物を使ったりすること
- 興味がなくなることが明らかになった後も、デートや社交の時間を要求し続けること。
- 望まない、または不快な冗談を言うこと
- 人の体について卑下する発言をすること。
- 軽蔑的なあだ名、中傷、脅迫、名前呼び、嘲笑、侮辱、貶め、ステレオタイプ化、保護されたクラスの内づれかに関連する卑下した話、ジョーク、または絵。

ハラスメント (性的): この違反は、受領者、第三者または合理的な利害関係のない人が、深刻かつ/または広範な、歓迎されない、要請されない、望ましくない、虐待的、性的差別的または不快であると認識する、性別または性に関わる相互的でないあらゆる行為を意味する

注: 年齢、肌の色、障害、性自認、国籍、政治的所属、人種、宗教、性別、性的指向、退役軍人の地位、または生徒個人の能力とは関係のないその他の理由に動機付けられた行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通ったり学校活動に参加する権利を阻害する恐れがあり、許容されないものとします。さらに、このような行為は **1)** 地区のハラスメント/差別の苦情手続きの対象となる。 **2)** 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

歓迎されない性的誘惑、長引く接触、または性的暴力をすること。

- 性的な好意の要求や、性的な行為の提案や圧力をすること。
- 性的な示唆に富む発言をしたり、性的な噂を流したりすること。
- 性的な暗示をかけたたり、二重表現をすること。
- 誰かの性的嗜好や習慣について尋ねること。

ポルノまたは性的な示唆に富む画像、物、資料、電子メール、テキストメッセージ、またはファックスを共有すること。

- 視線を送る、または性的に示唆的なジェスチャーや表情をする。
- 人の身体について下劣な発言をすること。
- 財産を損傷したり、窃盗を犯すこと。
- 学校の運営を実質的に混乱させること。
- 他の学生に身体的危害、脅迫、屈辱、恥辱の恐怖を与えることを、その状況下で合理的な人が知るべきジェスチャー、文書通信、口頭発言、または身体的行為によって、敵対的環境を作り出す。

ハラシングコミュニケーション: この違反は、他人を威嚇、嫌がらせ、迷惑、または警告する意図で以下のいずれかを行うことを意味します **[KRS 525.080(1)]:** **1)** 電話、電信、郵便、その他の書面による通信において、匿名であるか否かを問わず、迷惑または警戒を与え、正当な通信の目的を果たさない方法で、人とコミュニケーションする; **2)** 正当な意思疎通の目的を有しない電話をかける (会話の有無を問わない。); または **3)** 学区の生徒として在学中、電話、インターネット、郵便、その他の電子的または書面による通信手段で、匿名またはその他の方法で、他の生徒と、または他の生徒について、相手の生徒に身体的危害の恐怖、脅迫、屈辱、または困惑を与えることが合理的に分かる方法で、正当なコミュニケーションの目的にならない通信を行うこと

注：年齢、肌の色、障害、性自認、国籍、政治的所属、人種、宗教、性別、性的指向、退役軍人の地位、または生徒個人の能力とは関係のないその他の理由に動機付けられた行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通ったり学校活動に参加する権利を阻害する恐れがあり、許容されないものとします。さらに、このような行為は 1) 地区のハラスメント／差別の苦情手続きの対象となる。2) 民法および／または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 他の生徒の「サイバーハラスメント」に関与する（例：ソーシャルメディア、ブログ、電子メール、テキストメッセージ、写真の送信によって）
- 喧嘩を撮影し、学校コミュニティの他のメンバーと共有する（例：メール、ソーシャルメディア、iPhone Airdrop など）。

不適切な性行為： この違反は、相互の同意に基づくあらゆる性行為に関与することを意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 学校、学校が提供する交通手段による通学途中、または学校が主催する活動で性行為を行う

わいせつ物露出： この違反は、そのような行為が人を侮辱したり驚かせたりする可能性があるを知っているか、知るべき状況下で、故意に性器を露出することを意味する[KRS 510.148(1) そして 510.150(1)]。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 意図的に自分または他人を 1 人または複数の他人に露出すること（例：胸、尻、または性器を露出すること、または“脱パンツ”する）
- 公共の場での排尿
- 不特定多数の人が見ている場所で、意図的に裸体を見せる
- バスや学校の構内など、公共の場で故意に性器を露出する
- 不特定多数の人が見ているところで故意に自慰行為をする

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

メナシング: この違反は、意図的に他人に差し迫った身体的傷害の妥当な不安を与えることを意味します [KRS 508.050(1)]。

注: 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的所属、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由に起因する行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通う権利、学校活動に参加する権利を妨げる恐れがあり、許されるものではない。さらに、このような行為は 2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 暴力を行使するために力、権力または物理的な攻撃を行う意図を伝えるか、または加害者の“現在の成功する能力”によって、そのような攻撃が差し迫っているという合理的な恐怖を被害者に喚起する脅迫的な性質の行為に従事すること (例: 平手打ちやパンチを受けると相手に思わせるために手やこぶしを振り上げたり引き戻したりすること、または誰かに向かって手を振りかざし、打たれることを予期して相手がたじろぐか身をかわずか手を挙げるようにすること)。
- 他人のすぐそばで暴力的かつ/または予測不可能な行動をとること (例: 椅子を拾って部屋の中で投げる)
- ハラスメント、いじめ、その他の生徒行動規範の違反を報告または目撃した人を威嚇したり、何らかの形で報復する
- 生徒が殴るようなそぶりを見せるが、相手に当たらない
- 危険な行為を示唆するような脅しをする
- 相手に重大な危険が迫っていると思わせる
- 他の生徒や従業員に危害を加えようとしている様子を見せた場合(例: 椅子など有害なものを手に取り、相手に向かって投げつけるような態度をとる。)

軽度の性行為: この違反は、公共の場での愛情表現 (キスや過剰なハグなど)、合意の上での性的行為、ムーニング、(つかむのではなく) お尻をなでるなど、合意または無害な性質のものがあったことを意味します。これには、ポルノを見たり共有したりすることも含まれます。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- ポルノを所持、展示、送信、配布、または作成する (例: エロティックな内容を学校に持ち込む、エロティックな内容をダウンロードする、美術の授業でエロティックな素材を作成するなど)

その他の薬物/市販薬: この違反は、確立された手順に反する方法での市販 (“OTC”) 製品または非管理下の処方薬の所持、使用、配布、または販売を意味する。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 市販医薬品 (アスピリン、タイラノール®、ベネドрил®などの抗ヒスタミン剤、下剤など) や規制されていない処方箋 (抗生物質や充血除去剤など) をバックパック、ロッカー、または所持している
- 学校関係者への事前の通知、および学校関係者の許可なく、市販医薬品を使用する
- 他の生徒にそのようなものを提供、販売、提供、または生徒間で入手する (薬物であることを誤認させるものではない)

4.0 生徒行動規範違反(続き)

4.01 定義と例(続き)

物的損害または破壊行為；犯罪的いたずら：この違反は、次のような者を意味する[KRS 512.020 to 512.040]。1) 権利を持たず、または権利を持っていると信じるに足る合理的な根拠もなく、故意または悪意で所有物を汚損、破壊、破損すること、または2) 故意に他人の人または所有物を危険にさらすように所有物を改ざんする

注：人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的所属、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由に起因する行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に出席したり学校活動に参加する権利に支障を与える可能性があり、容認されません。さらに、このような行為は2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 学校の敷地や施設を汚損する（例：“タギング”）
- サイン、植木、スプリンクラー、窓、ドアなどを壊す
- 家具（例：机を彫る）、備品（例：トイレ）または設備（例：収納ケース）を損傷する
- 妨害行為（配管）
- 消耗品を破壊する（例：教科書の汚損）
- 報復のために私物を破損する（例：成績が悪かった教師のタイヤを切り裂く）
- ネットワーク・コンポーネントを切断したり、許可なくハードウェアの設定を変更したり、許可されていないソフトウェアをロードする
- ネットワークポートのスキャン、ウィルスの持ち込み、ユーザー権限の変更
- コンピュータ・プログラムやデータを許可なく改変したり、消去する

ストーカー行為：この違反は、他人につきまったり、性的接触、身体的傷害、または死に対する合理的な恐怖を人に与える明示的または暗示的な脅迫を行う意図を意味します（完全な定義は KRS 510.140 および KRS 508.150 に記載されています）

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 相手のソーシャルメディアのアカウントに侵入して個人情報を探し、元パートナーと連絡を取り合うために偽のソーシャルメディアのアカウントを作成する、何百通もの不要なテキストメッセージやEメールを送信する、元パートナーの露骨な写真をオンラインに掲載したり、掲載すると脅迫する
- 電話による頻繁なコミュニケーション
- 職場、学校、自宅など、被害者が頻繁に訪れる場所につきまとう
- 被害者の自宅やその他の財産を破損する
- 不要なプレゼントを送りつける
- 公文書、ネット検索、ゴミ箱、持ち物などから被害者の情報を入手する
- 被害者の家族、友人、隣人、同僚に連絡する
- 私立探偵に依頼し、被害者の情報を追跡・発見する

4.0 生徒行動規範違反(続き)

4.01 定義と例(続き)

窃盗／強盗(犯罪)：この違反は、脅迫、暴力、または身体的危害なしに、地区または他者の財産を不法に取得、所有、携帯、放置、または乗り逃げすることを意味する

窃盗、盗難品の所持：この違反は、地区または他人から盗まれた物を買う、売る、受け取る、またはその他の方法で所持することを意味する

注：すべての個人所有物は、所有者の責任においてキャンパスに持ち込まれます。地区は、キャンパス内に持ち込まれた個人所有物に対して責任を負いません。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 他人の私物を盗む（例：音楽、電子機器、財布、バックパック、収集品、携帯電話、iPad®、ラップトップ、MP3 プレーヤー、CD プレーヤーなどの電子機器の窃盗など）
- 許可なくコンピュータシステムにアクセスする
- 非対立的、隠密的、または欺瞞的な状況下で、学校や地区、職員、生徒、または第三者の被害者の管理、保管、または監視から財産を持ち出す
- 学校または地区の所有物を持ち出す（例：ハードディスクをバックパックに入れたままコンピュータ室から出る、ロッカールームから備品を持ち出すなど）
- 他の生徒や職員の私物を盗む（例：教師の財布からお金を取る、個人情報のコピーしてなりすまし行為をする、販売、交換、物々交換された品物を偽って売るなど）
- そのような行為において他の生徒を援助する（例：盗まれた物品/材料の受け取り、所持、および/または保管）
- コンピュータ・システム情報の悪用によって得られたデータを故意に受領、保持、または開示する

注：人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的所属、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由に起因する行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に出席したり学校活動に参加する権利に支障を与える可能性があり、容認されません。さらに、このような行為は 1) 地区のハラスメント／差別に関する苦情手続きの対象となる。2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

脅迫-生徒またはスタッフ：この違反は、発言、コミュニケーション、行動、ジェスチャーによって、他の生徒、職員、または学校の代表者に対して、身体的危害の合理的な恐れや脅威を与えることを意味する

注：人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的所属、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由による行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通ったり学校活動に参加する権利を妨げる恐れがあり、容認されるものではありません。さらに、このような行為は 2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 生徒またはスタッフを殴る、戦う、または危害を加えるという口頭または書面による脅迫をする
- 人に傷害や危害の恐怖を与えるような意図的な行動
- 暴力を行使するために力、権力、物理的な攻撃を行う意図を伝えるか、または加害者の“現在の成功する能力”によってそのような攻撃が差し迫っているという合理的な恐怖を被害者に喚起する、脅迫的な性質の行為に従事する
- 相手に対して恐怖を与えるような身振りや姿勢をとる
- 相手に平手打ちやパンチをされる、あるいは身体的攻撃を受けると思わせるために手やこぶしを振り上げる

注：武器を使用する脅迫、大量破壊兵器を使用して身体に傷害を負わせる脅迫、いかなる者に対しても死または身体的に重大な傷害を負わせる可能性のある行為を行うと脅迫する場合、テロリズム脅迫を検討する

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

言葉による虐待: この違反は、個人を攻撃したり傷つけたりするために、乱暴で卑屈な言葉を使うことを意味します。これには、口答え、悪口、社会的に無礼なやりとりをすることが含まれるが、これに限定されるものではありません

注:人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、政治的志望、退役軍人の地位、その他生徒個人の能力とは関係のない理由による行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に出席したり学校活動に参加する権利の妨げとなる可能性があり、容認されません。さらに、このような行為は 2) 民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 無礼な言葉、敵対する言葉、攻撃的な言葉を使う
- 被害者や傍観者を軽蔑していると合理的に認識されるような言葉遣いをする
- 誰かを侮辱する言葉や、事実と異なることを信じさせるような言葉を使う
- 個人攻撃をする (例: 他の生徒やスタッフに対する罵倒や悪意のある批判に従事する)
- 軽蔑的または品位を落とすような名指しをする

クラス IV 規範違反

クラス IV の規範違反には、地区外での結果につながる可能性のある比較的極端な違法行為が含まれる

アルコールまたは中毒性物質: 所持または使用、影響下にある: この違反は、アルコール、薬物、またはその他の酩酊物質の使用と一致する顕著な行動、身体的外観、または臭いを所持、使用、または示すことを意味します。酩酊に関するすべての犯罪は、飲酒運転 (セクション 4.03 参照) を例外として含まれます。

注: 医師または歯科医師によって処方または指示された薬の使用は、FCPS 09.2241 の違反とはみなされないものとする。

アルコールまたは中毒性物質: 配布、譲渡、または販売: この違反は、理事会ポリシー ([セクション 4.03](#) を参照) に定義される禁止物質の譲渡または販売を意味する。

注: ケンタッキー州では、この犯罪はアルコール中毒および/または公共の場での中毒に相当し、人が明らかに薬物、アルコールまたは中毒物質の影響下で公共の場に現れたときに発生する。

以下のようなものを所持、輸送、受領、交換、販売、譲渡、配布、展示、使用、または影響下にあること。1) 自然発酵飲料 (例: ビール、モルト・リカー、ワイン)、その派生物 (例: “強化” ワイン)、蒸留酒 (例: ウォッカ、ウイスキー) 2) 酔わせる性質を持つ吸入剤 (例: 接着剤、ペイントシンナー、ヘアスプレー、その他揮発性物質および/または推進剤を含む製品) 3) 過酸化水素を含む製品

3) アルコールを含む市販の (OTC) 製品 (例: 咳止めシロップ)、または4) 潜在的に中毒性のあるその他の天然化合物 (例: 入浴剤、サルビア、K2または “スパイス”)

4.0 生徒行動規範違反(続き)

4.01 定義と例(続き)

放火:この違反は、学校の授業時間中、学校が主催する行事中、および/または学校の敷地内で、故意に火をつけたり、つけようとしたりする不法行為を意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 学校または地区の財産に火をつける、またはつけようとする(例:本、書類、ゴミに火をつける、促進剤の入った焼夷弾を室内に投げ入れる、爆発物を爆発させ、その後に火災を発生させるなど)
- 個人の所有物に火をつける、またはつけようとする(例:駐車中の車の中でライターを使用して火をつける)。

第1級暴行:殺傷力のある武器または危険な道具により、意図的に他人に重大な身体的傷害(“重大な身体的傷害”の完全な定義については、特に12歳以下の子供については、[KRS 500.080](#)を参照)を与える、または故意に他人に死の危険性をもたらす行為に従事し、それによって他人に深刻な身体的傷害を与える;完全な定義は、[KRS 508.010](#)で確認。第1級暴行を選択する前に、法執行機関(スクールリソースオフィサーなど)または弁護士と相談してください。この行動は、[学校成績表](#)で単独で報告されます。

第2級暴行:第1級暴行と同じ、ただし、武器や道具を使わずに深刻な物理的傷害を引き起こすことを含む、完全な定義は[KRS 508.020](#)に記載、(特に12歳以下の子供のための“深刻な身体的損傷”の完全な定義のための[KRS 500.080](#)を参照)

第3級暴行無謀に、凶器または危険な道具を使って、あるいは故意に、すべての第一応答者、ソーシャルワーカー、およびすべての学校職員とボランティアに身体的損傷を引き起こす、または引き起こそうとする。完全な定義は、[KRS 508.025](#)を参照(“身体的損傷”の完全な定義については、[KRS 500.080](#)を参照)

第4級暴行意図的または故意に他人に身体的損傷を与える、または無謀で、致命的な武器または危険な機器の手段によって他人に身体的損傷を引き起こす;完全な定義は[KRS 508.030](#)を参照、(“身体的損傷”の完全な定義は[KRS 500.080](#)を参照)

注: 暴行の被害者は自衛権を持つ

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 生徒または学校関係者の身体に傷害を負わせる
- ケンカ中に第三者に怪我を負わせること(例:ケンカを止めようとした教師を殴る)
- 傍観者暴行を行う(例:喧嘩が始まった後に第三者として喧嘩に参加する)
- 物理的なものではない衝突に対して、物理的な報復をする
- 人を健康被害に遭わせる(例:唾を吐く、嘔み付く、または他人に体液を浴びせるなど)。
- 加重暴行を加える(例:殺傷力のある武器や危険な器具を使用した暴行、他者に深刻な身体的損傷を与える、被害者が保安官または学校関連活動に従事する学校職員であることを知りながら、または知るべき理由がありながら暴行を加える)

注: 人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、その他生徒個人の能力とは関係のない理由に起因する行為は、相手の健康、安全、福祉、学校に通う権利、学校活動に参加する権利を阻害する恐れがあり、容認されません。さらに、このような行為は1)地区のハラスメント/差別に関する苦情手続きの対象となる。2)民法および/または刑法の重大な違反となる可能性がある

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

盗難: この違反は、犯罪を犯す目的で、故意に建物（または車両）に不法に立ち入る、または留まることを意味する [KRS 511.020 to 511.040]。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 学校、地区、個人の財産を所有するために強盗に入る（例：鍵のかかっていないファイルキャビネットに残されたお金を盗む目的で午後遅くまで校内に隠れる、駐車場に残された車のドアを無理やり開け、前の座席に残された財布を持ち出す）。
- 器物損壊を目的とした強盗行為（例：日中、“立ち入り禁止”になっているユーティリティルームに入り、電話線を改ざんしたり、門にボルトカッターを使って入り、建物の壁に落書きをする）
- 他の犯罪を犯すために強盗をする（例：成績変更をするために授業時間前に建物に入る、または夜間に窓ガラスを割って入り学校内を荒らす）。

第三者の所有物に侵入する（例：自動販売機のロックを解除し、中の釣り銭を取る）

危険な器具: この違反は、身体の一部を含む道具（その身体の一部を使用することによって直接的に深刻な身体的損傷が生じる場合）、物品、またはそれが使用され、使用しようとし、または使用される恐れがある状況下で、死亡または深刻な身体的損傷を容易に引き起こす可能性がある物質を所持、輸送、受領、交換、販売、譲渡、配布、展示、または使用することを意味する [KRS 500.080(3)] ([セクション 4.03](#) を参照)

注: この違反には花火も含む

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 銃器用の弾薬（例：弾丸、散弾銃の弾、その他の弾丸）
- 許可なくスポーツ用品またはレクリエーション用品（例：BB ガン、エアソフトガン、ペイントボールガン、ペレットガン、フレアガン、スターターガン、スリングショット、弓、クロスボウなど）を使用する
- 花火やその他の燃えやすいもの（例：花火、“ポップボトル” ロケット、ブラックキャット® など）
- 可燃物（例：道路照明灯、引火性液体）
- 有害なガスを発生させるもの（例：催涙ガス、発煙筒、悪臭筒）
- 刃物（例：狩猟用ナイフ、ポケットナイフ）
- スタン・デバイス（例：テザー銃®）
- 実用的な道具（例：剃刀、カッターナイフ）
- “にせもの”、シミュレーション、複製品（例：ゴム製ナイフ）
- 防御用忌避剤（例：メース、“ペッパー Sprey”、その他類似の化学 Sprey）
- 事務用品（例：レターオープナー、ペン）
- レーザーポインター

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

凶器: この違反は、KRS 500.080(4)またはその他の州法に記載されている道具を所持、輸送、受領、交換、販売、譲渡、配布、展示、使用する意図、または使用することを意味する ([セクション 4.03](#) を参照)

凶器; 模造品: この違反は、上記に定義された凶器のそっくりなもの、玩具、または複製品を所持、輸送、受領、交換、販売、譲渡、配布、または展示することを意味する ([セクション 4.03](#) を参照)

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- “破壊装置” (すなわち、密かにまたは密かに生命を奪い、生命を危険にさらし、または財産を破壊もしくは損傷するように設計された装置または物質) [KRS 237.030(2)]. または “ブービートラップ装置” (すなわち、爆発物、焼夷弾または毒ガス爆弾、手榴弾、地雷、ロケット、ミサイル、または類似の装置であって、このような装置を製造することができる組み立てられていない構成部品を含むもの)を含むが、これらに限定されない任意の大量破壊兵器 [KRS 500.080 (4) (a)]
- 死亡またはその他の重大な身体的傷害を容易に生じさせることができる発砲が可能なあらゆる武器 [KRS 500.080(4)(b)] これには拳銃 (すなわち、これらに限定されない。拳銃 (すなわち、もともと片手で発射できるように設計されたピストルまたはリボルバー、またはもともと片手で発射できるように設計されたその他の銃器) [KRS 237.060(1) and 527.010(5)]、ライフル、ショットガン、その他の銃器 [KRS 237.060(2) and 500.010(4) and 527.010(4)] が該当します (ただし、これらに限らない)
- これらの武器の構成部品 (例: ストック、バレル、フレーム、レシーバー)
- これらの武器の特定の付属品 (例: マフラー/サイレンサー)
- 爆発物または他の推進剤の作用により弾丸を発射する、または発射するように容易に改造できる品目で、直径 2 分の 1 インチを超える銃身を有するもの。
- 任意の装置を直前の 2 つの例に記載された破壊装置に変換するために設計または使用することを意図した部品の組み合わせで、そこから破壊装置を容易に組み立てることができるもの。
このような武器として表現されたもの (例えば、銃のような形状の隠し持ったもの、銃と呼ばれるもの、棒や指など衣服の下に隠して銃器として表現されたものなど)
- 市販の爆発物 (例: ダイナマイト、雷管、化学酸化剤)
- これらの武器の模造品または複製品 (例: 玩具の銃)
- 通常のポケットナイフまたは狩猟用ナイフ以外のナイフ KRS 500.080(4)(c)].
- ビリー、ナイトスティック、クラブ [KRS 500.080(4)(d)].
- ブラックジャックまたはスラップジャック [KRS 500.080(4)(e)].
- ヌンチャク、空手棒 [KRS 500.080(4)(f)].
- 手裏剣またはデススター [KRS 500.080(4)(g)].
- 金属、プラスチック、その他類似の硬質材料で作られた人工ナックル [KRS 500.080(4)(h)].

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

薬物；所持、使用、影響下にあること：アンフェタミン、バルビツール酸、コカイン、幻覚剤、ヘロイン（オピオイド）、吸入剤、マリファナ／ハシシ（THC（テトラヒドロカンナビノール）オイルのパイプを含む）、メタンフェタミン、処方薬、ステロイド（アナボリック）、合成麻薬、市販薬、類似麻薬（[セクション 4.03](#) 参照）などの規制薬物を所持している、使用、その影響下にある。この違反は、アルコール、薬物、またはその他の酔わせる物質の使用と一致する顕著な行動、身体的外観、または臭気を示すことを意味し、飲酒運転（[セクション 4.03](#) を参照）を除く、すべての酔いの犯罪が含まれる
注：医師または歯科医師が処方または指示した薬を指示通りに使用することは、そのポリシーに対する違反とみなされないものとする[FCPS 09.2241]。

薬物；譲渡または販売（流通）：この違反は、アンフェタミン、バルビツール酸、コカイン、幻覚剤、ヘロイン（オピオイド）、吸入剤、マリファナ／ハシシ（THC（テトラヒドロカンナビノール）オイルのパイプを含む）、メタンフェタミン、処方薬、ステロイド（アナボリック）、合成麻薬、市販薬、類似麻薬（[セクション 4.03](#) 参照）といった規制物質の譲渡や販売（流通）を意味する

注：ケンタッキー州では、この犯罪はアルコール中毒およびまたは公共中毒に相当し、薬物、アルコール、または中毒性物質の影響下にあることが明らかでない人が公共の場に現れる場合に起こります。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 米国麻薬取締局（DEA）の規制物質リストに記載されている、または **KRS 218A** に記載されている天然または製造の化合物、あるいは **KRS 218A.020** または **217.900 (2)** に基づく規制に基づき **Kentucky Cabinet for Families and Children** が追加する可能性がある、気分、知覚、行動に通常影響を与える物質を、合法的処方なしで、または合法的に処方箋が書かれない状態で所有、輸送、受領、交換、販売、譲渡、配布、展示、使用または影響を受けることは、例えば、以下のとおりである。1) アヘン剤（例：ヘロインまたはモルヒネ）およびオピオイド（例：オキシコティンまたはコデイン）、2) 幻覚剤およびサイケデリック（例：マリファナ、**LSD**、**MDMA** または“エクスタシー”）、3) 抑圧剤（例：パービチュレイトそしてベンゾジアゼピン）；4) 覚せい剤（例：アンフェタミン、メタンフェタミン、コカイン、“クラック”）、または5) 蛋白同化ステロイド（例：デヒドロエピアンドロステロンまたは **DHEA**）
- これらの化合物に関連する道具（例：注射器、パイプ、水パイプ、巻き紙、剃刀、松明、秤、または袋物）を所持している
- 他の物質（例えば、砂糖やオレガノ）をそのような薬物として表現する

恐喝：この違反は、以下のような脅しによって意図的に他人の財産を取得することを意味する 1) 誰かに身体的損傷を与える、またはその他の犯罪を犯す、2) 誰かに犯罪を告発する、3) 誰かに憎悪、軽蔑、嘲笑を与える、またはその信用やビジネスの評判を損なうような秘密を暴露する、または 4) 他人の法的請求または弁護に関して証言または情報を提供または証言や情報を差し控える [**KRS 514.080(1)**] ことを意味する

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 他の生徒が自発的に所持品を手放さない限り、怪我をさせると脅す
- ギャングに入らなければ、生徒のガールフレンドを傷つけると脅す
- 成績を変えないなら、教師に言いがかりをつけると脅す

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

強盗：この違反は、窃盗を達成する目的で、他者に対して物理的な力の即時使用を行う、または脅すことを意味する [**KRS 515.020** および **030**]

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません：

- 生徒の金品を要求し、拒否されるとポケットやその人から取り上げる
- 生徒を壁に押し付けて、金品を引き渡させる
- 金品を渡すことを拒否した生徒を数回殴る
- 教師から金品を強要するために、武器または“模造品”を使用する

性的犯罪；暴行または虐待: この違反は、KRS 510.010 et seq.に定義されるあらゆる種類の不法な性行為を意味する 1) 強制的に他人に性的接触（親密な部分に触れる）をすること、または 2) 精神的に無力である、身体的に無力である、あるいは合法的な同意を与える年齢に達していないため合法的な同意を与えることができない人物に対するものである

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 人の親密な身体部分を覆っている衣服に触れたり、それを取り除く、人の親密な身体部分（例：性器、股間、乳房、臀部）を撫でたり触る、自分の親密な身体部分で人をこする、他人に自分の親密な身体部分に触れるよう強要する
- 他人に性行為を強要する
- 法定強姦

暴力主義的脅迫: この違反は、[KRS 508.075]: (1) 人は、彼または彼女が、第一級のテロ脅迫の有罪である。(a) 自分または他人が大量破壊兵器を置いたと意図的に虚偽の供述をすること。1. 公立または私立の小・中学校、職業訓練校、中等後教育機関の不動産または建物、2. 学校が所有、運営、またはリースするスクールバス、3. 学校が認可した公式行事の場である公共または民間の不動産または建物、4. 政府機関が所有または賃借する建物の不動産。(b) 合法的な権限なしに、意図的に、本款(a)に規定する場所または物体に大量破壊兵器の偽造品を設置すること。(2) 大量破壊兵器の偽造は、学校またはその他の機関の最高責任者の書面による許可を得て、公式訓練の一環として、KRS 522.010 に定義される公務員によって置かれた場合、合法的な権限を持って置かれたこととなります。(3) 人は、無邪気にその情報が真実であると信じて、他人が行った脅迫を学校職員、平和警察官、法執行機関、緊急対応に関わる公的機関、または公共安全応答所に伝え、脅迫を受けた人物が分かっている場合、その人物を特定すれば、本条による違反行為の実行の罪には問われない。(4) 第一級のテロ脅迫は、Cクラスの重罪です。

[KRS 508.078]: (1) KRS 508.075 に規定されている以外の場合、第二級テロ脅迫罪が成立する。075 に規定されている場合を除き、その者が故意に (a) 一般公開される予定の公募イベント、礼拝所、または学校行事に関して、一般公開される予定の公募イベントの参加者、礼拝所の参加者、または学生グループ、教師、ボランティア、職員に対して、死亡または身体的重傷に至る可能性のある行為を行うよう脅迫すること。また、学校での雇用、学校での勤務または出席、あるいは学校行事に関連している場合、学校の敷地内または学校公認の活動に合法的に滞在していると合理的に予想されるその他の人に対する脅迫も含まれる。(b) KRS 508.075 で指定された場所以外の場所に大量破壊兵器を設置したと虚偽の供述をすること、または (c) 適法な権限なしに KRS 508.075 で指定された場所以外の場所に大量破壊兵器の偽造品を設置すること。(2) 大量破壊兵器の偽造は、KRS 522.010 に定義される公務員による公式訓練の一環として置かれる場合、合法的な権限で置かれる。(3) 人は、無邪気にその情報が真実であると信じ、他者による脅迫を学校関係者、平和警察、法執行機関、緊急対応に関わる公的機関、または公共安全応答所に伝え、脅迫を受けた人物がわかっている場合はその人物を特定すれば、本条による違反行為の実行の罪を問われないものとする

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.01 定義と例 (続き)

[KRS 508.080]: (1) KRS 508.075 または 508.078 に規定されている場合を除き、以下の場合、第三級脅迫罪で有罪となります。(a) 他人の死または重大な身体的傷害につながる可能性が高く、かつ他人の実質的な財産に損害を与える可能性が高い犯罪を犯すと脅迫した場合、または (b) 建物、集会場所、公共交通機関の施設の避難を引き起こす目的で、故意に虚偽の陳述を行った場合。(2) 第三級テロ脅迫罪は、A級軽犯罪です。

注: 罰則および罰金 [KRS 532.060]: (1) 重罪に対する懲役刑は不定期刑とし、その上限は第(2)項に規定する範囲内で確定し、KRS 532.070 に従って裁判長が修正する。(2) 法律に別段の定めがない限り、重罪に対する公認の最高禁錮刑は以下のとおりとする。(a)A 級重罪の場合、20 年以上 50 年以下または無期懲役 (b)B 級重罪の場合、10 年以上 20 年以下 (c)C 級重罪の場合、5 年以上 10 年以下および (d)D 級重罪の場合、1 年以上 5 年以下。(3) KRS 第 510 章、KRS530.020、530.064(1)(a)、または 531.310 に定める重罪については、その刑は 5 年間の収監後の監督期間を含み、これは当該犯罪に対して下される最高刑に加算される。この収監後監督の期間中、被告人が収監後監督の規定に違反した場合、被告人は以下の条件で再収監される可能性がある。(a) 最初の刑期が残っている場合はその期間 (b) 収監後監督の全期間、または最初の刑期を終えた場合は、収監後監督の残りの期間。(4) 本項に定める罰則に加え、KRS 532.400 に従って収監後監督の対象となる者については、その犯罪者が他の形態の収監後監督に服さない場合、刑期満了による収監からの解放後、さらに 1 年間の収監後監督期間を含む。この収監後の監督期間中、違反者が監督規定に違反した場合、その違反者は収監後の監督期間の残り期間収監される可能性がある。(5) 第(1)項により設定された上限内、または KRS 532.070 に従って修正された実際の釈放時期は、法律の別の場所で確立された手続きに基づいて決定される。[KRS 534.030]: (1) 本法律外で定義された犯罪について別段の定めがある場合を除き、重罪の有罪判決を受けた者は、その者に課される他の刑罰に加えて、千ドル (1000 ドル) 以上 1 万ドル以下または犯罪遂行による利益の 2 倍の額のうち、いずれか高い方の罰金を支払うよう言い渡される。(重罪の実行に対する罰金の額および支払方法を決定するに当たり、裁判所は、特に次の要素を考慮する。(a) 被告人の罰金額の支払い能力 (b) 罰金額およびその支払い時期・方法によって被告人の扶養家族に課される可能性のある困難 (c) 罰金額が被告人の被害者に対する賠償または返還の能力に与える影響 (d) 被告人の犯罪の実行から得られる利益 (ある場合) の金額。(3) 被告が単一の行為によって行われた 2 つ以上の重罪で有罪判決を受け、(1)項に従って罰金を言い渡された場合、罰金の総額は、1 万ドルまたは被告人の犯罪遂行による利得の額の 2 倍のいずれか大きい方を超えないものとする。(本節で要求される罰金は、KRS 第 31 章に従って裁判所が困窮者であると決定した者には課されない。(5) 本節は、法人には適用されない。

例として、以下が挙げられるが、これに限定されるものではありません:

- 殺害予告を含む手紙、手書きのメモ、Eメール、またはテキストメッセージを届ける
- 校舎の棟に放火することを示唆するブログ記事を作成する
- 爆発物、焼夷弾、手紙、ストレート型、隠匿型、時間遅延型などの実物または“そっくり”な装置を、爆発を予告するメモと一緒に設置すること。
- 同様の脅迫を行う (例: 生徒、職員、学校または地区の関係者に対する大規模な暴力を脅かす行為で、そのような行為が差し迫っているか進行中であることを示す言語、文書、または象徴的なコミュニケーションを伴うか伴わないもの)

生徒および両親/保護者向けの特定の生徒行動規範違反に関する追加情報は以下の通りです:

出席:

遅刻、早退、欠席について

すべての生徒は、定期的に学校に出席することが期待されています。学校を欠席する場合は、正当な理由が必要です。

欠席」とは、次のように定義されます:

- “遅刻”: 指定された開始時刻以降に到着し、1 日のうち 35% 以下の時間を欠席すること。
- “欠席”とは、半日 (登校日の 36%~84%) または全日 (登校日の 85%~100%) のいずれかに出席しないことと定義されます。

報告手続き

欠席または遅刻の後、学校に戻ってから 3 日以内に、生徒は、保護者または医療従事者が署名した、以下の内容を含むメモを指定スタッフに提示しなければならない:

- 現在の日付;
- 生徒の (プリント) 姓名;

- 欠席の日付（曜日だけでなく、複数日）；
- 欠席の理由
- 両親/保護者のサイン
-

保護者は、サインした保護者メモの写真またはスキャンした添付ファイルを電子メールで提出することができます。

医療的な理由による欠席の場合、保護者は医療的な理由の原本を提出しなければなりません。医療関連の欠席は、医療従事者のオフィスからファックスされたものも受け付けます。

3日以内にサイン付き理由書が届かない場合、その欠席は未消化とみなされます。

その他の規定には、以下のものがあります：

- “早退”とは、教育日の終了前に学校やプログラムを離れることと定義されます。この場合、生徒は、保護者または事前に許可された大人によるチェックインまたはチェックアウトを受けなければなりません。
- 遅刻や早退は、到着・出発時間に応じて、遅刻または欠席としてカウントされます。いずれの場合も、同じようにサイン付きの理由書が必要となります。
- 生徒が病気のために学校から帰宅した場合、その日は免除されますが、それ以降の日に欠席した場合は、サイン付きの理由書がその日にも適用されます
- お子様が慢性的な病気を患っている場合、保護者の方は IAK サポートサービスの生徒人事部長に連絡することで、保護者ノートを追加で要求することができます。

免除される欠席：

州法および/または理事会方針に基づき、以下の場合、欠席は免除されたものとみなされる：

- 病気による欠席：保護者は、病気による欠席について、1年間に合計 10 回までサイン付きの理由書を書くことができます。これを超えて欠席する場合は、医療従事者（医師、歯科医師、心理学者など）の診断書を提出する必要があるため、欠席を免除される。
- 病気による遅刻：保護者は、病気による遅刻について、1年間に合計 10 回までサイン付きの理由書を書くことができます。これを超えて遅刻した場合は、その遅刻を免除するためには、1回の遅刻につき医師、歯科医師、心理学者などの医療専門家の診断書を提出する必要があります。
- 生徒の肉親の死亡：直系家族とは、生徒の保護者、義父母、祖父母、義祖父母、兄弟姉妹、義兄弟姉妹、または生徒のその他の世帯のメンバーを指します。生徒の保護者による文書提出が必要です。
- 宗教的な休日や慣習：生徒の保護者による書類が必要です。
- 医療機関や歯科医院の予約：医師の予約の時間、および往復の移動時間のみ免除されます。予約の日時は、医師または歯科医師の署名入り明細書の原本を医師または歯科医師のオフィスから直接ファックスまたはスキャンして確認する必要があります。
- 医師または歯科医師の理由書：この場合、生徒が免除される日付および/または日数を明記しなければならない。
- 家族の緊急事態：緊急の対応が必要な場合、校長の承認により、1学年につき累積 3 回までの欠席とする。
- 大学のキャンパス訪問：ジュニアとシニアには、合計 3 回の大学訪問が許可されています。訪問先の大学からの書類が必要となります。
- ケンタッキー・ステート・フェア KRS 158.070(6)に基づき、フェアへの出席は 1 日のみ許可されます。

- 生徒の出席が必要な裁判所への出廷： 予定されている出廷時間および合理的な往復の移動時間のみ免除されます
- 活動的な任務への招集： 保護者が現役の軍務に就く前日と当日の欠席は、免除されます。
- 書類による軍事休暇 米軍に勤務し、国外に駐留する保護者の休暇を訪問するため、生徒は最大 10 日間の免除欠席が認められます。
- 現役から復帰すること： 現役復帰：保護者が現役から復帰した当日と翌日、生徒は免除された欠席を認められます。
- 教育強化の機会（EHOs）： KRS 159.035 (2)に従い、FCPS の生徒人事部長が教育的価値が高いと判断した教育強化の機会を追求するために、最大 10 学校日を使用することができる。このような機会には、教育的な外国交換プログラムへの参加、またはコアカリキュラム科目（英語、科学、数学、社会科、外国語、または芸術）の集中的な指導、体験、またはパフォーマンスプログラムが含まれるが、これらに限定されない。この目的のために免除された欠席をした生徒は、欠席した学業を補う機会を与えられるものとし、免除された欠席により授業への出席や授業への参加ができなかったとしても、授業の成績に悪影響を及ぼすことはないものとする。EHO に関する詳しい情報は、理事会方針 09.123 を参照。
- その他、校長が判断する正当な理由がある場合。

免責された欠席の場合は、必ず補習が許可されます。

免責されない欠席：

許される理由を除くすべての欠席は、無断欠席となります。

無断欠席をした生徒の補習は、教師と協議の上、校長が補習を承認した場合、許可されることがある。停学による無断欠席の場合は、適切な単位が与えられるものとします。

不登校と常習的不登校

21 歳の誕生日を迎えていない生徒で、3 日以上正当な理由なく学校を欠席した場合、または 3 日以上正当な理由なく学校に遅刻した場合は、不登校とみなされる。2 回以上不登校と報告された生徒は、常習的な不登校とみなされます。このように、「常習的な不登校」という言葉は、6 回以上の正当な理由のない欠席を意味します。

学校関係者は、不登校および常習的な不登校の生徒に関して、以下の手順に従うものとする：

4.0 学生行動規範の違反（続き）

4.02 関連する通知（ポリシー違反）（続き）

遅刻の追跡手順

- 生徒が遅刻をした場合、保護者は電子出席メッセージからテキスト、電話、または電子メールを受け取ることができます
- 生徒が 6 回の無断遅刻をしたと判断された場合、学校は保護者に連絡を取り、出席に関する現在の学区の方針を知らせることが推奨される。このような場合、遅刻の有無と遅刻の累積による影響を保護者に知らせる手紙を送付するものとする
- 生徒が常習的に不登校になり、学校側が出席問題を解決するために行った介入方法を詳細に記した文書がある場合、学校から IAKSS の FCPS 生徒人事課に不登校照会が送られるものとする。
- 生徒が 9 回の遅刻をしたと判断された場合、保護者に遅刻の事実と遅刻の累積による結果を通知する手紙を送るものとする。

- 生徒が12回の遅刻をしたと判断された場合、学校またはIAKSSのFCPS Pupil Personnel Officeは、最終通知を保護者に送付し、遅刻の累積が法的にどのような結果をもたらすかを通知するものとします。

欠席時の追跡手順

- 生徒が欠席した場合、保護者は電子出席メッセージからテキスト、電話、または電子メールを受け取ることができる。
- 生徒が3回の無断欠席をしたと判断された場合、保護者に欠席とその累積の結果を知らせる手紙を送る。
- 生徒が6回の無断欠席をしたと判断された場合、その欠席と累積された無断欠席の結果を保護者に通知する手紙を送る
- 生徒が常習的に不登校になり、学校側が出席問題を解決するために行った介入方法を詳細に記した文書がある場合、IAKSSのFCPS 学生人事課に不登校の紹介状を送付するものとする。
- 生徒が9回の無断欠席をしたと判断された場合、学校またはIAKSSのFCPS 生徒人事課のいずれかが最終通知を保護者に送り、無断欠席の累積が法的に起こりうる結果を通知するものとします。

不登校の紹介

- 保護者が最終通知を郵送または配達した後、無断欠席が続くか、生徒が不登校または常習的な不登校と認定された場合、IAKSSのFCPS 学生人事部および/または学校関係者は家庭訪問を行うか、またはそれが不可能であることを記録することがあります。出席率が改善されない場合、IAKSSのFCPS 学生人事課はKRS 159.180または922 KAR 1:330に基づき、問題解決のための法的手段を求める手続きを行うものとします。

不登校または常習的な不登校の責任を問われる可能性のある者：

- 18歳の誕生日を迎えていない生徒の親、保護者、または監護者は、生徒が不登校に関する法律に従わなかった場合、責任を問われることがある。
- 18歳の誕生日を迎えたが21歳の誕生日を迎えていない生徒が、不登校に関する法律に従わなかった場合、その責任を問われることがある。
- 21歳の誕生日を迎えていない生徒の国選保護者は、生徒が不登校法に従わない場合、責任を問われることがある。

4.0 学生行動規範の違反（続き）

4.02 関連する通知（ポリシー違反）（続き）

責任者が州法に従わなかった場合の結果:

- 刑事告訴（KRS159.990）：不登校に関する法律に意図的に従わなかった親、保護者、または親権者は、初犯で100ドル、2度目の違反で250ドルの罰金を科されるものとする。それ以降の違反は、Bクラスの軽犯罪とする。
- 少年申立（KRS 610.010）：学校に出席せず、不登校になった生徒に対し、訴訟を起こすことができる。
- 教育的怠慢（Educational Neglect）：教育的怠慢の報告書は、Kentucky Cabinet for Families and Childrenに提出することができます。

欠席の正当な理由となるものを判断する際には、理事会方針09.123が使用されます（セクション4.02参照）。

バス騒ぎ

スクールバスに乗る特権は、フェアアットカウンティ教育委員会のポリシーに従って、資格のある生徒に与えられる。バス交通の規則に違反した生徒は、一時的または永久的にバスに乗る権利を停止するこ

とを含むがそれに限らず、学校内での同様の行動に対して規範で定められた懲戒処分の対象となることがある。

生徒は、運転手が注意散漫にならずに安全に運転できるように、スクールバス内で責任ある行動をとることが求められます。生徒は、スクールバスに掲示されている規則を遵守しなければなりません。スクールバスの運転手とモニターは、生徒を直接監督する立場にあります。生徒の容認できない行動に関する不祥事の報告は、運転手またはモニターが校長に行うものとします。容認できない行動とは、バス内に掲示されたバス乗車規則の違反、バス停留所での生徒の行動などを含みますが、これらに限定されるものではありません。

スクールバスの運転手またはモニターは、ルール違反を発見した場合、まず生徒にその行動を正すよう指導します。違反行為が是正されない場合、運転手またはモニターは生徒をバスから直ちに降りるよう要求することができます。この方法でバスから降ろされた生徒は、他の FCPS バスで輸送ターミナルまで輸送される場合があります。保護者が生徒を迎えに来るよう通知され、運転手が不祥事報告書を作成し、校長に提出します。

注: 生徒を乗せたり降ろしたりするために、すべての交通は停止しなければなりません。生徒の乗降のために停車しているスクールバスは、側面の“ストップアーム”が作動し、ライトが点滅します。たとえ学校の敷地内であっても、生徒の乗降中にスクールバスを追い越すことは許されません。例外として、バスが複数車線のハイウェイを走っている場合、反対方向に走る交通は停止する必要はありません。スクールバスの運転手は、ストップアームに違反した場合は、地元の警察署に苦情を申し立てることが奨励されています。ストップアーム違反で有罪になった場合、通常、運転免許証に 6 点の点数が加算され、罰金と裁判費用が発生します。

閉校キャンパス

生徒は、登校時から下校時まで、在籍している学校のキャンパスと決められた場所に留まるものとする。生徒の退去は、校長またはその指名する者によってのみ許可される。生徒は、校長の許可がある場合に限り、在籍していない学校のキャンパスに滞在することができる。このポリシーに違反した場合の罰則には、生徒の駐車許可証の停止または取り消しが含まれるが、これに限定されるものではない

投薬

いかなる生徒も、処方薬、市販薬、またはサプリメントを他の生徒と共有してはならない。このような場合、校長はその物質を没収し、生徒の両親/保護者に連絡する。その物質は、適切な当局に提供される。

校長が選んだ学校関係者は、医師、歯科医師、高度専門看護師 (APRN) によって処方または指示された場合に限り、生徒に薬を投薬する。消毒薬およびその他の適切な救急用品は、理事会ポリシー 09.4211 に従い、救急箱の中に保管する。

両親/保護者の許可: 生徒は、保護者の書面による要請があれば、以下の条件を満たす場合に限り、自宅から持参した薬を服用することができる。

- 薬は、医師、歯科医師、または APRN の調剤指示が記載された処方箋のオリジナル容器、または医師、歯科医師、または APRN の指示書が添付された市販薬のオリジナル容器で学校に持参する
- 容器に記載される情報には、生徒の名前、薬の名前と処方量が含まれる

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.02 関連警告 (ポリシー違反) (続き)

保管: 許可を受けた学校関係者が生徒に調剤した薬はすべて、校長が指定した安全な場所に保管する。さらに、権限を与えられた学校関係者は、生徒への調剤を承認された書式に記録する。特定の状況下では、医療提供者の書面による承認により、生徒は自分で投与する薬 (エピペンや喘息用吸入器など) を責任を持って携帯することができる [KRS 158.834 and 158.836]

個人用電子機器

個人所有の電子機器は、教師の許可を得て、授業中に使用することができる。教室での活動中に、ケーブル、ピアツーピアネットワーク、赤外線などを使って生徒間でデータを共有することは、教師の許可がある場合のみ許可される。デバイスは、学問の完全性を脅かしたり、他の個人の秘密やプライバシーの権利を侵害したりするなど、教育過程を阻害するような方法で使用してはなりません。このポリシーに対する例外は、校長がケースバイケースで行うことができる。

校長または校長が指名した者は、デバイス（SIMカードを含む）を没収することができる。本ポリシーに違反した場合、次のような結果を導くことがある。：

- 1^{回目}違反： デバイスを没収し、生徒の両親/保護者に返却する。保護者と校長による連絡の後、デバイスを生徒に返却することができる。
- 2^{回目}違反： デバイスを没収し、3日後に両親/保護者に返却する。
- 3^{回目}違反： デバイスを没収し、5日後に生徒の両親/保護者に返却する。
- 4^{回目} およびそれ以降の違反： 校長または校長が指名した者が、行動管理表（[セクション 5.03](#) 参照）に従い、適切な結果を決定します。

注：要求されたときに学校職員に機器を引き渡さない場合、職員の指示に従わないものとみなされ、生徒は懲戒処分の対象となる

出席

- 遅刻、早退、欠席

すべての生徒は、定期的に登校することが期待されている。欠席する生徒は、正当な理由を持つことが必要である。

“欠席”とは、次のような場合を指します：

- “遅刻”とは、指定された始業時刻以降に登校し、1日のうち35%以下の時間を欠席した場合；または
- “欠席”とは、半日（学校時間の36%～84%）または全日（学校時間の85%～100%）のいずれかの欠席と定義される

報告の手順：

生徒は、欠席または遅刻から学校に戻った日から3日以内に、両親/保護者または医療従事者の署名が入った、以下を含むメモを指定された職員に提出しなければならない。：

- 今日の日付；
- 生徒の（プリント）名前と名字；
- 欠席日（曜日だけではなく）；
- 欠席理由；そして
- 両親/保護者サイン

4.0 生徒行動規範違反（続き）

4.02 RELATED NOTICES (POLICY VIOLATIONS)（続き）

両親/保護者は、署名した両親/保護者メモの写真またはスキャンしたものをEメールで提出することができる

医療上の理由については、両親/保護者は医療従事者の記録として、医療上の理由の原本を提出しなければなりません。医療上の理由については、医療従事者の事務所からファックスで提出されたものも受け付けます。

3日以内に署名された理由書が届かない場合、その欠席は無断欠席とみなされます

その他の規定は以下の通りです:

- “早退”とは、授業が終了する前に学校やプログラムを離れることを指す。この場合、生徒は両親/保護者または事前に承認された成人によるチェックインまたはチェックアウトを受けなければならない。
- 遅刻や早退は、到着・退去時間に応じて、遅刻または欠席としてカウントされます。どちらの場合も、同じように署名入りの理由書が必要です。
- 生徒が病気のために学校から帰宅させられた場合、その日は免除されるが、その後何日か欠席した場合は、その日以降署名入りの理由書が適用されます
- 慢性疾患のある生徒の場合、両親/保護者は IAK サポートサービスの生徒人事部長に連絡し、両親/保護者メモの追加を要求することができる

免除される欠席:

州法および/または理事会ポリシーにより、以下の場合は免除される欠席とみなされる:

- **病気による欠席:** 両親/保護者は、病気による欠席について、年間合計**10回**まで署名入りの理由書を書くことができます。それ以上の欠席の場合は、医師、歯科医師、心理学者などの医療専門家による書面を提出する必要があります。
- **病気による遅刻:** 両親/保護者は、病気による遅刻について、年間合計**10回**まで、署名入りの理由書を書くことができます。それ以上の遅刻をした場合は、医師、歯科医師、心理学者など医療従事者の診断書を提出する必要があります。
- **生徒の直系親族の不幸:** “直系家族”とは、両親/保護者、継親、祖父母、継祖父母、兄弟姉妹、継兄弟姉妹、または生徒の家庭内のその他のメンバーを指します。生徒の両親/保護者の証明書が必要です。
- **宗教上の休日および慣習:** 生徒の両親/保護者による文書提出が必要です。
- **医療機関や歯科医院の予約:** 医療機関や歯科医院の予約 医師の予約時間および往復の移動時間に対してのみ免除されます。予約の日時は、医師または歯科医師の署名入り明細書の原本を医師または歯科医師のオフィスから直接ファックスまたはスキャンして確認する必要があります。
- **医師または歯科医師の理由:** 欠席の日付と/または日数が明記されていること
- **家族の緊急事態:** 緊急の対応が必要な場合校長の承認により、1学年につき累積**3回**までの欠席とします
- **大学のキャンパス訪問:** 大学訪問は3年生と4年生は、合計**3回**まで大学訪問が許可されています。訪問先の大学からの書類が必要です
- **ケンタッキー・ステート・フェア:** KRS 158.070(6)に基づき、**1日**のフェア出席が認められています。
- **法廷への出席、生徒の出席が必要な場合:** 生徒は、予定された出廷時間および妥当な往復交通費のみ免除されます。
- **活動的な任務への召集:** 両親/保護者が兵役に就く前日と当日の欠席は認められます

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.02 RELATED NOTICES (POLICY VIOLATIONS) (続き)

- **文書による兵役休暇:** 文書による兵役休暇 米軍に勤務し、国外に駐留する両親/保護者が休暇中の場合、生徒は最大 **10 日間**の免除欠席が認められる。
- **現役からの復帰:** 両親/保護者が兵役から戻った日とその翌日、生徒には免除された欠席が認められます。
- **教育強化の機会 (EHOs) :** 09.123. KRS 159.035 (2) に従い、FCPS生徒人事部長が重要な教育的価値があると判断した教育強化の機会を追求するために、最大**10日**の学校期間を使用することができます。このような機会には、教育的な交換留学プログラムへの参加、またはコアカリキュラム科目(英語、科学、数学、社会科、外国語、または芸術)の集中指導、体験、または演奏プログラムが含まれるが、これらに限定されるわけではない。この目的のために免除された生徒は、欠席した学業

の埋め合わせをする機会を与えられ、免除された欠席のために授業への出席や授業への参加ができなかったとしても、成績に悪影響を与えることはない。EHOに関する詳細は、理事会ポリシー 09.123 を参照。

- その他、校長が判断した正当な理由。

理由のある欠席の場合、補習が許される。

無断欠席:

許容される理由を除くすべての欠席は、無断欠席となる

校長が教師と協議の上、補習を許可した場合、無断欠席の生徒に補習を許可することがあります。停学による無断欠席の場合は、適切な単位が与えられる

テクノロジーポリシー違反

地区が所有または提供するハードウェア、ソフトウェア、電子機器、ウェブリソース、またはネットワークを、教育目的で責任を持って適切に使用することは、FCPSの利用規定(AUP)に記載されている。SBDM評議会によって採択された学校のAUPに違反した生徒は、オフラインでの同様の行動に対して本規範が定めるものと同様の懲戒処分の対象となり、学校管理者の裁量に委ねられる

おもちゃの武器とレーザーポインター装置

おもちゃの武器や“そっくり”な武器を本物の武器として見せたり、誰かを驚かせたり、脅迫したりするために使用した場合、連邦法および州法に従って、本物の武器が関与していた場合と同様に扱われます。

レーザーポインターやおもちゃの武器は、危険な道具とみなされることがあります

学校敷地内、スクールバス内、または学校が主催する活動や学校関連の活動に参加している間は、いかなる場合においても、生徒はレーザーポインター装置やおもちゃの武器を所持してはならない。職員に要求されたときに、おもちゃの武器やレーザーポインター装置を渡すことを拒否した場合、職員の指示に従わなかったとみなされる。

無断欠席と常習的不登校

21歳の誕生日を迎えていないパブリックスクールの生徒で、3日以上正当な理由なく学校を欠席した場合、または3日以上正当な理由なく学校に遅刻した場合、無断欠席とみなされます。また、2回以上無断欠席のレポートを受けた生徒は、常習的不登校とみなされ、“常習的不登校”とは、6回以上無断欠席をした場合を指します。

学校関係者は、無断欠席および常習的な不登校の生徒に関して、以下の手続きに従う:

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.02 RELATED NOTICES (POLICY VIOLATIONS) (続き)

遅刻の追跡手順:

- 生徒が遅刻した場合、両親/保護者は電子出席メッセージャーからテキスト、電話、Eメールのいずれかを受け取る。
- 生徒が6回の遅刻をしたと判断された場合、学校は両親/保護者に連絡を取り、出席に関する学区の現行ポリシー方針を伝えることが奨励される。この場合、遅刻の事実と遅刻の累積による影響について両親/保護者に通知する書簡を送付する
- 生徒が常習的に不登校となり、学校側が出席問題を解決するために行った介入を詳細に記録した文書がある場合、学校からIAKSSのFCPS生徒人事課に不登校照会が送られる

- 生徒が **9回**の無断遅刻をしたと判断された場合、両親/保護者に遅刻の事実と遅刻の累積による結果を通知する手紙を送る
- **12回**の無断遅刻が認められた場合、学校または **IAKSS** の **FCPS** 生徒人事課は、両親/保護者に最終通知を送り、累積した遅刻が法的な影響を及ぼす可能性があることを通知する

欠席の追跡手順:

- 生徒が欠席した場合、両親/保護者は電子出席メッセージャーからテキスト、電話、または E メールを受け取る
- 生徒が **3回**の無断欠席をしたと判断された場合、両親/保護者に欠席とその結果を知らせる手紙が送られる
- **6回**の無断欠席があると判断された場合、その旨と無断欠席が累積した場合の結果を両親/保護者に通知する手紙を送付する
- 生徒が常習的に不登校となり、学校側が出席率の問題を解決するために行った介入を詳細に記録した文書がある場合、**IAKSS** の **FCPS** 生徒人事課に不登校の照会が送られる
- 生徒が**9回**の無断欠席をしたと判断された場合、学校または **IAKSS** の **FCPS** 生徒人事課のいずれかが、無断欠席の累積による法的影響の可能性を両親/保護者に通知する最終通知を送付する

不登校の紹介:

- 両親/保護者が最終通知を郵送または配達された後、無断欠席が続くか、生徒が不登校または常習的な不登校と認定された場合、**IAKSS** の **FCPS** 生徒人事課および/または学校職員が家庭訪問を行うか、またはそれができないことを文書化することができる。出席率が改善されない場合、**IAKSS** の **FCPS** 生徒人事課は **KRS 159.180** または **922 KAR 1:330** に基づき、問題解決のために法的手段を求める手続きを行う

不登校または常習的な不登校の責任を問われる可能性のある者:

- **18歳**の誕生日を迎えていない生徒の親、保護者、親権者は、その生徒が不登校に関する法律に従わなかった場合、責任を問われることがある
- **18歳**に達したが **21歳**に達していない生徒が、不登校に関する法律に従わなかった場合、責任を問われることがある。
- **21歳**の誕生日を迎えていない生徒の裁判所が任命した保護者は、その生徒が不登校に関する法律に従わなかった場合、責任を問われることがあります。

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.02 関連警告 (ポリシー違反) (続き)

説明責任者が州法に従わなかった場合の帰結:

- **刑事告訴 (KRS 159.990):** 不登校に関する法律に意図的に従わなかった親、保護者、または親権者は、初犯で \$ 100 ドル (100 ドル)、2 犯目で \$ 250 ドル (250 ドル) の罰金を科される。それ以降の違反はそれぞれクラス B の軽犯罪となる
- **少年の請願書 (KRS 610.010):** 学校に出席せず、不登校になった生徒に対して訴えを起こすことができます。
- **教育放棄:** ケンタッキー州家庭・児童省に教育放棄の報告をする

欠席の正当な理由を決定する際には、理事会ポリシー **09.123** が使用される ([セクション 4.02](#) 項参照)

4.03 関連警告 (法令違反)

刑事罰

生徒は、生徒行動規範の違反に加え、犯罪行為で起訴されることがある。刑事違反の起訴と裁判手続きは、フェアアットカウンティパブリックスクールの権限外であり、同じ違反に対する学校の制裁と同時に進められる

生徒が、学校敷地内、学校主催の交通機関、または学校主催のイベントにおいて、他の生徒による KRS 第 508 章 (暴行、脅迫、危険行為、脅迫、ストーカー行為) に基づく重罪犯罪の被害者であることを知っている、またはそう信じるにたりる妥当な理由がある学校または理事会職員は、直ちに被害者の通う学校の校長に報告 (口頭または書面) しなければならない。

校長は、両親/保護者または生徒の親権を行使する者、学校長、FCPS法執行部門に通知する。 48 (48) 時間以内に、校長は、最初の報告書に続き、犯罪の被害者と思われる生徒の氏名と住所、その保護者の氏名と住所、生徒の年齢、事件の性質、犯罪違反の責任者と思われる生徒の氏名と住所を記載した報告書を作成する

学校および教育委員会の職員は、このような違反行為について生徒を報告、調査、懲戒処分する際に、可能な限り、申立者の身元を保護するための措置を講じる必要がある

上記に加え、学校長は、本規範の規定に沿った適切な懲戒処分を進める

アルコール、麻薬、合成薬物、および中毒性物質

いかなる生徒も、アルコール飲料、麻薬、薬物、偽造薬物、類似薬物、その他の中毒性物質を所持、使用、影響下、販売、譲渡したり、学校敷地内、登下校中、学校主催の活動のいかなる場所でも薬物関連器具を所持、販売、譲渡したりしてはならない。小学生の成熟度には差があるため、小学校の校長は、このセクションに記載されているよりも緩やかな方法で薬物、アルコール、中毒性物質に関するポリシーを実施することができる

薬物の定義: “規制薬物” とは、ケンタッキー州改正法第 218A 章に記載されている物質またはその前駆体、あるいは KRS 218A.020 または KRS 217.900(2) に基づく規制に基づき ケンタッキーキャビネットファミリーチルドレンが追加することができる他の物質を意味する。薬物とは、吸入、摂取、および/または注射を含む、摂取または使用方法の如何を問わず、合成麻薬またはその他の物質を含む、あらゆる酩酊物質を指す。また、薬物とは、KRS 217.900 に定義される、乱用またはその使用を目的とした禁止された揮発性物質を指す。酩酊を目的としたもの。医師または歯科医師によって処方または指示された薬の使用は、薬物に関する理事会方針 09.2241 の違反とはみなされない。

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.03 関連警告 (法令違反) (続き)

所持 (個人)、使用、影響下:

- **初犯:** 1 学期内に薬物、アルコール、酩酊物質の所持、使用、または影響下にあった場合、最高 5 日間の停学処分となる場合があります。ただし、以下の場合、学校管理者の判断により、日数が短縮されることがあります:
 - 免許を持つ、または資格を持つ薬物使用専門家に、学生のアルコールまたは薬物の使用に関する評価/査定を依頼する、または紹介に同意する。停学日数を減らすためには、評価/査定が完了したこと、または評価/査定の予約をしたことを提供者が書面で確認することが必要である。;そして

- 生徒は、評価/査定で推奨されたあらゆる治療を完了するために誠実な努力を示し（証明書の提出が必要）、評価後に学校が要求するその他の指定条件を満たすことに同意する:そして
- 条件を満たさない場合、最初に割り当てられた停学日数が復活することになります。推奨される評価は、停学の初日から **15** 学校日以内に完了するものとする。生徒が公認の施設で薬物使用の治療を受けている日は、免除された欠席とする。
- **2 回目の違反:** 薬物、アルコール、中毒性物質の所持、個人的使用、または影響下にあることで **2** 回目の違反があった場合、最低 **3** 日間、最高 **10** 日間の停学処分となります。最初の違反について認められた選択肢を遵守するために家族が誠実に努力し、かつ、自己の費用で家族が誠実に努力することを証明することを条件で、この最低 **3** 日間の停学期間を超えた日数については、学年度の残りの期間、強制執行されないことがあります。
 - 免許を持つ、または資格を持つ薬物使用専門家に、生徒のアルコールまたは薬物の使用に関する評価/査定を依頼する、または紹介に同意する。停学日数を減らすためには、評価/査定が完了したこと、または評価/査定の予約をしたことを提供者が書面で確認することが必要である。;そして
 - 評価/査定で推奨されたあらゆる治療を完了するために誠実に努力し、評価後に学校が要求するその他の特定条件を満たすことに同意することを証明する必要があります;そして
 - 条件を満たさない場合、最初に割り当てられた停学日数が復活することになります。推奨される評価は、停学の初日から **15** 学校日以内に完了するものとする。生徒が公認の施設で薬物使用の治療を受けている日は、免除された欠席とする
- **3 回目の違反:** 連続した学校生活の中で、薬物、アルコール、または酔わせる物質の所持、使用、または影響下にあった場合、直ちに **10** 日間の停学となり、校長から教育長に退学の勧告が出される。さらに、家族は、その費用負担で、以下を行うべきである。:
 - 資格のある薬物使用専門家に生徒のアルコールまたは薬物の使用に関する評価/査定を依頼または紹介に同意し、評価/査定で推奨されたすべての治療を完了するか、完了するための誠意ある努力を示すこと;そして
 - 評価・査定または評価・査定予約の提供者による確認書の提示;そして
 - 評価/査定後、学校が要求するその他の特定条件を満たすことに同意する。

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.03 関連通知 (法令違反) (続き)

販売または譲渡:

アルコール飲料、麻薬、薬物、偽造薬物、類似薬物、その他の中毒性物質の販売、譲渡、またはその意図は、直ちに**10**日間の停学処分となり、校長、学校長、または学生人事部長から教育長に退学を勧告されます。代替教育プログラムに参加し、校長が承認した場合は、停学日数が免除されることがあります

両親/保護者と生徒は、両親/保護者の費用負担で、違反行為に特化した教育セッションに参加することが奨励されます。特定の教育セッションに関する情報は、学校までお問い合わせください。

いじめ

KRS 158.148 によると、いじめとは、生徒の間で、言葉の暴力、身体的な暴力、社会的な暴力など、力の不均衡が現実存在する、あるいは認識されており、それが繰り返される、あるいは繰り返される可能性があるものであると定義されている:

- 1 学校敷地内、学校の交通機関、または学校の行事で発生したもの。または
- 2 教育プロセスの妨げとなる

この定義は、市民的な意見交換や討論、あるいは州憲法や連邦憲法の下で保護されている文化的慣習を禁止するものと解釈してはならない。

いじめには、悪口、からかい、脅迫、社会的排除、ネットいじめなどが含まれるが、これらに限定されない。いじめは、肉体的、言語的、感情的、性的なものである。

ヘイジングの定義

KRS 508.150 により、「ヘイジング」とは、未成年者または学生を勧誘、入団、組織*への所属、会員資格や地位の向上または維持を目的として、未成年者または学生の精神的または身体的健康を危険にさらす行為と定義されています：

1. 連邦または州の刑法に違反する行為
2. 未成年者または生徒に精神的危害または身体的傷害を与える危険性のある食品、液体、アルコール飲料、薬物、タバコ製品、その他の規制薬物を摂取すること
3. 鞭打ち、殴打、パドリング、焼印、風雨への暴露など、肉体的な残虐行為に耐えること。
4. 個人的な隷属、睡眠不足、または合理的な人が実質的な精神的苦痛を被るような状況を含む、精神的な性質の残虐行為に耐えること
5. 性的性質の残虐行為に耐えること。：または
6. 未成年者または生徒に精神的危害または身体的傷害を与える合理的な可能性があるその他の行為に耐える。
7. *KRS 508.180 に従い、「団体」とは、学校または中等教育機関と互いに関連する多数の者を指す。学生団体、友愛会、同好会、協会、法人、教団、社会、軍団、クラブ、または同様の団体を含み、過去 5 年間に学校または中等教育機関の方針に従って登録された学生団体を含む。

許されない行為

みだらな言葉、冒瀆的な言葉、下品な言葉の使用は禁止されている。いじめに加え、生徒は、ハジキ、威嚇、愚弄、威圧、他者への暴言や身体的虐待、その他生徒の教育へのアクセスを妨げたり、生徒の福利を害するような行為を行ってはならない。1 この方針は、オンラインや電子的な方法の使用を含むが、これに限定されないあらゆる生徒の言動に適用される。このような言動は、教育過程を混乱させ、他の生徒が提供される教育機会を活用する妨げとなります。

これらの規定は、州憲法や連邦憲法で保護されている市民的な意見交換や討論を禁止するものと解釈してはならない。この方針に違反した生徒は、適切な懲戒処分の対象となる。

ハラスメント／差別の申し立ては、ポリシー09.42811 に従うものとする。

レポート

地区の容認される行動と懲戒の規範に規定されている通り、いじめや嫌がらせの被害者であると考えられる生徒には、適切な対応を取るために、地区の職員にそのような出来事を報告することができるプロセスを提供するものとする。

従業員は、生徒の福祉と安全に関わる状況において、合理的かつ慎重な行動を取ることが期待されます。これには、生徒、他の職員、または学校や地区を訪れる人々の安全を脅かしたり、嫌がらせをし

たり、危険にさらしたりするような状況に介入し、校長または直属の上司に報告するための地区方針の要件に従うことが含まれます。このような状況には、生徒に対するいじめやヘイジング、職員、生徒、訪問者に対する嫌がらせや差別が含まれるが、これらに限定されるものではない。

自分がいじめの被害者であると考えた生徒、または他の生徒がいじめを受けているのを目撃した生徒は、合理的に実行可能な限り速やかに、そのことを報告しなければならない。

地区規程は、いじめまたはヘイジングの疑いのある事例の報告先を明記する。仲間同士のいじめ／ハラスメント／嫌がらせが深刻な場合、職員は、理事会方針 **09.42811** の指示に従い、被害者とされる人物の校長に報告しなければならない。校長／被指名者は、そのような不品行があったとされる事例を調査し、対処するものとする。

場合によっては、従業員は以下のことを行わなければならない：

1. 方針 **09.2211** で義務付けられている通り、いじめとヘイジングを適切な法執行機関に報告する。
2. 方針 **09.42811** で義務付けられている通り、連邦保護区域を調査し、文書化する。

ハラスメント/差別

フェイアットカウンティ教育委員会は、生徒に対する嫌がらせや教育機会の均等を否定することを禁じるポリシーを採択しています。人種、肌の色、国籍、民族、年齢、宗教、性別、遺伝情報、アイデンティティ、性的指向、政治的所属、退役軍人の地位、障害に基づく差別は許されません

禁止される行為：

このポリシーで禁止されている行為および/または行動は、以下を含みむが、これに限定らない：

1. このポリシーに含まれるハラスメント/差別の定義に記載されている保護されたクラスに関する、軽蔑的なニックネーム、中傷、脅迫、名指し、嘲笑、侮辱、下ネタ、ステレオタイプ、卑下した話、ジョーク、絵など。；
2. 保護されたクラスに基づき、異なる、または不利な扱いをする；

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.03 関連警告 (法令違反) (続き)

3. 不快な接触、性的な誘いかけ、性的な好意の要求、性的な噂の流布、または性的暴力を伴う事例；
4. 学校のプログラムや活動に参加するためには、歓迎されない性的行為に従わなければならない、あるいは教育上の判断は歓迎されない性的行為に従うかどうかに基づいて行われると、生徒に信じさせる；
5. 保護されたクラスのいずれかに基づく、身体的暴力の暗黙のまたは明白な脅し、あるいは攻撃または襲撃の行為；
6. 障害のある生徒が、障害のためにその活動を十分に理解したり、同意したりすることができない場合に、反社会的、危険、または犯罪的な活動に障害を持つ生徒を巻き込もうとする；そして
7. 保護されたクラスのいずれかに基づき、個人の財産を破壊したり、損害を与える

懲戒処分：

上記のいずれかの分野に基づき、従業員または他の生徒への嫌がらせ/差別を行った生徒は、停学や退学を含むがこれに限定されない懲戒処分の対象となる。

職員がこのポリシーの違反の疑いを報告しなかった場合、あるいはこのポリシーと関連する手続きに従わなかった場合、あるいは教育長または指名された者が、指示通りに違反の疑いを報告したり、生徒ま

たは地区職員による嫌がらせ/差別の疑いについて調査を開始したり、承認済みの手続きに従ったり、是正措置を取ったりしなかった場合は、懲戒処分の原因となる。いじめ、ハラスメント、または差別の行為を報告または目撃する者に対する報復は、クラス III の違反である。

生徒または両親/保護者が、生徒が嫌がらせや差別を受けたと考える場合、フェアアットカウンティ教育委員会 ハラスメント/差別苦情プロセス [FCPS 09.42811] を用いて苦情を申し立てることができる。この手続きは、各校の校長室、スクールディレクターズオフィス (IAKSS)、または [ここをクリック](#) で入手できます。

学校職員に対する違反行為

いかなる生徒も、学校敷地内、学校敷地外、または学校主催の活動において、学校関係者に暴行、脅迫、身体的または言葉による虐待、窃盗、故意または故意に学校関係者の私物を汚損、破壊、破損してはならない [KRS 158.150(1)(b), 161.190 and 508.025]

暴力、暴行、テロ的な脅迫の脅威

フェアアットカウンティ教育委員会は、生徒、教師、その他の学校関係者が、生徒からの暴行や脅迫行為を受けないようにするためのポリシーを採択しました。他の生徒や教師、学校関係者を脅したり、暴行したり、殴ったり、虐待したりする生徒は、適切な懲戒処分の対象となり、学校からの停学や退学、法的措置が含まれる場合がある。

このポリシーで禁止されている行為には、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。:

- 自分自身、他人、または財産に危害を加える意図を示す生徒による口頭または書面による発言または身振り (“ヒット・リスト” の作成を含む)
- 自分自身、他人、または財産に意図的に危害を加えるような生徒による身体的攻撃。
- 他人を脅し、暴力を振るう行為。
- 校舎、校庭、スクールバス、バス停、または学校が主催する活動において、爆弾や化学・生物・核兵器が設置されている、あるいは爆発しようとしているという脅迫をすること、またはそのような脅迫に関与すること。

4.0 生徒行動規範違反 (続き)

4.03 関連警告 (法令違反) (続き)

生徒が他の生徒、教師、あるいは他の学校関係者に対して危害の脅威を与えたと思われる場合、学校あるいは地区は、申し立てられた事件を調査し、適切な懲戒措置や法的措置を取るために適切な措置を講じる。危害の脅威の可能性を調査し、対応するための手順には、以下のものが含まれるが、これらに限定されない。:

- さらなる規律上処分が行われるまでの間、生徒を教室および/または地区の交通システムから退出させる。
- 校長または校長が指名する者による疑惑事件の調査
- FCPS 脅威評価プロトコルの詳細に従って脅威評価を行う。脅威評価には、学校心理学者、学校カウンセラー、またはその他の資格を有する学校職員、および/または必要に応じて地区職員による生徒の面接が含まれる。
- FCPS 法執行機関への通知、および FCPS 法執行機関によるさらなる捜査の可能性
- 州法及び理事会方針に従って、両親/保護者及びその他の者に通知する。

凶器および危険な器具

小学生の成熟度には差があるため、小学校長は、ここに記載されているよりも緩やかな方法で凶器および危険な器具に関するポリシーを実施することができる。そうでない場合、以下の違反行為を行った生徒は退学を勧告される:

- **銃器／爆発装置:** 連邦政府の銃のない学校法に従い、このセクションの目的上、銃器／爆発装置は以下のように定義される:
 - 爆発物の作用により弾丸を発射するように設計された、または容易に改造できる武器
 - 上記武器のフレームまたはレシーバー
 - 銃器用マフラーまたは銃器用サイレンサー
 - 爆発物、焼夷弾、毒ガス: 1) 爆弾、2) 手榴弾、3) 4 オンスを超える推進剤を有するロケット、4) 1/4 オンスを超える爆発物または焼夷弾を有するミサイル、または5) 類似の小型装置。
 - 爆発物またはその他の推進剤の作用により弾丸を発射する、または発射するように容易に改造できる武器で、直径 1/2 インチ以上の銃身を有するもの
 - 直前の 2 つの例に記載された破壊装置に変換するために設計された、または使用することを意図した部品の組み合わせで、そこから破壊装置を容易に組み立てることができるようなもの

銃器／爆発物を学校の敷地内または学校行事に持ち込んだ生徒は、10 日間の停学とし、教育長は、1 暦年を上限とする退学処分について理事会に報告する。理事会は、これらの勧告をその都度修正することができる。

校長は、小学生を含め、このような事態が起きた場合、教育長に報告しなければならない。さらに、校長はそのような事件ごとに FCPS 法執行部門に苦情/犯罪報告書を提出する。

最高責任者またはその被指名人は、関係する生徒が識別された障害を有しているかどうかを判断する。障害のある生徒が関与する事件は、適切な入退学委員会 (ARC) で検討され、連邦法および州法に従ってケースバイケースで判断されるものとし、そのような障害のない生徒は、理事会に照会して退学審理が行われるものとする。

4.0 生徒による行動規範の違反 (続き)

4.03 関連通知 (法律違反) (続き)

- **殺傷力のある凶器 (銃器／爆発物以外):** すべての生徒と職員の安全を考慮し、セクション 4.01 に定義されているように、殺傷力のある凶器の所持は重大な犯罪とみなされる。このような凶器を所持しているミドルスクール、ハイスクールの生徒は、1 件の事件につき 10 日間の停学とする。また退学を勧告される場合がある。

校長は、エレメンタリースクールの生徒が関与する事件を含め、すべての事件を最高責任者に報告しなければならない。さらに、校長はそれぞれの事件に関して FCPS 法執行部門に苦情/被害届を提出するものとする。

最高責任者またはその被指名人は、該当の生徒が特定の障害を有しているかどうかを判断する。障害のある生徒が関与する事件は、ARC 委員会で検討され、連邦法および州法に従って個々の案件ごとに判断されるものとし、一方で、障害のない生徒は理事会に送検され、退学処分の審理が行われるものとする。

- **危険な物品:** セクション 4.01 に定義されている危険物 (一般のポケットナイフを含む) を所持している生徒は、最長で 10 日間の停学、および退学を勧告される場合がある。

5.0 行動管理に関するオプション

5.01 定義と具体例

上記の懲罰処分に加えて生徒は、KRS 527.070 に従い、公然または隠匿にかかわらず、学校敷地内または学校主催の旅行中に殺傷力のある凶器または危険な物品を所持していた場合、刑事訴追を受ける可能性がある。

問題行動に対処する際、学校関係者は、さまざまな支援的対応と従来の懲罰処分というオプションを利用することができる。緊急の安全上のリスクや違法行為がある場合を除き、これらの対応はオフィスへの連絡を行う前に、教室やその他の現場で行うべきである。

職員と管理者は、生徒を指導現場から追い出すような決定をする前に、可能な限りサポート的な対応や手近な方法を実行するべきである。支援的対応は、単独または従来の結果と組み合わせて使用することができる。

生徒の行動規範違反に対する措置（[セクション 4.01](#)を参照）には、以下のものがあります。

サポート的対応（非公式；設定または学校レベル）
<p>同意または計画: この解決策は、生徒の行動に関する書面による同意で、別の仮処分の有無にかかわらず、前向きな行動の変化の証明が評価されるまでの期間が定められているものである。</p>
<p>例として、以下等がある。：</p> <ul style="list-style-type: none">生徒、教師、場合によっては保護者が望むことを詳述した自発的な書面による合意の意味で（例えば、「行動規定」や「接触禁止規定」）であり、通常、以下の内容を含む。1) 標的行動、2) 規則遵守のための優遇措置、3) 規則違反の場合の措置行動計画とは、特定の問題行動を減らし、前向きな行動を増やすことに焦点を当てた体系的な行動計画で、通常、以下を含む。1) 標的行動、2) 環境面でのサポート、3) 介入とスタッフの対応の説明、4) 前向きな評価、5) 計画達成のためのモニタリングと評価の手順
<p>グループ指導: この解決策は、生徒の必要性に応じて特別にグループ指導を行う。</p>
<p>例として、以下等がある。：</p> <ul style="list-style-type: none">社会的能力、怒りのコントロール、いじめ、喧嘩、破壊行為、ギャング行動、タバコ教育または禁煙、依存性のある薬物の使用、逮捕、性的な行動、偏見と差別、不登校、成績不振、自己概念の欠如、学年移行期の適応問題など、特定の問題に焦点を当てたテーマ別のグループ指導修復的实践サークルウェルネスプログラム
<p>面談、警告、または嚴重注意: この解決策とは、保護者の有無にかかわらず行われた生徒との面談の場で伝えられた内容は、生徒への非公式な警告を意味する。</p>
<p>例として、以下等がある。：</p> <ul style="list-style-type: none">生徒との話し合い生徒への口頭での注意生徒と保護者との授業後または放課後の面談親／保護者との面談、または電話による話し合い

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.01 定義と具体例（続き）

家庭と学校の連携: この決議は、学校と家庭の間で双方向の連携を確立し、決められた時間枠の中で具体的に設定された行動目標を達成するために用いられるあらゆる対策を意味する。

以下の例などがある。：

- 毎日の行動報告
- 毎日の家庭でのメモ
- 保護者の学校参加の機会を増やす

支援と指導: この解決策は、生徒が問題行動の解決に至るのを促進するために、1人または複数の生徒、教職員、その他の大人の援助を得ることを意味する。

以下の例などがある。：

- 学校の規律プログラムの中で、生徒が問題や争いを解決できるように、生徒2人または2つの生徒グループの間で行われる生徒同士による話し合い
- 修復的な話し合いとは、トレーニングを受けた仲介者によって導かれる構造化されたプロセスで、ある出来事の当事者が自分たちの行動の意図した影響と意図しない影響を検証し、被害を修復し関係を回復するための対人的救済策を決定するものである
- 「チェックイン/チェックアウト」や「チェック&コネクト」など、生徒の生活や学校での成功にプラスの影響を与える大人と生徒の関係を形成するための体系的な計画を含むプログラム内の学校ベースのメンタリング

サービスの紹介: この解決策は、生徒がさらなるサポートと対策を得るために、カウンセラー、ソーシャルワーカー、その他の精神保健福祉士によるサービスを受ける、またはその評価を受けることを推奨することを意味する。

以下の例などがある。：

- 生徒の学習や学校生活での成功を妨げる可能性のある身体的、感情的、または教育的なニーズや状況を特定し、対処するために生徒とその家族に協力するスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、または家族支援/青少年サービスセンター（FRYSC）コーディネーターを紹介すること。
- 行動的・感情的なニーズを持つ子供や青少年の治療を専門とする地域のサービスプロバイダーと連携するために、精神保健機関/サービスを紹介する。
- 管理者、教師、支援者、専門家、親/保護者、生徒を含む前向きで問題解決型の支援プロセスを行う学校ベースの支援チーム（または同等のチーム）に紹介し、生徒の教育的ニーズに最も適した可能性と戦略を検討する。

損害賠償: この解決策は、他の生徒、教職員、または学校や学校制度に損害を与えた、あるいは被害を与えた事件の結果について、生徒またはその親/保護者が賠償することを許可することで、一般的には別の措置に代えて行われる。

以下の例などがある。：

- 謝罪の手紙
- 反省ワークシートまたは反省文の作成
- 親/保護者への物品交換費用の負担

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.01 定義と具体例（続き）

<p>修復的实践: この解決法は、生徒自身が引き起こしたかもしれない問題や、自分自身の必要とするもの、また被害を受けた人々の必要とするものを特定し、それに対処するためのプロセスを意味する。目標は、関係／環境を修復するための癒しと解決策を打ち出すことである。</p>
<p>以下の例などがある。：</p> <ul style="list-style-type: none">• 人がどのように感じているか、および／または、人がどのような行動によって影響を受けたかを説明するための感情に関する文言の使用• 自分の行動、それが他人に与えた影響、壊れた人間関係を修復するための次のステップなどを明確に理解させるための「感情的質問」• 積極的サークルと応答的サークルを含んだ修復的サークルを使用する• 第三者が仲介役となって行われる修復的話し合いの実施
<p>今後への期待値再教育: 生徒が問題を抱えていた環境において、成功するために必要な指導、課題、プロジェクト、または作業の再教育を行う。</p>
<p>以下の例などがある。：</p> <ul style="list-style-type: none">• 管理者または教師による、クラスレベル、学校レベル、または地区レベルの目標の再提示• 生徒がより深く理解するための特別な課題
<p>「タイムアウト」または「クールオフ」: この解決法は、決められた活動の有無にかかわらず、短時間の間、生徒を授業環境から一時的に退出させることを意味する。生徒が自分の感情を把握し、落ち着くことや集中し直すことを学ぶために、休憩時間としてタイムアウトやクールオフを設けたり、促したりすることがある。</p>
<p>以下の例などがある。：</p> <ul style="list-style-type: none">• チームタイムアウト/クールオフは、予定された授業や活動から離れ、生徒に別の教室で 15 分以内の時間を与えること。• オフィスタimeアウト/クールオフは、予定された授業や活動から離れ、監視された場所で 15 分を超えない時間を生徒に与えること。
<p style="text-align: center;">サポート的対応（公式、地区レベル）</p>
<p>代替教育プログラム: この解決法は、従来の教室では対応できない生徒のニーズに応えるために設けられ、生徒を代替教室、センター、またはキャンパスに割り当てることにより、学業成績の改善、行動の改善、または学習経験の向上を図るプログラムを意味する。 [KRS 160.380(1)(a)]</p>
<p style="text-align: center;">従来型の対応（非公式；設定または学校レベル）</p>
<p>履修ペナルティ: この解決法は、生徒が基準の習得/熟練を証明するために、代替の課題やコースを義務付ける。</p>
<p>以下の例などがある。：</p> <ul style="list-style-type: none">• 学校での不正行為（カンニングや盗作など）があった場合、代わりにの課題が提出されるまで課題の単位は与えられない• 出席に関する違反行為（例：無断欠席の上限数を超えた場合）については、単位認定要件を満たすまで、授業の単位を喪失する
<p>補習: この解決法は、授業以外の時間に指定された場所に生徒を登校させることを意味する</p>
<p>以下の例などがある。：</p> <ul style="list-style-type: none">• 授業前または授業後の補習授業• ランチ補習授業• 土曜日の補習授業

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.01 定義と具体例（続き）

所有物没収: この解決策は、学校の職員の要請に応じて、一時的に（状況によっては永久的に）所有物や物品を学校の職員に譲り渡すことを意味する。

以下の例などがある。：

- 没収された物品を生徒が引き取りに来る
- 没収された物品を保護者が引き取りに来る
- 着替えを必要とする場合

スケジュールの変更: この解決策は、生徒のクラススケジュールの恒久的な変更を伴う。

以下の例などがある。：

- 同一教師で授業時間の変更
- 同一クラスで教師の変更
- クラスの変更

学校教育特権の拒否: この解決策とは、生徒が非教育的または非信用的な活動に、利益を得るために出席、参加した場合、一時的に生徒の資格を停止する。

以下の例などがある。：

- バス使用の一時停止（地区が提供する交通機関に乗る資格を一時的に失うこと）
- 権利の喪失（駐車許可証の取り消し、学生の権利に該当しない非教育的または非信用的活動への出席、参加または利益を得た場合などは一時的な資格剥奪となる）
- スポーツまたはクラブからの処分事由による資格喪失の宣告

無給の奉仕活動: この解決策は、生徒の行動規範違反行為に対する措置の一部（または全部）として、学校または公共の利益のために、あらかじめ決められた期間、学校の時間外に行われる無給の奉仕活動を意味する。

以下の例などがある。：

- ロッカールームに落書きをして捕まった生徒に、落書きを消すための「作業補助員」を命じる
- 学校の授業時間外に、代替で無報酬で認可された社会奉仕プログラムに参加する

校内退室処分: この解決策は、1 件あたり 15 分を超える時間、授業時間中に生徒を通常の教育環境から一時的に退室させる。この決定には、予定された学習プログラムの為の退出、生徒の申し出によるカウンセラーの訪問などは含まれない。生徒は、同じ学校内の別のプログラムまたは環境に移される。

以下の例などがある。：

- 学校内代替配置(I.S.A.P.)
- リセット
- 校内停学(I.S.S.)
- 別の教室へ移動させる
- 学校内の他の監視下の場所へ移動させる

従来型の対応 (公式 ; 学校レベル)

停学処分: この措置処分は、1 件につき累積で 10 日を超えない期間、公立学校敷地内のすべての授業および学校が主催するすべての活動から生徒を一時的に退出させる。

以下の例などがある。 :

- 1 件につき 1 日～累積 5 日の短期停学処分
- 1 件につき 6 日以上 10 日以下の中期の停学処分

従来型の対応 (公式; 地区レベル)

- **退学処分; 教育サービスが受けられる:** 懲罰的な理由により、生徒を在籍校から退学させること。退学の基準は、地域の教育委員会によって定義、設定される。生徒は通常の授業から退学させられるが、教育および個別教育計画(IEP) 関連サービスを受けることができる。
- **退学処分, 教育サービスが受けられない:** 懲罰的な理由により、生徒を在籍校から退学させること。退学の基準は、地域の教育委員会によって定義、設定される。教育サービスの提供は受けられない。

以下の例などがある。 :

- 武器に関する事件の場合、最低 1 暦年間の長期停学処分
- その他の事件については、1 学年分の日数を上限とする (2 学期分を上限とする) 長期停学処分

5.02 関連通知

体罰について

体罰とは、いかなる手段であれ、生徒に意図的に肉体的苦痛を与えることだが、子供や他人を差し迫った危険から守ることを目的とした突発的な肉体的接触は含まれない [FCPS 09.433]。この行為はフェイスアットカウンティパブリックスクール内では禁止されている。

I.S.S.ルーム/リセットルーム

管理者が用いることのできる懲罰処分には、校外での停学処分の代替として、校内停学 (I.S.S.) 室または、リセットルームへの送致が含まれる。この措置は、生徒を通常の学校生活から短期間除外するものであり、学校内での懲罰処分の中で最も重いものである。

校内停学 (I.S.S. や、リセット) になった生徒は、常に監視されながら通常の授業に参加することが求められる。さらに、I.S.S. またはリセットの教師と生徒は、送致の原因となった行動と、その行動を正すために今後行われる必要な介入について話し合うものとする。

スポーツ活動への一般的な参加要項

詳細については、FCPS のウェブサイトでご確認ください。 :

<http://www.fcps.net/administration/departments/athletics>

フェイスアットカウンティパブリックスクール内の学校を代表して課外活動を行うことは特権であり、すべての参加者は自分自身、学校、そして地区の信用につながるような行動をとることが要求される。

障害のある生徒は、学業以外のサービスや課外活動 (課外運動競技、校内運動競技、クラブを含むが、必ずしもこれに限定されない) に参加する機会を均等に与えられるものとする。地区は、選抜または競争の基準が差別的でない限り、生徒が選択制または競争制のプログラムや活動に参加するために、生徒の技量や能力のレベルを必要条件としている場合があることに注意する必要がある。

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.02 関連通知

- **必要な学業成績** 学校の SBDM 協議会が、学習要件に関して異なる方針を採択しない限り、以下が適用されるものとする：
 - 6年生から12年生までの生徒は、直前の適正な成績評価期間に全体の平均値が **2.0** であった場合は、課外活動に参加する資格がある。評定平均値の算出にあたり、生徒が全教科の授業を履修している場合（例：9年生から12年生までは6科目、6年生から8年生までは7科目）、最低評定値は使用しないものとする。
 - また、9年生から12年生までの生徒は、4科目の合格が必要。ブロック時間割の場合は、少なくとも $\frac{2}{3}$ （3分の2）の科目で合格点を取らなければならない。
- **行動要件 SBDM 協議会方針は、以下のパラメータに該当する必要がある：**
 - 停学中の生徒は、停学期間中、練習やその他の活動に参加することはできないものとする。（[セクション 6.02](#)を参照）
- **7年生と8年生のハイスクールレベルのスポーツ参加について**
 - ミドルスクールの生徒は、フェアアットカウンティ教育委員会が定める居住校区のハイスクールでのみ、競技に参加することができる。これは、プログラムに基づき、ハイスクールに出願し入学許可を得ているかどうかに関係なく適用される。スポーツ監督は、ハイスクールレベルでの参加に先立ち、ミドルスクールの生徒を承認する必要がある。申請用紙は、居住するハイスクールのスポーツ監督を通じて入手可能。承認され次第、スポーツ監督が学校に通知する。7年生と8年生の生徒のみが、ハイスクールチームのトライアウトを受けることができる。トライアウトを受けるには、**Kentucky High School Athletic Association (KHSAA)** の要件をすべて満たし、以下の書類をハイスクールのスポーツ監督に提出することも必要。
 - 必要事項を記入済みの健康診断書
 - 親／保護者の署名入り承諾書
 - ハイスクールでの参加資格を得るために、合格した成績がミドルスクールまたはハイスクールの成績平均点（GPA）の要件（高い方の要件を使用する）を満たしていることを示す現在の成績報告書
 - ミドルスクールの試合と練習の予定（該当する場合）
 - スポーツ監督は、ハイスクールのチームに参加する各ミドルスクールの生徒の上記オプションのファイルを学年ごとに管理するものとする。
 - ミドルスクールの生徒は、地区大会、地域大会、州大会、またはミドルスクールの校長の事前承認がある場合を除き、ハイスクールのチームに参加するために、いかなる場合も授業を欠席してはならない。
 - 7年生と8年生のスポーツ参加は、ミドルスクールとハイスクールの両方で行われるスポーツ（フットボール、バレーボール、バスケットボール、陸上競技*）、ハイスクールのみで行われるチームスポーツ（野球、ソフトボール、サッカー）、ハイスクールのみで行われる個人スポーツ（クロスカントリー、水泳、ゴルフ、テニス、レスリング、陸上*）に区分されます。ハイスクールでのみ行われる個人スポーツへの参加は、**KHSAA** の競技の定義に基づき、生徒が大会や試合に出場できるパフォーマンスを発揮できるかどうかで決定される。

*ミドルスクールとハイスクールの両方で行われている陸上競技で、**KHSAA** 主催のイベントに参加するためのパフォーマンスレベルを持つ生徒は、ミドルスクールの生徒がミドルスクールとハイスクールの両方で参加することを認める例外とする。

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.02 関連通知

- ミドルスクールの生徒は、ハイスクールの練習や試合に参加するために、ミドルスクールの練習や試合を休んではならない。ミドルスクールの生徒の練習・試合への参加が最優先とする。ハイスクールの練習に参加するために、ミドルスクールの練習や試合を欠席したミドルスクールの生徒は、その時点でハイスクールへの参加から外されることになる。
- 6年生、7年生、8年生で留年した生徒は、留年中は部活動に参加することができない。
- 最初の参加資格と毎週の成績チェックは、ミドルスクールの生徒がハイスクールのチームに参加する限り、ハイスクールのスポーツ監督の責任とする。
 - スポーツ監督は、ハイスクールレベルの大会に参加するミドルスクールの生徒のリストを、参加するミドルスクールの生徒の校長に渡すものとする。
ミドルスクールの校長は、参加する各選手の現在の週間成績をハイスクールのスポーツ監督に送るものとする。ハイスクールのスポーツ監督は、ハイスクールの陸上競技に参加するミドルスクールの生徒の資格を決定するために、週間成績の高い方（ミドルスクールの生徒またはハイスクールの生徒）を使用するものとする。
 - ミドルスクールの校長は、ハイスクールに参加するミドルスクールの生徒に対して取られた懲罰処分をハイスクールのスポーツ監督に通知するものとする。ハイスクールのスポーツ監督は、ハイスクールでの競技に参加するミドルスクールの生徒に対して取られた懲罰処分を執行しなければならない。
 - ハイスクールのスポーツ監督は、ハイスクールの競技チームに参加するミドルスクールの生徒に対する懲罰処分について、ミドルスクールの校長に通知しなければならない。

免許取り消し

州内では、すべての生徒が、運転免許証、中間制限付き免許証、または仮免許証を申請する際に、在学証明書を提示しなければならない。学校管理者は、18歳未満の生徒で、学校を中退した者、9回以上無断欠席した者、または学業不振の者について、最高責任者に通知しなければならない。学業不振とは、前学期に履修した少なくとも4科目、または4科目に相当する科目の成績が合格点に達していないことをいう。最高責任者またはその代理人は、学業不振の生徒の氏名と社会保障番号をケンタッキー州運輸閣に報告することが義務付けられています。内閣は、そのような生徒の運転免許証の申請を却下したり、運転権（運転免許証、中間制限付き免許証、仮免許証）を取り消したりすることができます。

プリスクール児童

FCPS プリスクール・プログラムでは、生徒は他者と周囲の環境を考慮し、尊重することを学びます。明確で一貫した年齢別のルールを設定し、その中で各生徒は適切な行動とは何かを学びます。FCPS は、全米幼児教育協会（NAEYC）と幼児教育局（DEC）のガイドラインに従い、子供の発達と学習、生徒一人一人への配慮、生徒の社会的・文化的背景を考慮した発達段階に適した実践を行っています。プリスクールの教室はすべて、許容される行動をよりよく学べるように配置されています。私たちの目標は、生徒が自制心を養い（これは成長する上でごく当たり前のことです）、自分の行動に責任を持てるようにすることです。教室やバスの中では、以下のようなルールを守ります。

1. 他の人や物に触らないようにして、安全を確保しましょう
2. 学校のスタッフや仲間に関心にし、聞き上手になり、礼儀正しくしましょう。
3. クラスやバスのルールを守り、責任感を持ちましょう。

5.0 行動管理に関するオプション（続き）

5.02 関連通知

プリスクールのスタッフは、すべての生徒のポジティブな行動に焦点を当て、その行動をできるだけ多く評価するようにします。そして更に年齢に応じた研究に基づく様々な行動介入策を用います。

- 現実的な目標を設定する
- 明確でシンプルな制限を設ける
- 未然防止策の実践
- 正しい行動の模範を示す
- 肯定的な方向転換
- 注意散漫-活動や行動の焦点を変える
- 代わりのスキルの指導
- 対立解消／問題解決の方法
- 職員は、地区全体の幼稚園からハイスクールまでのハンドブックに記載されている対策も使用することができる

プリスクールの生徒は、スタッフの指導のもと、上記の方法を用いて、できるだけ多くの問題を自分自身で解決するように促される。生徒たちは、自分たちの相違点を解決するために、適切なコミュニケーションをとるよう促される。不適切な行動や問題行動が起こった場合、それらの行動をなくすために、さらなる対応策が必要になることがある。時には、その行動が生徒や他の人々にとって危険であるため、高度な制限を加える必要がある場合もある。このような対策には、次のようなものがある：

1. 落ち着かせる為に、部屋の別の場所や教室の外で、活動や状況から短時間離れる。

保護者の方からのご相談の手順

保護者が生徒の行動について心配になったとき：

ステップ1. 生徒のクラス担任の先生と心配事について話し合う。要予約。予定外の訪問や生徒の送迎時間帯には、教師は面談に応じられない。

ステップ2. さらに話し合いや問題解決が必要な場合は、面談の予約を取り、校長／管理者に相談する。この時、校長／事務局、クラス担任、保護者は、追加のサポートスタッフ（プリスクールプログラムの地区スタッフ、MTSS、PBIS チームなど）を含むチームミーティングを招集することができる。

ステップ3. 学校レベルで解決されない場合（ステップ2）、セクション7.0（苦情と異議申し立

2. 生徒主導の活動ではなく、教師主導の活動
3. セクション8.04に定められた身体拘束または隔離。（使用する場合）

プリスクールのスタッフは、生徒の成長に関して、保護者の方と一貫したオープンなコミュニケーションを保つように努める。軽度の問題行動については、Eメール、電話、書面、面談などの方法で知らせる。より深刻な事態が発生した場合は、必要に応じて懲罰処分の報告が必要となる。懲罰処分の内容は、ご家庭に送付され、校長／管理者に報告される。咬みつみや、自己または他者への異常な、あるいは危険な攻撃性など、継続的な行動問題に対しては、保護者とプリスクールのスタッフが常に協力し合って対処していく。生徒が異常なストレスや不安を感じたり、ネガティブな行動に走るようであれば、教師は保護者に相談する義務がある。

ここで定義された懲罰的対応は、就学前の生徒の発達のニーズと IEP の要件に適合するように調整する必要がある。

5.03 行動管理表

年齢や学年が異なる生徒たちは、自分の行動に対してさまざまなレベルの責任を負うことが求められる。したがって、次のページの表には、サポート的な対応と従来型の対応の両方を含む、さまざまな解決策の選択肢が示されている。

キンダーガーデンから 12 年生の生徒：

各表は、生徒の行動規範の違反に対処するために学校関係者が使用できるオプションについて概説している。表は、エレメンタリースクール、ミドルスクール、ハイスクールの学年別に記載されている。

各表は、軽度の違反行動（クラス I）から最も深刻な違反行動（クラス IV）まで、クラスごとに分けられている。違反は縦に、行動管理のオプションは横に記載されている。

この表を参考に、FCPS 職員は状況を総合的に判断し、懲罰処分を決定する裁量権を有する。生徒を指導の場から連れ出すような対応に進む前に、支援的な対応と比較的軽度の措置を検討する必要がある。慢性的な生徒の違反行為が問題があり、以前の行動管理の努力に応えられない場合、徐々に範囲を狭め、より集中的な結果を用いることができる。

管理者は、生徒の違反行為への対応を決定する際、加重要因に加えて、年齢、発達レベル、障害、および/またはその他の適切な要因などの緩和状況を考慮する必要がある。エレメンタリースクールの生徒の停学は、児童または他者の安全性に問題がある場合、例外的にのみ考慮されるものとする [FCPS 09.434]。

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: エレメンタリースクール

規約違反への対応 エレメンタリースクール		解決方法																				
		サポート的対応								従来型の対応												
クラス I と II 違反行為		同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ベナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教員特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分	停学処分	退学勧告	
サプライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																					
<u>破壊的な行動</u>	破壊的な行動	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
<u>服装規定違反</u>	服装規定違反	X		X	X		X		X					X								
<u>指定された場所からの退室、授業のサボり、無断遅刻</u>	遅刻、早退、欠席	X		X	X	X	X	X	X				X				X		X			
<u>パーソナルテレコムデバイス</u>	個人用電子機器	X		X	X			X	X				X	X			X	X				
<u>公共の場での愛情表現</u>	公共の場での愛情表現	X		X	X		X		X				X			X	X		X			
<u>偽りのメモ、報告書または不正行為</u>	偽りのメモ、報告書または不正行為	X	X	X	X		X	X	X			X	X	X	X		X	X	X			
<u>安全性の軽視</u>	安全性の軽視	X		X	X	X	X	X	X	X		X	X	X			X	X	X	X		X
<u>スタッフの指示に従わない</u>	学校職員の指示に従わない 補習授業の未参加 停学中の出席	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X		X		X	X	X	X	X		X
<u>暴力団活動</u>	冒涇または俗悪な行為 暴力団活動 宣伝	X		X	X		X	X	X	X		X		X	X		X	X	X			
<u>タバコポリシー違反</u>	噛みタバコ 喫煙 タバコの提供 タバコの所持 タバコの使用	X		X	X		X		X				X	X			X		X			X
<u>キャンパスを離れる、学校をサボる</u>	授業をサボる 校舎外に出る	X		X	X		X		X				X					X	X			

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: エレメンタリースクール (続き)

規約違反への対応 エレメンタリースクール		解決方法																			
		サポート的対応										従来型の対応									
<p>懲罰の選択には、サポート的、前向きな介入と従来型の対応の両方が含まれる。各チャートには、規範違反に対処するために学校関係者が使用できるさまざまなオプションがあり、初期および繰り返し違反した場合の両方が記載されている。</p> <p>この表をガイドラインとして、FCPS 職員は懲罰を決定する際に、状況を総合的に考慮する裁量権を有する。</p> <p>クラス III 違反行為</p>		同意または計画	グループ指導	面談、警告、または厳重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ペナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分	停学処分	退学勧告
		サプライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																		
偽造、変造、 詐欺	詐欺 偽造	X		X	X		X	X	X			X	X			X		X	X		
無秩序な行為	社会の秩序・風紀を乱す 行為	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X			X		X	X		
他人を危険に さらす	他者を危険にさらす	X	X		X		X	X				X	X			X		X	X		
喧嘩	喧嘩 (生徒/他者) 身体的攻撃 喧嘩 (生徒/職員) 喧嘩 (生徒/生徒)	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X			X		X	X		
ギャンブル	ギャンブル	X		X	X			X				X	X	X							
ハラスメント	いじめ ハラスメントコミュニケー ション ハラスメント 誹謗中傷 ストーカー行為 生徒への脅迫 職員に対する脅迫 暴言	X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X	X	X		X	X		
規制物質の使用 禁止に関する ポリシー違反	その他薬物 市販薬	X		X	X		X	X					X	X		X		X	X		
不適切な性行 為	軽度な性行動 不適切な性行動 わいせつ行為	X	X	X	X	X	X	X				X	X			X		X	X		
物的損害また は破壊行為	器物損壊 他人の所有物を破壊する行 為 (犯罪的いたずら)	X	X	X	X		X	X	X			X	X			X		X	X		
窃盗、強盗	盗難 窃盗 (犯罪)	X	X	X	X	X	X	X				X	X			X		X	X		

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: エレメンタリースクール (続き)

規約違反への対応 エレメンタリースクール		解決方法																			
		サポート的対応							従来型の対応												
		同意または計画	グループ指導	面談、警告、または厳重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ペナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分	停学処分	退学勧告
サブライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																				
アルコールまたは中毒性物質	アルコール流通 アルコール中毒 アルコールの使用	X		X	X		X		X				X	X		X		X	X		
放火	放火	X	X	X	X		X	X				X		X	X		X		X	X	
暴行	第1級暴行 第2級暴行 第3級暴行 第4級暴行	X	X	X	X	X	X	X		X	X		X						X	X	
盗難	盗難	X		X	X	X	X	X				X		X			X		X	X	
危険な器具	危険物	X		X	X	X	X	X		X				X	X		X		X	X	
凶器	武器流通 武器所持 武器使用						X							X						X	
薬物	薬に基づいて選択する	X		X	X		X	X	X					X	X		X		X	X	
恐喝	生徒への脅迫 職員への脅迫	X	X	X	X		X		X			X				X	X		X	X	
強盗	強盗	X	X	X	X	X	X	X				X		X		X	X		X	X	
性的犯罪	性的犯罪	X	X	X	X	X	X		X					X		X	X		X	X	
暴力主義的脅迫	テロの脅威 爆弾の脅威	X	X	X	X	X	X		X		X			X		X	X		X	X	

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: ミドルスクール

規約違反への対応 ミドルスクール			解決方法																			
			サポート的対応										従来型の対応									
<p>懲罰の選択には、サポート的、前向きな介入と従来型の対応の両方が含まれる。各チャートには、規範違反に対処するために学校関係者が使用できるさまざまなオプションがあり、初期および繰り返し違反した場合の両方が記載されている。</p> <p>この表をガイドラインとして、FCPS職員は懲罰を決定する際に、状況を総合的に考慮する裁量権を有する。</p> <p>クラス I と II 違反行為</p>			同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ベナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退学処分	停学処分	退学勧告
サブライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																					
クラス I	破壊的な行動	破壊的行動	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X		
	服装規定違反	服装規定違反	X		X	X		X		X					X	X		X				
	指定された場所からの退室、授業のサポート、無断遅刻	遅刻、早退、欠席	X		X	X	X	X	X	X					X			X		X		
	パーソナルテレコムデバイス	個人用電子機器	X		X	X			X	X					X	X		X	X			
	公共の場での愛情表現	公共の場での愛情表現	X		X	X		X		X					X		X	X		X		
クラス II	偽りのメモ、報告書または不正行為	不適切な行動/報告カンニング	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X		X	X	X	X		
	安全性の軽視	安全性の軽視	X		X	X	X	X	X	X		X		X	X		X	X	X	X		
	スタッフの指示に従わない	学校職員の指示に従わない 補習授業の未参加 停学中の出席	X	X	X	X	X	X	X	X		X		X		X	X	X	X	X	X	
	暴力団活動	冒涇または俗悪な行為 暴力団活動 宣伝	X		X	X		X	X	X		X		X	X		X	X	X	X	X	
	タバコポリシー違反	噛みタバコ 喫煙 タバコの提供 タバコの所持 タバコの使用	X	X	X	X		X		X					X	X		X		X		X
	キャンパスを離れる、学校をサボる	授業をサボる 校舎外に出る	X		X	X		X		X				X			X		X			

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: ミドルスクール (続き)

規約違反への対応 ミドルスクール		解決方法																		
<p>懲罰の選択には、サポート的、前向きな介入と従来型の対応の両方が含まれる。各チャートには、規範違反に対処するために学校関係者が使用できるさまざまなオプションがあり、初期および繰り返し違反した場合の両方が記載されている。</p> <p>この表をガイドラインとして、FCPS 職員は懲罰を決定する際に、状況を総合的に考慮する裁量権を有する。</p> <p>クラス III 違反行為</p>		サポート的対応							従来型の対応											
		同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ベナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分	停学処分
サプライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																			
偽造、変造、詐欺	詐欺 偽造			X		X	X	X			X		X		X		X	X		
無秩序な行為	社会の秩序・風紀を 乱す行為	X	X			X	X	X		X	X	X			X		X	X	X	
他人を危険にさらす	他人を危険にさらす		X		X		X	X		X	X		X		X		X	X	X	
喧嘩	喧嘩 (生徒/他者) 身体的攻撃 喧嘩 (生徒/職員) 喧嘩 (生徒/生徒)	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X		X	X	X	X	X	
ギャンブル	ギャンブル	X	X	X	X			X			X		X	X	X		X	X		
ハラスメント	いじめ ハラスメントコミュニ ケーション ハラスメント 誹謗中傷 ストーカー行為 生徒への脅迫 職員に対する脅迫 暴言	X	X	X	X	X	X	X		X		X		X	X	X	X	X	X	
規制物質の使用禁止に関するポリシー違反	その他薬物 一般用医薬品	X		X	X		X	X		X		X	X		X		X	X	X	
不適切な性行為	軽度な性行動 不適切な性行動 わいせつ行為		X		X		X	X		X			X	X	X	X		X	X	
物的損害または破壊行為	器物損壊 他人の所有物を破壊する 行為 (犯罪的いたずら)		X		X		X	X		X	X		X		X		X	X	X	
窃盗、強盗	盗難 窃盗 (犯罪)	X	X		X	X	X	X		X	X		X		X		X	X	X	

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: ミドルスクール (続き)

規約違反への対応 ミドルスクール		解決方法																			
		サポート的対応										従来型の対応									
		同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援助導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ベナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退学処分	停学処分	退学勧告
サプライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS																				
アルコールまたは 中毒性物質	アルコール流通 アルコール中毒 アルコールの使用						X				X			X					X		X
放火	放火		X				X	X			X	X		X		X		X	X	X	X
暴行	第1級暴行罪 第2級暴行罪 第3級暴行罪 第4級暴行罪		X		X	X	X	X			X						X		X	X	X
盗難	盗難				X	X	X	X			X	X						X	X	X	X
危険な器具	危険物	X		X	X	X	X	X	X		X		X	X		X		X	X	X	X
凶器	武器流通 武器所持 武器使用						X				X			X					X		X
薬物	薬に基づいて選択する		X				X	X			X			X					X		X
恐喝	生徒への脅迫 職員への脅迫	X	X	X	X	X	X	X			X	X		X		X	X	X	X	X	X
強盗	強盗	X	X	X	X	X	X	X			X	X		X		X	X	X	X	X	X
性的犯罪	性的犯罪		X		X	X	X				X	X		X		X	X	X	X	X	X
暴力主義的脅迫	テロの脅威 爆弾の脅威	X	X	X	X	X	X	X			X	X		X		X	X	X	X	X	X

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: ハイスクール (続き)

規約違反への対応
ハイスクール

懲罰の選択には、サポート的、前向きな介入と従来型の対応の両方が含まれる。各チャートには、規範違反に対処するために学校関係者が使用できるさまざまなオプションがあり、初期および繰り返し違反した場合の両方が記載されている。

この表をガイドラインとして、FCPS 職員は懲罰を決定する際に、状況を総合的に考慮する裁量権を有する。

クラス III 違反行為

解決方法

サポート的対応

従来型の対応

クラス III

サプライヤー
行動規範
(SCOC)

INFINITE CAMPUS

	同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的实践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ペナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分	停学処分	退学勧告
<u>偽造、変造、詐欺</u>				X		X	X				X		X			X		X	X	
<u>無秩序な行為</u>	X	X			X	X	X		X	X	X		X		X		X	X	X	
<u>他人を危険にさらす</u>		X		X		X	X		X	X			X		X		X	X	X	
<u>喧嘩</u>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X		X		X	X	X	
<u>ギャンブル</u>	X	X	X	X				X			X		X	X		X		X	X	
<u>ハラスメント</u>																				
	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X
<u>規制物質の使用禁止に関するポリシー違反</u>	X		X	X		X		X		X			X	X		X		X	X	X
<u>不適切な性行為</u>		X		X		X	X			X	X		X	X	X	X		X	X	
<u>物的損害または破壊行為</u>		X		X		X	X			X			X			X		X	X	X
<u>窃盗、強盗</u>	X	X		X	X	X	X			X			X			X		X	X	X

5.0 行動管理に関するオプション (続き)

5.03 行動管理表: ハイスクール (続き)

規約違反への対応 ハイスクール		解決方法																			
		サポート的対応										従来型の対応									
<p>懲罰の選択には、サポート的、前向きな介入と従来型の対応の両方が含まれる。各チャートには、規範違反に対処するために学校関係者が使用できるさまざまなオプションがあり、初期および繰り返し違反した場合の両方が記載されている。</p> <p>この表をガイドラインとして、FCPS 職員は懲罰を決定する際に、状況を総合的に考慮する裁量権を有する。</p>		<p>クラス IV 違反行為</p>																			
		サプライヤー 行動規範 (SCOC)	INFINITE CAMPUS	同意または計画	グループ指導	面談、警告、または嚴重注意	家庭と学校の連携	支援と指導	サービスの紹介	修復的実践	今後への期待値再教育	「タイムアウト」または「クールオフ」	47	損害賠償	履修ペナルティ	補習	所有物没収	スケジュールの変更	学校教育特権の拒否	無給の奉仕活動	校内退室処分
アルコールまたは 中毒性物質	アルコール流通 アルコール中毒 アルコールの使用						X				X				X					X	X
放火	放火		X				X	X			X	X			X				X	X	X
暴行	第1級暴行罪 第2級暴行罪 第3級暴行罪 第4級暴行罪		X			X	X	X	X		X								X	X	X
盗難	盗難				X	X	X	X			X	X							X	X	X
危険な器具	危険物	X		X	X	X	X	X	X		X			X	X		X		X	X	X
凶器	武器流通 武器所持 武器使用						X				X				X					X	X
薬物	薬に基づいて選択する		X				X	X			X				X					X	X
恐喝	生徒への脅迫 職員への脅迫	X	X	X	X	X	X	X			X	X			X		X	X	X	X	X
強盗	強盗	X	X	X	X	X	X	X			X	X			X		X	X	X	X	X
性的犯罪	性的犯罪		X		X	X	X				X				X		X	X	X	X	X
暴力主義的脅迫	テロの脅威 爆弾の脅威	X	X		X	X	X	X			X	X			X		X	X	X	X	X

6.0 行動管理手順

生徒の行動規範違反に対処するため、学校の職員が懲罰処分を行う生徒は、州法および／またはフェアアットカウンティ教育委員会の方針に従って、必要に応じて適正な手続きを受ける権利があります。

6.01 適正手続きの保障（非公式）

生徒の監督責任を負う教師または職員によって是正措置が取られるような軽微な違反については、特定の手順は不要だが、次の手順が提案されている。

教師または職員が行うこと：

- 生徒に対する申し立てについて口頭または書面で通知する。
- 適正な期間内に生徒と面談を行う。
- 申し立てを受けた生徒と話し合う。
- 生徒に申し立てに応じる機会を与える。
- 事案解決のために取るべき措置（もしあれば）を決定する。
- 取るべき措置がある場合は、生徒と保護者（必要と判断された場合）に通知する。
- その行動を記録する。

校長またはその被指名人によって是正措置が取られる軽微な違反については、特定の手順は不要だが、懲罰処分の勧告を解消するためには、以下の手順で行われる。

校長またはその被指名人が行う：

- 適正な期間内に生徒と面談を行う。
- 紹介状に含まれる申し立てについて、生徒と話し合う。
- 生徒に申し立てに応じる機会を与える。
- 事案解決のために取るべき措置（もしあれば）を決定する。
- 取るべき措置があれば、紹介者、生徒、保護者に通知する。
- Infinite Campus にその行動を記録する。

6.02 適正手続きの保障（停学処分）

校長、副校長、または最高責任者は、[セクション 4.01](#) に定められた違反に対して生徒を停学にすることができる。

停学期間は、1件につき最長で 10 登校日とすることができる。10 日を超える停学処分は、最高責任者によってのみなされるものとする。

人または財産を保護するために即時停学処分が必要な場合を除き、停学処分の前に適正な手続が与えられるものとする。このような場合、聴聞会はできるだけ早く、いかなる場合でも停学後 3 日以内に開催されなければならない。

生徒が停学の宣告を受けた場合、以下の手順で対応する。

- 生徒には、非公式の聴聞会が行われるものとする。
 - 保護者に連絡を取るために誠実に努力し、連絡は Infinite Campus の連絡記録に記録されるものとする。保護者と電話で連絡が取れない場合は、他のコミュニケーション手段を利用するものとする。（連絡の際には、家族の希望する言語も使用すること。）
 - 生徒は、関係する罪状について口頭または書面で通知されるものとする。
 - 生徒が容疑を否認する場合、その容疑を裏付ける証拠について明確な説明を受けるものとする。
 - 生徒は、告発に対して事実関係を説明する公正な機会を与えられるものとする。
 - 生徒と保護者には、直ちに停学処分について通知するものとする。
 - 管理者は、保護者に停学通知書を発行するものとする。
- 注：この順番は、生徒/家族のニーズによって変わる可能性がある。*

6.0 行動管理手順（続き）

6.02 適正手続きの保障（停学処分）（続き）

- 停学処分通知書の写しは、保護者に送付するものとする。

校長が下した停学処分は、本規定の不服申し立て手続き（[セクション 7.02](#) を参照）に従い、スクールディレクターまたは最高責任者が検討することができる。

注：障害を持つ生徒に関しては、追加の配慮が必要。（[セクション 6.04](#) を参照）

停学処分の条件は、以下のとおりとする。

- 停学中の生徒は、保護者の同伴と管理者の許可がない限り、テクノロジーセンターを含むフェアアットカウンティ公立学校フェアアットカウンティパブリックスクールのいかなる敷地や建物にも入ることは許されない。
- 生徒は、学校のプログラムや行事、授業中や放課後に一切出席・参加することができず、スクールバスにも乗車することができない。
- 全ての補習は、本規定に定められた他の補習と同じ期間内に完了しなければならない。（[セクション 4.02](#) を参照）

注：停学中の条件に違反した場合、さらなる懲罰を課されることがある。

6.03 適正手続きの保障（退学）

フェアアットカウンティ教育委員会のみが生徒を退学させることができる。その場合、退学処分はサービス付き、またはサービスなしのいずれかとなる。

退学処分の勧告は、校長、スクールディレクター、または生徒管理責任者が最高責任者に伝える。

生徒が銃器／爆発物を学校に持ち込んだ場合、退学処分は最長で1暦年間となります（[セクション 4.03](#) 参照）。その他の違反による退学処分は、2学期を超えない範囲で、1学期の日数分まで延長することができる。

生徒が退学の宣告を受けた場合、以下の手順で対応する：

- 勧告は、退学の理由に関連するすべての情報及び資料を記載し、その内容を裏付けるものでなければならない。
- 本件は、スクールディレクターと協議するものとする。
- 最高責任者が勧告内容を検討した後、理事会へ退学を勧告することができる。
- このような勧告を受けた場合、最高責任者は、18歳未満の生徒の保護者に以下を含む書簡を送るものとする。1) 学生に対する告発文 2) 理事会での公聴会の指定日時、場所。
- 生徒と保護者は公聴会に出席することができ、手続き中に弁護士を代理人とすることができる。生徒または保護者が代理人または弁護士による審理を希望する場合、その者の氏名と電話番号を審理前に最高責任者に通知しなければならない。
- 生徒と保護者が、理事会での正式な退学処分の審理を受ける代わりに、生徒の行った行為を認め、その結果として退学処分を受け入れることを希望する場合、そのための手続きが用意されている。この手続きに関する問い合わせは、スクールディレクター、生徒管理責任者、または最高責任者に行うことができる。

6.0 行動管理手順（続き）

6.04 関連通知

保護者面談

生徒が学校またはバスで問題行動を取り続けた場合、管理者は、生徒、保護者、および該当する場合は適切な学校関係者とのミーティングを招集し、議長を務めるものとする。

面談は、保護者の都合のよい時間に設定されるものとする。もし保護者が面談に出席できない場合は、面談の日程を変更するか、保護者が他の方法（電話や別の面談）で学校関係者と話し合うことができる。生徒が短期間に複数の違反行為で送致された場合、保護者との面談は1回で十分な場合もある。そのような会議には、保護者の参加を確実にするためにあらゆる努力を払うものとする。

生徒が問題を起こした理由を特定し、公正、公平、かつ有益な解決策を導き出し、生徒の行動を改善することに焦点を当てるのが、面談の目的である。面談では、生徒は問題について理由を説明し、解決策を提案する機会を与えられるものとする。保護者、学校関係者にも同様の機会を与えられるものとする。生徒の学業および懲罰に関する記録は、会議中に閲覧できるようにする。会議中になされた決定事項の簡潔な文章を生徒の懲罰記録に記載するものとする。すべての決定事項には、生徒のために設定された目標に向けて進展があったかどうかを判断するためのフォローアップが含まれるものとする。

他人の安全を脅かすような行為があった場合は、懲罰処分を行った後に会議を開く必要がある場合がある。

障害のある生徒に対する停学・退学処分について

障害を持つ生徒の懲罰問題に対処する際には、特別な配慮が必要である。この場合、その生徒には個別の行動介入計画（BIP）が適用される場合がある。

不適正な行動に対してさらなる処分が必要な場合、校長は規範に概説されているものを使用する。校外での停学処分の代わりに、校内での停学処分、リセット、補習、土曜日の補習、その他必要かつ適切な方法をとることができる。

停学は、規則に従い、セクション 504 プランまたは ADA プランを持つ障害のある生徒に対して適用されることがある。障害のある生徒が 10 日間の停学処分を受けた場合、ARC 委員会または 504 委員会、その生徒の行動の必要性について話し合う場を設けるものとする。

弁護士の特権

懲罰処分を受けた者は、自己の費用で弁護士を代理人とする権利を有する。

7.0 苦情および上訴

7.01 生徒の苦情

生徒や保護者が教育上の懸念を抱いた場合、Fayette County Board of Education's Grievance Procedure [FCPS 09.4281 AP.1]を用いて苦情を申し立てることができる。学校関係者に対する苦情の申し立て手続きのコピーは、現地校、学校長室（IAKSS）、または www.fcps.net で入手できる。

注：ハラスメントまたは差別の申し立てについては、別の行政救済措置を取らなければならない。（セクション 4.03 を参照）

苦情を受理した場合、これらの手順に従うものとする。

- | | |
|------------------------|--|
| 手順 1 (教師) : | 生徒または親／保護者は、その問題を解決するために教師と協議する。 |
| 手順 2 (校長) : | 生徒または親／保護者との話し合い後、5登校日以内に教師との間で問題が解決しない場合、苦情申立者は校長に通知することができる。 |
| 手順 3
(スクールディレクター) : | 校長の決定が不服な場合、苦情申立者は校長の決定を受け取ってから5登校日以内に、その旨を記した正式な書面をスクールディレクターに提出することができる。 |
| 手順 4 (最高責任者) : | スクールディレクターの決定が不服な場合、苦情申立者はその決定を受け取ってから5登校日以内に、その旨を記した正式な書面を最高責任者に提出することができる。 |
| 手順 5 (委員会) : | 最高責任者によって問題が解決されない場合、生徒または親／保護者は、管理委員会の決定を受けてから5登校日以内に、委員会に対して書面で提訴することができる。委員会は、適正な期間内に、委員会の裁量で、臨時に招集された委員会または定期的に開催される委員会で、その申し立てを聴取するものとする。 |

苦情の手続きの各段階において、指定管理者は、苦情を受け取ってから 5 登校日以内にその決定を生徒または親／保護者に通知するものとする。生徒または親／保護者と管理者が問題を話し合うために面談する場合、管理者は、面談の最後にその決定を生徒または親／保護者に通知する。

7.02 停学処分の異議申し立て

生徒または親／保護者が停学処分に異議を唱える場合、停学処分通知書の日付から5登校日以内に校長、スクールディレクター、または最高責任者に訴えるものとする。異議申し立ての手続きは、上記の苦情申し立てと同じだが、手続きは、停学処分が下されたレベルから始まる。

生徒または親／保護者が停学処分を不服とした場合、生徒は異議申し立ての決定に従って停学日数を消化することができる。停学処分がいかなる上訴レベルでも覆された場合、停学処分に関するすべての記録は生徒のファイルから削除され、生徒は地区の補習方針に従って休んだ分の単位を補うことができるようになる。

8.0 その他情報

地区内の行動管理プロセスに直接的または間接的に関連する可能性のあるその他の情報等には、以下が含まれるが、必ずしもこれらに限定されない：

8.01 電子機器を用いた情報収集

ビデオ監視は、生徒、職員、財産の秩序、安全、安心を守るために使用されることがある。地区内で電子的な監視の対象となる可能性のある地域には、以下のものが含まれるが、この限りではない。

- **学校：** 校舎内や校舎周辺では、監視カメラが使用されている場合がある。映像は各学校で管理をしている。
- **バス：** フェイアットカウンティパブリックスクールのすべてのバスには、デジタル・ビデオカメラが装備されている。ビデオはカラーで、音声も含まれている。これらのビデオ録画は、バスで発生した出来事や行動の責任を記録するために使用されることがある。

8.02 保護者・非親権者による登録について

学校における児童の居住地は、必ずしも親の居住地である必要はなく、児童の父母の代わりに親代わりとなる者が定住している場合は、学校における児童の居住地はその者と同一となる。

すべての生徒は、地理的な通学区域によって割り当てられ、居住地を管轄する指定された学校に通学するものとする。共同親権の場合、生徒は、子供が主に居住する保護者の居住地を管轄する地域に割り当てられる。裁判所の命令により、子供の時間を保護者の間で半分ずつに分ける場合、保護者は指定された2校のうちどちらに通うかを選ぶことができる。

非親権者または非保護者が生徒をフェイアットカウンティパブリックスクールに入学させる際の公証書（Notarized Statement at Enrollment）は、親権者が子供を非親権者または非保護者と同居させる際に使用するもの。義務教育法では、学齢児童の「親権者または監護者」の登録が義務付けられているため、この Notarized Statement at Enrollment は、子供が非親権者または非保護者のもとに住んでいる場合、教育を受ける目的で使用される。

この権限には、入学、医療、成績、課外活動、学校の送迎、緊急連絡票の作成、遠足の決定、交通手段の決定、懲罰処分、出席問題、その他あらゆる教育的事項が含まれるが、これらに限定されるものではない。この権限に基づき、子供が保護者の居住地の指定された学校に通う場合、子供は親権者、担当者、または後見人と同居することが義務づけられている。生徒の親権者、担当者、後見人は、すべての法的小および教育的決定を行うだけでなく、医療または教育上の決定に伴う法的結果、および不登校問題に対して法的責任を負います。

入学時の公正証書は、親権者、生徒が18歳になったとき、またはその他の法的な状況により無効になることがある。さらに、生徒の親権者または担当者は、「親権または担当の放棄」に必要な事項を記入して署名し、生徒の累積フォルダーに放棄書を入れてもらうことで、いつでも生徒に親権または担当権がないことを学校に通知することができる。その場合、子供は、親権を持つ親、またはその後には生徒の親権または管理を引き受けた人の居住地に指定された学校に通う必要がある。入学時の公証書式に記入することで、学校の国勢調査のファイルに、親ではなく、親権者または担当者が記載されることになる。

8.0 その他情報（続き）

8.03 エリア外への割り当て

すべての生徒は、地理的な通学区域によって学校が指定されており、生徒は、居住地に指定された学校に通うことが求められている。地域外の認可は、通学区域の変更によって希望する学校が過密状態にならない場合に限り、以下の条件の下で検討される。：

居住地を移動する家族：

- 5年生、8年生、12年生の生徒がある通学区域から別の通学区域に移動した場合、その学年を修了するまで元の居住地の学校に在籍し続けることができます。生徒は、地域外からの要望同意書の提出が必要。
- フェイアットカウンティパブリックスクール内にある通学区域から別の通学区域に転居した子供の家族は、その生徒が現在在籍している学校で学年を終えることができる。次の学年度には、その生徒は居住地を管轄する学校に入学しなければならない。生徒は、地域外要望同意書を提出する必要がある。
- 10月31日以前にフェイアットカウンティパブリックスクールの通学区域から別の通学区域に引越す予定の生徒は、その家族が引越す予定の通学区域の学校で学年を始めることができる。

地区の職員：

フェイアットカウンティパブリックスクールに半日以上勤務している保護者の子供は、保護者が勤務している学校またはキャンパスに通うことができる。

兄弟姉妹：

現在、希望する学校に在籍している兄弟姉妹がいる生徒。

注：校長は、地域外派遣を許可された生徒が、毎日の規則正しい出席、容認できる行動、十分な学力向上など、指定された条件を遵守しているかどうかを、更新が許可される前に評価するものとする。

8.04 身体拘束と隔離

身体拘束と隔離は、緊急安全措置の最後の手段である。

身体的拘束とは、生徒の胴体、腕、脚、頭を自由に動かすことができなくなるような身の回りの制限を意味する。

すべての学校関係者が身体拘束を行うのは、明らかに避けられない緊急事態において、生徒の行動が自分や他人を身体的に傷つける差し迫った危険性をもたらす場合である。このような場合、学校関係者は安全な危機管理（SCM）の資格を持つ職員をできるだけ早く呼ばなければならない。

隔離は、生徒が自制心を取り戻すための機会を提供する、緊急安全措置である。隔離とは、生徒を部屋や外出できない場所に一人で強制的に閉じ込めておくことである。隔離は、教室でのタイムアウト、監視下での補習、校外での停学を意味しない。

手続きと要件は、FCPS Board Policy 09.2212 (<http://www.fcps.net/administration/board-of-education/policies>) を参照する。

8.0 その他情報（続き）

8.05 認可スポーツと不認可スポーツ

現在、Kentucky High School Athletic Association (KHSAA) と Fayette County Board of Education によって認可され、管理されている学内でのスポーツには、アーチェリー、野球、バス釣り、ボーリング、バスケットボール、競技チアリーディング、クロスカントリー、ダンス、サッカー、ゴルフ、ファストピッチ ソフトボール、水泳、ダイビング、テニス、陸上、バレーボール、レスリング（「公認スポーツチーム」）などがある。

ミドルスクール／ハイスクールとつながりがあるように見えるクラブやスポーツチームもあるが、参加者や選手の多く、あるいは全員がミドルスクール／ハイスクールや学区内の他の学校に通っていても、また、スポンサーやコーチが理事会の職員であっても、そうした組織は、ハイスクール／ミドルスクール、地区、KHSAA から独立して運営されている。そのようなクラブの参加者やスポーツチームの選手は、学生スポーツ保険や KHSAA の災害保険の対象とはならない。

このようなチームへの参加は、そのスポーツに熟練し、かつ／または知識があると自称する個人への接触や監督を含むが、特定のスポーツの専門知識を有するか否かは問わない。さらに、フェイアットカウンティパブリックスクールの職員やボランティアは、生徒との接触や監督を許可される前に、身元調査や犯罪歴の確認が必要であるが、チームに関わる個人は、チームメンバーと関わる前に、犯罪歴調査を含む身元調査の対象とはならない場合がある。

軽傷であれ重症であれ、身体接触を伴うスポーツには常に怪我の可能性が存在する。

スポーツが身体的接触そのものを伴わない場合でも、練習および／または団体に関連する既知および未知のさまざまな特有のリスクが含まれることがある。生徒と親／保護者は、チームのプレーヤーに必須の健康診断がない場合もあり、チームの練習セッションや試合に医師やトレーナーがいない場合もあることを認識しておく必要がある。

参加は、学校の敷地内または敷地外で行われ、練習、試合、ミーティング、その他の行事（パーティー、募金活動など）、これらの活動への送迎、宿泊旅行などが含まれる。

各学校での活動については、校長までお問い合わせください。

8.06 生徒や生徒の持ち物検査について

権限のある職員（校長または生徒の行動に直接責任を負うことを認められた者と定義する）は、生徒が校則、理事会の方針、または法律に違反したことを示す証拠を調べる必要がある場合、生徒、その生徒の所持品、ロッカー、机、自動車、電子機器を検査する権利を有する。生徒の身体検査は、校長または被指名人の明示的な権限によってのみ実施されるものとする。搜索の目的は、他者の安全と財産を守ることである。さらに、学校と生徒が共同で使用しているロッカーや机などの学校の所有物は、学校の継続的な教育プロセスを維持するために、定期的に搜索することができる。ただし、学校関係者が生徒を身体検査することは一切認めない。

本校の施設に入る生徒や訪問者は、金属探知機やスクリーンを含む審査や持ち物検査を受けることがある。これは、安全で安心できる学習環境を提供することを目的とした、学校職員による管理上の検査である。犯罪捜査のように発見して逮捕するためのものではない。注意：私たちの施設に禁制品を持ち込んだ場合、その人物/職員は、法的措置を含む刑事懲戒処分の対象となる可能性がある。

本規定は、生徒が固定式または携帯式の電子検査用検出器にかけられることを妨げるものではない。検出器からの肯定的な信号または応答は、より踏み込んだ捜査のための正当な理由となる。

委員会が所有または管理する敷地内で、禁止されている違法な物質／物品／材料を見つけるために、訓練された犬を利用することができる。訓練された犬がある物質あるいは場所に反応した場合、さらなる搜索の根拠となる妥当な理由と見なされるものとする。

注：学校関係者は、相応の疑いを明確に示すことができなければならない。

8.0 その他情報（続き）

8.07 生徒の退学条件

18歳の生徒が退学して学習を終了することを希望する場合、以下、双方の手順を踏んだ後にのみ退学することができる。

- 生徒からの退学届は、書面にて学校が受理すること。
- 18歳以上の生徒の退学には、所定の書式に記入する必要がある。

退学時には、その1部を生徒の成績表フォルダに保存するものとする

9.0 年次報告書および通知書

9.01 家族の教育上の権利及びプライバシー法 FERPA/KFERPA

1974年家族の教育上の権利及びプライバシー法("FERPA")およびKRS 160.700("KFERPA")に基づき、18歳以上の生徒、または生徒が18歳未満もしくは保護者の扶養家族の場合はその保護者は、以下の権利を有します：1) 生徒の教育記録を照会する権利、2) 記録に含まれる誤解を招く記述や不正確な記述に異議を唱え、そのような記述の削除や訂正を要求すること。生徒の記録へのアクセスにおいて、「保護者」は以下のように定義される。記録に含まれる誤解を招く記述や不正確な記述に異議を唱え、そのような記述の削除や訂正を要求すること。生徒の記録へのアクセスにおいて、「保護者」は以下のように定義される。「実の親、保護者、合法的な親権者、または親や保護者がいない場合に生徒の親代わりとなる人」実の親の**いずれかが**、この方針に固有の権利を行使する権限を持つ。ただし、これと明確に異なることを定めた裁判所の命令が学校に提供されている場合は、この限りではない。

「教育記録」とは、フェアアットカウンティパブリックスクールが収集、維持、使用する生徒に直接関連する文書やその他の資料のことである。これには、他の機関や、フェアアットカウンティパブリックスクールに代わって生徒のために何らかのサービスを行なった者が保持する記録も含まれる。教育記録には、以下のものが含まれるが、これらに限定されるものではない。1) 個人と家族のデータ 2) 適性、達成度、知能、性格、行動観察、その他の診断情報を含む評価とテストのデータ 3) 医療、心理、事例報告(他人と共有している場合) 4) 学校の達成度と進捗状況の報告に関するすべての記録 5) 生徒用ポートフォリオ 6) すべての懲罰記録 7) 生徒および/または保護者との面談記録 8) 生徒に関する通信の写し 9) 生徒を撮影した写真またはビデオ記録 10) その他、生徒との活動に使用する、あるいは連邦および州の規則が要求する情報またはデータ。

学校の職員、許可されたボランティア、請負業者、ベンダー、および連邦法で認められたその他の特定の機関を除き、生徒が18歳の場合は生徒の、生徒が18歳未満または保護者の扶養家族の場合は保護者の、または正式に発行された裁判所の命令がない限り、いかなる者も生徒の教育記録を閲覧または評価することはできない。

要請があれば、地区は、生徒が入学を希望する、あるいは入学しようとする他の地区の職員に、同意なしに記録を開示することができる。

「名簿情報」とは、公立学校が保管する教育記録に含まれる、生徒の氏名、住所、電話番号リスト、誕生日、出生地、学校が認めたスポーツや活動への参加、スポーツチームのメンバーの身長と体重、出席日、受賞歴、専攻分野、生徒が最後に通った教育機関や団体を指す[KRS 160.700(1)]。名簿情報には、教育記録は含まれない。

名簿情報は、報道機関、スポーツ協会、高等教育機関、奨学金委員会、大学入学者選抜委員会、または公的機関に対し、データの必要性が正当な教育利益と目的に結びつく場合にのみ、書面による要請に応じて公開されるものとする。名簿情報は、最高責任者またはその被指名人の許可を得て、公的な法執行機関に開示することができる。学区は、各学年の10月1日までに、あるいは10月1日以降であれば入学後30日以内に、書面で反対の通告を受けない限り、名簿情報を開示することができる。名簿情報には、以下のものが含まれる。1) 氏名、住所、電話番号、生年月日、2) 公的に認められた活動やスポーツへの参加状況(体重、身長を含む)、3) フェアアットカウンティパブリックスクール内での出席日、4) 単位取得、卒業証書、特別表彰(成績優秀者、テスト成績優秀者などを含むが、これらに限らない) 5) フェアアットカウンティパブリックスクールに入学前の最後の教育機関(FEPS 秘密保持・差別の禁止ハンドブック www.fcps.net 参照)。名簿情報には、教育記録は含まれない

9.0 年次報告書および通知書（続き）

9.01 家族の教育上の権利及びプライバシー法 FERPA/KFERPA（続き）

軍隊のリクルーター：現在の法律では、米軍の採用担当者は、ミドルスクール、ハイスクールの生徒の名前、住所、電話番号を知ることができる。親／保護者または生徒は、この情報を公開しないことを選択することができる。募集担当者が生徒の情報を受け取らないよう要請するには、「**Release of Information to Military Recruiters Opt-Out Form**」（各ハイスクールで入手可能。[セクション 10.03](#)）**指定の書類に記入し、最高責任者に提出する。**オプトアウトの要請は、保護者または生徒が取り消さない限り有効である。

各親／保護者および資格を有する生徒は、委員会方針 **09.14** に規定されている生徒の記録を閲覧する権利が不当に拒否されたと感じた場合、米国教育省に書面による苦情を提出する権利を有する。

各親／保護者および資格のある生徒は、理事会方針 **09.14** および生徒の記録に関する **FCPS 機密保持・差別の禁止ハンドブック**のコピーを地区のウェブサイト www.fcps.net で閲覧することができる

内容に対する取り組み／記録の正確さ：生徒の記録に含まれる情報が不正確である、誤解を招く、あるいは生徒のプライバシーやその他の権利を侵害するとして、その内容や正確さに異議を唱える場合、指定の書式 **SRF 119**（校長室で入手可能）に記入し、生徒の親／保護者または有資格者に、「**審理官**」として指名された適切な管理者によって行われる審理の機会が与えられないといけない。聴聞会は、最高責任者がそのような聴聞会の要請を受け取ってから適切な期間内に開かれ、生徒または親／保護者または有資格者の保護者は、聴聞会の日時、場所、時間に前もって通知を受けるものとする。

生徒または親／保護者または資格のある生徒の保護者には、問題に関連する証拠を提示する十分かつ公正な機会が与えられるものとし、自費で弁護士を含む本人の選択する人物によるサポートまたは弁護を受けることができるものとする。

聴聞の結果、委員会が、聴聞担当者を通じて、情報が不正確でない、誤解を招く、あるいは生徒のプライバシーやその他の権利に反していないと判断した場合、委員会は、親／保護者または対象の生徒に、教育記録の情報に対してコメントする声明、あるいは聴聞担当者の決定に反対する理由を記載した声明を生徒の教育記録に入れる権利を通知するものとする。

生徒の学習記録に記載された説明は、その記録または論争中の部分が委員会によって管理されている限り、生徒の学習記録の一部として委員会が管理するものとする。生徒の学習記録またはその争点となった部分が委員会により関係者に開示された場合、その説明もその関係者に開示されるものとする。

聴聞官は、聴聞の終了後、その決定を適切な期間内に書面で行うものとする。[34 CFR § 99.22(e)]

聴聞官の決定は、聴聞会で提示された証拠のみに基づくものとし、証拠の要約および決定の理由を含むものとする。

親／保護者、および対象の生徒は、自分たちの権利が侵害されたと思う場合、次のところに苦情を申し立てることができる：

Family Policy Compliance Office
U.S. Department of Education
400 Maryland Avenue SW
Washington, D.C. 20202
(202) 260-3887 (VOICE)
(800) 877-8339 (TDD)

9.0 年次報告書および通知書（続き）

9.02 児童の権利保護

1998年の生徒の権利保護に関する修正法（PPRA）に基づき、親／保護者と対象の生徒は、調査、分析、侵襲的な健康診断やスクリーニング（聴覚、視覚、脊柱側湾症スクリーニングを除く）、または保護情報を開示する評価への協力を拒否できるよう通知され、その機会が与えられるものとします。これは、第三者がマーケティング目的で生徒の情報を収集、開示、使用する場合にも適用される。親／保護者または対象の生徒は、書面による要請があれば、保護情報の収集、開示、または使用される資料または手段を、投与または使用前に閲覧することができます。

連邦政府のPPRAは、マーケティングおよび所定の身体検査を目的とした情報の調査、収集、および使用に関し、両親に所定の権利を付与します。これには以下の権利が含まれます。：

- 調査の全体または一部が米国教育省（ED）のプログラムにより資金供与を受けている場合、以下の保護分野（「保護情報調査」）の1つかそれ以上に関する調査に対する生徒の事前承諾の権利。
 - 生徒または生徒の親／保護者の政治的な所属や信条；
 - 生徒または生徒の家族の精神的または心理的な問題；
 - 性行動または性に対する態度；
 - 違法行為、反社会的行為、自らを有罪に導く行為、または自分を卑しめる行動；
 - 近い親族関係を持つ者に関して、回答者が行った批判的な評価；
 - 弁護士、医師、聖職者などとの合法的特権的關係；
 - 生徒または生徒の親／保護者の宗教的な習慣、信仰宗教、または信条；
 - 収入（ただし、プログラムの参加資格を決定するために法律で義務付けられている場合を除く）；
- 生徒が以下の事柄を見合わせるための通知と機会を得る権利：
 - 資金供与にかかわらず、他の保護された情報の調査；
 - 学校またはその代理人により管理され、生徒の現在の健康と安全を守るためには必要ないが、出席の条件として求される、緊急を要しない、侵襲的身体検査またはスクリーニング。ここでは、聴力、視力、脊柱側湾症のスクリーニング、または州の法律に基づき、許可あるいは義務付けられている身体検査やスクリーニングは除く；
 - 生徒から入手した個人情報をマーケティングまたは販売もしくは他者への流通のために収集、開示または使用することを含む活動；
- 依頼後および管理あるいは使用の前に以下の事柄を検査する権利：
 - 生徒の保護された情報の調査；
 - 上記のマーケティング、販売、またはその他の配布を目的として生徒から個人情報を収集するために用いられる手段；
 - 教育カリキュラムの一部として使用される教材

また、地区は、少なくとも毎年、各学年の初めに、親／保護者および対象の生徒に、上記の活動の具体的な日程またはおおよその日程を通知するものとする。通知は、生徒がこれらの活動への参加の拒否ができる機会を提供する。

親／保護者、および対象の生徒は、自分たちの権利が侵害されたと思う場合、次のところに苦情を申し立てることができる：

Family Policy Compliance Office
U.S. Department of Education
400 Maryland Avenue SW
Washington, D.C. 20202-4605

9.0 年次報告書および通知書（続き）

9.03 差別の禁止

フェイアットカウンティパブリックスクールは、人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、性同一性、性的指向、障害、あるいは、1964年公民権法第6章と第7章、1972年教育改正法第9章で規定されている連邦法または州法のその他の根拠に基づいて差別しないことを方針としている。1997年および2004年障害者教育法（IDEA）、1973年リハビリテーション法第504条、1990年障害を持つアメリカ人法（ADA）、2008年ADA改正法（ADAAA）、1987年マッキニー=ベント ホームレス援助法（McKinney-Vento Homeless Assistance Act of 1987）が定めるとおりである。上記の法律の遵守に関するお問い合わせは、下記までお願いします：

Civil Rights Compliance Officer
Fayette County Public Schools
701 E. Main St.
Lexington, KY 40502
(859) 381-4318

また、お問い合わせは、下記までお願いします：

Office of Civil Rights
U.S. Department of Education
400 Maryland Ave. SW
Washington, DC 20202-4605

9.0 年次報告書および通知書（続き）

9.04 特別支援教育と児童養護施設

連邦法および州法を遵守し、フェアアットカウンティパブリックスクールは、学区内の就学前の子供および学齢期の障害認定を受けた子供に対し、最も制約の少ない環境（LRE）で無償で適切な公教育（FAPE）を提供している。また、連邦法および州法に基づき、学校は、ホームレスの子供、州の被後見人、私立学校に通う障害のある子供など、学校管轄区域内に住む障害のある子供で、障害の程度に関係なく、特別教育および関連サービスを必要とするすべての子供を特定、所在、評価する包括的な児童福祉プログラムを行っている。

特別支援教育および関連サービスの紹介は、親／保護者、学校関係者、または地域の人々によって行われることがある。詳しくは、クラス担任の先生、特別支援教育の先生、カウンセラー、校長、または特別支援教育担当の先生にお問い合わせください。

その他、親／保護者の方に役立つ情報源は以下の通りです。：

Director of Special Education
Fayette County Public Schools
701 E. Main St.
Lexington, KY 40502
(859) 381-4171
State of Kentucky
Department of Education
Special Education Services
<http://education.ky.gov/specialed/excep/Pages/default.aspx>

9.0 年次報告書および通知書（続き）

9.05 公的給付または保険（医療費補助）の利用

34 CFR §300.15(d)(2)(iv) に基づく、地区による公的給付または保険（医療費補助）の使用に関する保護者の同意の年次通知書

障害者教育法（IDEA）として知られる連邦特別教育法は、IDEA の生徒の保護者に、学区による医療費補助などの公的給付や保険の利用に関連する一定の権利を与えています。

学区は、学校で提供される特定のサービスの費用に公的給付または保険を使用してもよいかどうか保護者に確認することがあります。IDEA は、この点について次のような権利を規定しています：

◆**親は、この通知を理解できる言語で受け取る権利があります。**

すなわち、年次通知は、明確な言葉で書かれていなければなりません。また、明らかに実用的でない場合を除き、保護者の母国語または保護者が使用するその他のコミュニケーション手段で通知を提供しなければなりません。

◆**お子様の秘密情報が開示される前に、保護者の方の同意が必要です。**

学区は、個人を特定できる情報を州の公的給付または保険制度（医療費補助）の担当機関に開示する前に、34 CFR Part 99 にある家庭教育の権利及びプライバシー法（FERPA）と 34 CFR 300.622 にある IDEA に基づいて、保護者の同意を得る必要があります。

◆**IDEA の対象となる子どもは、保護者に負担をかけずに特別教育および関連サービスを受ける権利があります。**

IDEA の対象となる子供に無償で適切な公教育（FAPE）を提供するために必要なあらゆるサービスについて、学区は、以下を行います：

- 子供が無償で適切な公教育（FAPE）を受けるために、保護者が公的な給付や保険制度に加入することを要求してはならない。
- 学校で提供されるサービスに対して、免責金額や自己負担額の支払いなど、保護者の自己負担を求めないこと。しかしながら、保護者がそのサービスに対して支払わなければならないはずの費用を地区は、負担することができます。
- 子供の公的な給付や保険を利用する場合は、利用しないことができる。

✓利用可能な生涯保障またはその他の給付を減少させる；

✓通常、公的給付や保険で賄われている、子供が学校以外で必要とするサービスの費用を家族に負担してもらう。

✓保険料の増加、または公的給付もしくは保険の廃止につながる。

✓総医療費が高額になるため、ホーム・アンド・コミュニティベースド・ウェイバー・プログラム（HCBW）の受給資格を失う可能性がある。

◆**保護者は、いつでも子どもの機密情報の開示に対する同意を撤回することができます。**

◆**保護者が同意を拒否または撤回した場合、学区は、引き続き、保護者の費用負担なしに必要なサービスを提供しなければならない。**

たとえ保護者の公的給付や保険が使えなくなったとしても、学区は子供に無償で適切な公教育（FAPE）を提供する責任があり、必要なサービスを提供しなければなりません。

10.0 申請用紙

10.01 FERPAディレクトリ情報開示拒否申請

フェアットカウティパブリックスクール

FERPA ディレクトリ情報オプトアウト届出書

全生徒対象

このフォームに必要事項を記入し、プライバシー保護の申請をしてください。

地区は、生徒の氏名、住所、E メールアドレス、電話番号、誕生日、出生地、公式に認められた活動やスポーツへの参加に関する情報、生徒の体重と身長（スポーツチームのメンバーの場合）、生徒の出席日、学年、栄誉と受賞、写真（ビデオ記録を除く）、専攻分野を「ディレクトリ情報」と称し、家庭教育の権利及びプライバシー法（「FERPA」）に守られています。本人の同意なしにこれらの情報が公開される可能性があります。もし、ディレクトリ情報を請求された場合に、この情報を公開したくない場合は、親／保護者または対象の生徒（18 歳以上）がこのフォームに署名し、入学後 1 ヶ月以内に学校事務局に返送する必要があります。この開示拒否申請は、現学年度のみ有効です。

私は、州法および連邦法に基づく権利を行使し、現在 _____（学校名）の生徒である _____（生徒名）の氏名、住所、電子メールアドレス、電話番号、誕生日および出生地、公式に認められた活動およびスポーツへの参加に関する情報、生徒の体重および身長（スポーツチームのメンバーの場合）、出席日、学年、栄誉と受賞、写真（ビデオ記録を除く）および専攻分野を、事前に書面による同意なく公開しないことをここに要請します。

私は、この開示拒否申請が現学年度のみ有効であることを理解し、了解します。

私は、写真やディレクトリ情報などの出版物から私の児童が除外されること、また、私の児童の情報が、劇のプログラム、イヤーズブック、ウェブサイト、ニュースレター、新聞などの地区の出版物を含むいかなる形式でも公表されないことを理解しています。

署名者（1 つにチェック）： _____ 対象の生徒 _____ 親／保護者

_____ 署名

_____ 名前 (ブロック体でご記入ください)

_____ 住所

_____ 市／州／郵便番号

この書式に適用される連邦法および州法の説明については、本規定の 9.01 項を参照してください。

10.0 申請用紙（続き）

10.02 メディア掲載拒否申請

フェアアットカウンティパブリックスクール

メディア掲載オプトアウト届出書

全生徒対象

フェアアットカウンティパブリックスクール (FCPS) 教育アクセスチャンネル、FCPS ウェブサイト、または地元のニュースメディアで、あなたのお子さまやお子さまの作品を公開しないことを希望する場合は、このフォームにご記入ください。

フェアアットカウンティパブリックスクールの生徒は、学業、舞台芸術、視覚芸術、陸上競技において、素晴らしい才能を持ち、目覚ましい成果を上げています。年間を通して、個々の生徒、学校関連団体、学校の業績に関連した積極的な広報の機会があるかもしれません。このような積極的な広報活動の例としては、学校のニューズレター、チャンネル 13 の放送、特集記事、発表、www.fcps.net の写真、学校区の出版物、地元の印刷物、放送、ラジオのメディアによる報道などがあります。

写真、記事、オーディオ/ビデオ放送、インタビューなどで、お子さまやその作品が公になることを望まない場合、生徒または親／保護者はこの用紙に署名し、入学後 1 ヶ月以内に学校事務局に返送する必要があります。この掲載拒否申請は、現学年度のみ有効です。

生徒の氏名: _____

親／保護者の氏名: _____

親／保護者の署名: _____

日付: _____

10.0 申請用紙 (続き)

10.03 米軍隊員募集の拒否申請

フェイアットカウンティパブリックスクール

米軍隊員採用のオプトアウト届出書

ハイスクールの生徒のみ対象

このフォームに必要事項を記入し、プライバシー保護の申請をしてください。

現在の法律では、米軍の採用担当者はミドルスクール、ハイスクールの生徒の名前、住所、電話番号を入手することができます。親、保護者、生徒は、この情報を公開しないことを選択することができます。

採用担当者が生徒の情報を受け取らないよう希望する場合は、このフォームをフェイアットカウンティパブリックスクールの最高責任者宛てにこの届出書を送付してください。

Superintendent's Office of Fayette County Public Schools

1126 Russell Cave Road, Lexington, KY 40505

このオプトアウトの届出は、保護者または生徒によって取り消すまで有効です。

米軍採用オプトアウト保護者フォーム

私は、私の息子または娘の情報が米軍の採用担当者に開示されることを拒否させていただきたいと思います。私は、フェイアットカウンティパブリックスクールに書面で通知し、このオプションを取り消すまで、このオプションが有効であることを理解します。

日付: _____

生徒の氏名: _____

現在の学年: _____

生徒の学校名: _____

親/保護者氏名: _____

署名: _____

米軍採用オプトアウト生徒フォーム

私は、私の情報が米軍採用担当者に開示されないことを希望します。私は、フェイアットカウンティパブリックスクールに書面で通知し、このオプションを取り消すまで、このオプションが有効であることを理解しています。

日付: _____

生徒の氏名: _____

現在の学年: _____

生徒の学校名: _____

署名: _____

スクール／プログラムお問合せ先

フェイアットカウンティパブリックスクール

Primary mailing address: 1126 Russell Cave Road, Lexington KY 40505
 Physical address of district headquarters: 450 Park Place, Lexington, KY 40505

エレメンタリースクール

Academy for Leadership at Millcreek	1212 Reva Ridge Way, 40517	(859) 381-3527
Arlington	122 Arceme Avenue, 40505	(859) 381-3030
Ashland	195 N. Ashland Avenue, 40502	(859) 381-3243
Athens-Chilesburg	930 Jouett Creek Drive, 40509	(859) 381-4955
Booker T Washington	707 Howard Street., 40508	(859) 381-3263
Breckinridge	2101 St. Mathilda Drive, 40502	(859) 381-3273
Brenda Cowen	4801 Athens Boonesboro Road, 40509	(859) 381-2990
Cardinal Valley	218 Mandalay Road, 40504	(859) 381-3340
Cassidy	1125 Tates Creek Road, 40502	(859) 381-3018
Clays Mill	2319 Clays Mill Road, 40503	(859) 381-3355
Coventry Oak	2441 Huntly Place 40511	(859) 381-3195
Deep Springs	1919 Brynell Drive, 40505	(859) 381-3069
Dixie Magnet	1940 Eastland Parkway, 40505	(859) 381-3116
Garden Springs	2151 Garden Springs Drive, 40504	(859) 381-3388
Garrett Morgan	1150 Passage Mound Way 40509	(859) 381-3165
Glendover	710 Glendover Road, 40502	(859) 381-3403
Harrison	161 Bruce Street, 40507	(859) 381-3418
James Lane Allen	1901 Appomattox Road, 40502	(859) 381-3456
Julius Marks	3277 Pepperhill Road, 40502	(859) 381-3470
Lansdowne	336 Redding Road, 40517	(859) 381-3500
Liberty	2585 Liberty Road, 40509	(859) 381-4979
Mary Todd	551 Parkside Drive, 40505	(859) 381-3512
Maxwell Spanish Immersion Magnet	301 Woodland Avenue, 40508	(859) 381-3516
Meadowthorpe	1710 N. Forbes Road, 40511	(859) 381-3521
Northern	340 Rookwood Parkway, 40505	(859) 381-3541
Picadome	1642 Harrodsburg Road, 40504	(859) 381-3563
Rosa Parks	1251 Beaumont Centre Lane, 40513	(859) 381-3132
Russell Cave	3375 Russell Cave Road, 40511	(859) 381-3571
Sandersville	3025 Sandersville Road, 40511	(859) 381-4980
Southern	340 Wilson Downing Road, 40517	(859) 381-3589
Squires	3337 Squire Oak Drive, 40515	(859) 381-3002
Stonewall	3215 Cornwall Drive, 40503	(859) 381-3079
Tates Creek	1113 Centre Parkway, 40517	(859) 381-3606
Veterans Park	4351 Clearwater Way, 40515	(859) 381-3161
Wellington	3280 Keithshire Way, 40503	(859) 381-3000
William Wells Brown	555 E. Fifth Street, 40508	(859) 381-4990
Yates	695 East New Circle Road, 40505	(859) 381-3613

ミドルスクール

Beaumont	2080 Georgian Way, 40504	(859) 381-3094
Bryan Station	1865 Wickland Drive, 40505	(859) 381-3288
Crawford	1813 Charleston Drive, 40505	(859) 381-3370
Edythe J. Hayes	260 Richardson Place, 40509	(859) 381-4920
Jessie M. Clark	3341 Clays Mill Road, 40503	(859) 381-3036

スクール／プログラムお問合せ先（続き）

Leestown	2010 Leestown Road, 40511	(859) 381-3181
Lexington Traditional Magnet	350 N. Limestone, 40508	(859) 381-3192
Morton	1225 Tates Creek Road, 40502	(859) 381-3533
SCAPA at Bluegrass	400 Lafayette Parkway, 40503	(859) 381-3332
Southern	400 Wilson Downing Road, 40517	(859) 381-3582
Tates Creek	1105 Centre Parkway, 40517	(859) 381-3052
Winburn	1060 Winburn Drive, 40511	(859) 381-3967
ハイスクール		
Bryan Station	201 Eastin Road, 40505	(859) 381-3308
Frederick Douglass	2000 Winchester Road, 40509	(859) 381-3780
Henry Clay	2100 Fontaine Road, 40502	(859) 381-3423
Lafayette	401 Reed Lane, 40503	(859) 381-3474
Paul Laurence Dunbar	1600 Man O' War Boulevard, 40513	(859) 381-3546
Tates Creek	1111 Centre Parkway, 40517	(859) 381-3620
テクニカルセンター		
Eastside Technical Center	2208 Liberty Road, 40509	(859) 381-3740
Locust Trace AgriScience Center	3591 Leestown Road, 40511	(859) 381-3990
Southside Technical Center	1800 Harrodsburg Road, 40504	(859) 381-3603
その他のアカデミックプログラム		
Carter G. Woodson Academy	1813 Charleston Drive, 40505	(859) 381-3933
Carter G. Woodson Preparatory Academy	123 East Sixth Street, 40508	(859) 381-4670
Martin Luther King Jr. Academy	2200 Liberty Road, 40509	(859) 381-4040
Opportunity Middle College	470 Cooper Drive, 40506	(859) 246-6379
RISE STEM Academy	2420 Spurr Road, 40511	(859) 381-4741
The Stables	4089 Iron Works Pike, 40511	(859) 381-4312
STEAM Academy	123 East Sixth Street, 40508	(859) 381-3033
Success Academy	2420 Spurr Road, 40511	(859) 381-3795
The Learning Center (TLC)	475 Price Road, 40508	(859) 381-0597
Virtual Learning Academy	1126 Russell Cave Rd, 40511	(859) 381-4683
バス交通機関の連絡先		
Miles Point Terminal	Transportation Manager	(859) 381-3870
	Dispatcher	(859) 381-3866
	Fax	(859) 381-3864
Liberty Road Terminal	Transportation Manager	(859) 381-4505
	Dispatcher	(859) 381-4304
	Fax	(859) 381-4305
Routing	Supervisor	(859) 381-3859
	Special Education	(859) 381-3860
	Preschool	(859) 381-3861
	CBI & Activities	(859) 381-3862
	Fax	(859) 381-3863
その他の連絡先		
Field Trips		(859) 381-3855
Safety\Training\Driver Applications		(859) 381-4504

フェアットカウンティ 教育委員会

Tyler Murphy 委員長
Amy Green 副委員長

Stephanie Aschmann Spires
Tom Jones
Christy Morris

Dr. Demetrus Liggins 最高責任者

www.fcps.net

イコール オポチュニティー スクール ディストリクト

